

館報 1999 48

ANNUAL REPORT

OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団 ブリヂストン美術館
石橋財団 石橋美術館

館報 1999 48

ANNUAL REPORT
OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団 ブリヂストン美術館
石橋財団 石橋美術館

館報48号(1999年度)

編集・発行

石橋財団ブリヂストン美術館
〒104-0031 東京都中央区京橋1-10-1

石橋財団石橋美術館
〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015

制作
瞬報社

2001年3月発行

Annual Report of Bridgestone Museum of Art &
Ishibashi Museum of Art No.48 (1999)

Edited and published by

Bridgestone Museum of Art, Ishibashi Foundation
10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan

Ishibashi Museum of Art, Ishibashi Foundation
1015, Nonaka-machi, Kurume-shi, Fukuoka-ken 839-0862, Japan

Creative direction by Shun-po-sha Inc.

©2001
Bridgestone Museum of Art,
Ishibashi Museum of Art,
Ishibashi Foundation

目次 Contents

1 設立趣旨,機構・運営	4
Brief Histories of the Museums, Organization and Management	
2 展覧会	
ブリヂストン美術館	
●特集展示	6
●コーナー展示	12
石橋美術館	
●特集展示	13
石橋美術館別館	
●特別展示	18
3 教育普及	
●ブリヂストン美術館	20
●石橋美術館・石橋美術館別館	24
4 入場者数	26
5 新収蔵作品 New Acquisitions	27
6 新収図書	40
7 修復記録	41
8 作品貸出記録	
●ブリヂストン美術館	49
●石橋美術館	51
9 刊行物一覧	52
10 リニューアル(ブリヂストン美術館)	57
11 地震対策(ブリヂストン美術館)	64
12 研究報告	69
13 個人活動記録	79
14 美術館案内 Guide to the Museums	82
15 石橋財団職員	83

設立趣旨

ブリヂストン美術館

ブリヂストン美術館は、石橋正二郎(1889-1976)が多年にわたって蒐集愛蔵した内外の美術品を、社会公共のため、広く一般の鑑賞に供し、文化向上の一端に貢献したいとの趣旨に基づき、1952(昭和27)年1月8日、ブリヂストンビルディング竣工とともに同ビル内に開設されたものである。その後1956(昭和31)年4月に設立された財団法人石橋財団がその経営を継承し、1961(昭和36)年9月には同財団が石橋正二郎から所蔵美術品の寄贈を受けた。なお、1959(昭和34)年5月には面積が二倍に拡張された。1999(平成11)年12月には、面積をさらに拡張するとともに内装を一新した。

石橋美術館

石橋美術館は、株式会社ブリヂストンの創業者・石橋正二郎が1956(昭和31)年4月26日、同社の創立25周年を記念して、社会公共の福祉と文化向上のために、郷土久留米市に寄贈した石橋文化センターの中心施設である。1977(昭和52)年、石橋正二郎の遺族の寄付により増改築が行われ、同年4月以降、久留米市の要請により、石橋財団がその経営に当たっている。

石橋美術館別館

石橋美術館別館は、1995(平成7)年1月8日、石橋正二郎によって蒐集された石橋コレクションのうち書画・陶磁器類を収蔵展示する施設として石橋幹一郎により久留米市に建設寄贈され、一年余の養生期間を経て1996(平成8)年10月17日に開館した。なお建設寄贈と同時に石橋美術館と同様、石橋財団が管理運営に当たっている。

機構・運営

石橋財団

(2000年3月31日現在)

理事長・評議員	内田 宏						
理事・評議員	中川 洋、	大原 謙、	石橋 寛、	鶴澤昌和、	城多秀年、	富山秀男、	喜多村禎勇
監事	亀徳正之、	唐澤高美					
評議員	石井公一郎、	高碓芳郎、	橋口 収、	高階秀爾、	三木常正、	石樽和夫、	平野 実、
	加嶋昭男、	朝比奈仙二					

美術館運営委員会

委員長	石橋 寛					
委員	嘉門安雄、	高階秀爾、	内田 宏、	小林 忠、	富山秀男、	喜多村禎勇

寄付助成選考委員会

委員長	鶴澤昌和		
委員	内田 宏、	吉久勝美、	加嶋昭男

常務理事

城多秀年

事務局

事務局長	朝比奈仙二	総務部長	遠藤長夫
------	-------	------	------

ブリヂストン美術館

館長	富山秀男	事務部長	尾島 聰	学芸課長	宮崎克己
----	------	------	------	------	------

石橋美術館

館長	喜多村禎勇	事務部長	平井麟之輔	事務部次長	郷原耕亮	学芸課長	田内正宏
----	-------	------	-------	-------	------	------	------

石橋美術館別館

館長	(兼)喜多村禎勇	事務部長	(兼)平井麟之輔	事務部次長	(兼)郷原耕亮	学芸課長	(兼)田内正宏
----	----------	------	----------	-------	---------	------	---------

Brief Histories of the Museums

Bridgestone Museum of Art

On January 8, 1952, Shōjirō Ishibashi (1889-1976), wishing to promote cultural development in Japan, opened to the public a museum of art within the newly-completed Bridgestone Building under the name of the “Bridgestone Gallery”. The works of art, both Japanese and foreign, which he had collected over the years formed the nucleus of the exhibits. In April 1956, the Ishibashi Foundation was established to take over the management of the Gallery, and in September 1961, Ishibashi donated the works in the Gallery to the Foundation. In May 1959, the Gallery was enlarged to twice its original size. In January 1968, the English name was changed from the “Bridgestone Gallery” to the “Bridgestone Museum of Art”. In December 1999, the Gallery was more enlarged and totally renovated.

Ishibashi Museum of Art

On April 26, 1956, in commemoration of the 25th anniversary of the Bridgestone Corporation, Shōjirō Ishibashi, the founder of the Corporation, donated the Ishibashi Cultural Center to his home town of Kurume to render a public service and promote cultural development. The Ishibashi Museum of Art (originally the Ishibashi Art Gallery) is the principal institution in the Center. In 1971, the English name was changed from the “Ishibashi Art Gallery” to the “Ishibashi Museum of Art”. In 1977, the Museum building was enlarged and renovated, thanks to a contribution from the Ishibashi family, and in April of the same year the city of Kurume entrusted the Ishibashi Foundation with the management of the Museum.

Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery

On January 8, 1995, Kanichirō Ishibashi, son of Shōjirō Ishibashi donated to the city of Kurume a new museum especially designated to exhibit Shōjirō's collection of Asian Arts, such as brush painting, calligraphy, porcelain works. The museum has been open to the public since October 17, 1996, after careful observation and research for over a year. Since the time of its donation to Kurume, the museum is being managed by the Ishibashi Foundation, along with the Ishibashi Museum of Art.

Organization and Management

Ishibashi Foundation

(As of March 31, 2000)

President of the Board of Directors and Councillor	Hiroshi Uchida			
Directors and Councillors	Yoh Nakagawa	Yuzuru Ohara	Hiroshi Ishibashi	Masakazu Uzawa
	Hidetoshi Kita	Hideo Tomiyama	Sadao Kitamura	
Auditors	Masayuki Kitoku	Takami Karasawa		
Councillors	Kōichirō Ishii	Yoshirō Takasaki	Osamu Hashiguchi	Shūji Takashina
	Tsunemasa Miki	Kazuo Ishikure	Minoru Hirano	Akio Kashima
	Senji Asahina			
.....				
Executive Committee of the Museums				
Chairman	Hiroshi Ishibashi			
Members	Yasuo Kamon	Shūji Takashina	Hiroshi Uchida	Tadashi Kobayashi
	Hideo Tomiyama	Sadao Kitamura		
.....				
Contribution Selection Committee				
Chairman	Masakazu Uzawa			
Members	Hiroshi Uchida	Katsumi Yoshihisa	Akio Kashima	
.....				
Managing Director	Hidetoshi Kita			
.....				
Administration				
Executive Secretary	Senji Asahina	General Affairs Manager	Takeo Endō	
.....				
Bridgestone Museum of Art				
Director	Hideo Tomiyama			
Administrator	Satoru Ojima	Chief Curator	Katsumi Miyazaki	
.....				
Ishibashi Museum of Art				
Director	Sadao Kitamura			
Administrator	Rinnosuke Hirai	Manager	Kōsuke Gōhara	Chief Curator Masahiro Tauchi
.....				
Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery				
Director	Sadao Kitamura			
Administrator	Rinnosuke Hirai	Manager	Kōsuke Gōhara	Chief Curator Masahiro Tauchi

<特集展示>

神話と聖書の図像学

1999年1月13日(水)－4月25日(日)

会場：第1室, 第5室, 彫刻ギャラリー, 入口(リニューアル前)

主催：石橋財団プリヂストーン美術館

出品内容：絵画・モザイク14点, 彫刻11点, 版画36点, ギリシア陶器13点 計74点

入場者総数：23,488人(1日平均 267人)

* 館報47号(1998年度)p.10-11参照。

安井曾太郎の『文藝春秋』表紙絵

1999年12月3日(金)－2000年2月27日(日)

会場：第1室, 第2室

主催：石橋財団プリヂストーン美術館 / 石橋財団石橋美術館

協力：株式会社文藝春秋

出品内容：『文藝春秋』表紙絵の原画76点, 『別冊文藝春秋』表紙絵の原画10点 計86点

入場者総数：15,782人(1日平均 239人)

出品目録：

I. 『文藝春秋』表紙絵

1. 《読書》 / 第25巻第8号 / 1947(昭和22)年9月号 / グワッシュ, 色鉛筆, チョーク, コラージュ・紙 / 11.8×14.6cm
2. 《腰かけた女》 / 第26巻第10号 / 1948(昭和23)年10月号 / グワッシュ, 墨, 木炭・紙 / 15.4×15.2cm
3. 《ギリシャの壺と林檎》 / 第27巻第4号 / 1949(昭和24)年4月号 / 墨, 鉛筆・紙 / 30.8×23.5cm
4. 《青い椅子》 / 第28巻第1号 / 1950(昭和25)年1月号 / グワッシュ, 墨, 鉛筆, 色鉛筆・紙 / 15.2×15.4cm
5. 《燈下》 / 第28巻第2号 / 1950(昭和25)年2月号 / 水彩, コラージュ・紙 / 14.4×14.8cm
6. 《春の風景》 / 第28巻第3号 / 1950(昭和25)年3月号 / 鉛筆, 色鉛筆・紙 / 15.2×15.0cm
7. 《裸婦》 / 第28巻第4号 / 1950(昭和25)年4月号 / 水彩, グワッシュ, 鉛筆, コラージュ・紙 / 15.0×15.3cm
8. 《薔薇》 / 第28巻第6号 / 1950(昭和25)年5月号 / 水彩, グワッシュ, 鉛筆, 色鉛筆・紙 / 15.3×15.3cm
9. 《街》 / 第28巻第7号 / 1950(昭和25)年6月号 / 水彩, 鉛筆・紙 / 14.9×15.2cm
10. 《桃》 / 第28巻第8号 / 1950(昭和25)年7月号 / グワッシュ, 鉛筆・紙 / 15.3×15.9cm
11. 《瀧》 / 第28巻第10号 / 1950(昭和25)年8月号 / 水彩, グワッシュ, 鉛筆, 色鉛筆・紙 / 15.3×15.3cm
12. 《中秋明月》 / 第28巻第12号 / 1950(昭和25)年9月号 / 鉛筆, 色鉛筆・紙 / 15.2×14.9cm
13. 《黄菊》 / 第28巻第13号 / 1950(昭和25)年10月号 / グワッシュ, パステル, 鉛筆・紙 / 15.0×14.9cm
14. 《夜の光》 / 第28巻第16号 / 1950(昭和25)年12月号 / 色鉛筆, コラージュ・紙 / 14.9×15.5cm



展示会場風景



展示会場風景

-
15. 《松》 / 第29巻第1号 / 1951(昭和26)年1月号 / 油彩・紙 / 15.0×15.2cm
 16. 《スケート》 / 第29巻第2号 / 1951(昭和26)年2月号 / 鉛筆, 色鉛筆・紙 / 15.0×15.3cm
 17. 《フランス人形》 / 第29巻第4号 / 1951(昭和26)年3月号 / 油彩・紙 / 15.5×15.4cm
 18. 《鳥》 / 第29巻第5号 / 1951(昭和26)年4月号 / 油彩・紙 / 15.5×15.6cm
 19. 《樹蔭舟遊》 / 第29巻第7号 / 1951(昭和26)年5月号 / 油彩・紙 / 15.5×15.5cm
 20. 《金魚》 / 第29巻第8号 / 1951(昭和26)年6月号 / 油彩・紙 / 16.8×16.6cm
 21. 《窓際》 / 第29巻第9号 / 1951(昭和26)年7月号 / 油彩・紙 / 16.6×16.5cm
 22. 《草花》 / 第29巻第11号 / 1951(昭和26)年8月号 / 油彩・紙 / 15.9×16.0cm
 23. 《浴後》 / 第29巻第12号 / 1951(昭和26)年9月号 / 油彩・紙 / 16.0×15.6cm
 24. 《梨と葡萄》 / 第29巻第13号 / 1951(昭和26)年10月号 / 油彩・紙 / 15.7×15.8cm
 25. 《静物》 / 第29巻第15号 / 1951(昭和26)年11月号 / 油彩・紙 / 15.9×16.0cm
 26. 《画室にて》 / 第29巻第16号 / 1951(昭和26)年12月号 / 油彩・紙 / 15.8×15.8cm
 27. 《室内》 / 第30巻第1号 / 1952(昭和27)年1月号 / 油彩・紙 / 15.5×15.6cm
 28. 《ミシン》 / 第30巻第2号 / 1952(昭和27)年2月号 / 油彩・紙 / 15.5×15.5cm
 29. 《早春》 / 第30巻第4号 / 1952(昭和27)年3月号 / 油彩・紙 / 15.6×15.6cm
 30. 《桜》 / 第30巻第5号 / 1952(昭和27)年4月号 / 油彩・紙 / 15.6×15.5cm
 31. 《劇場にて》 / 第30巻第7号 / 1952(昭和27)年5月号 / 油彩・紙 / 15.5×15.5cm
 32. 《温泉》 / 第30巻第8号 / 1952(昭和27)年6月号 / 油彩・紙 / 15.2×15.5cm
 33. 《夜景》 / 第30巻第10号 / 1952(昭和27)年7月号 / 油彩・紙 / 15.5×15.5cm
 34. 《裸女》 / 第30巻第11号 / 1952(昭和27)年8月号 / 油彩・カンヴァス / 15.6×15.5cm
 35. 《月》 / 第30巻第13号 / 1952(昭和27)年9月号 / 油彩・紙 / 15.6×15.5cm
 36. 《菊》 / 第30巻第14号 / 1952(昭和27)年10月号 / 油彩・紙 / 15.5×15.6cm
 37. 《宮参りの日》 / 第30巻第16号 / 1952(昭和27)年11月号 / 油彩・紙 / 15.7×15.5cm
 38. 《柿》 / 第30巻第17号 / 1952(昭和27)年12月号 / 油彩・紙 / 15.6×15.4cm
 39. 《蝦》 / 第31巻第1号 / 1953(昭和28)年1月号 / 油彩・紙 / 15.5×15.4cm
 40. 《湘南電車にて》 / 第31巻第2号 / 1953(昭和28)年2月号 / 油彩・紙 / 14.7×14.7cm
 41. 《饅頭》 / 第31巻第4号 / 1953(昭和28)年3月号 / 油彩・紙 / 15.7×15.6cm
 42. 《窓外春光》 / 第31巻第5号 / 1953(昭和28)年4月号 / 油彩・紙 / 15.4×15.4cm
 43. 《銀化せる鯛》 / 第31巻第7号 / 1953(昭和28)年5月号 / 油彩・紙 / 15.4×15.3cm
 44. 《カットガラスの花入》 / 第31巻第8号 / 1953(昭和28)年6月号 / 油彩・紙 / 14.9×15.5cm
 45. 《アイスクリーム》 / 第31巻第10号 / 1953(昭和28)年7月号 / 油彩・紙 / 15.3×15.5cm
 46. 《溪流》 / 第31巻第11号 / 1953(昭和28)年8月号 / 油彩・紙 / 15.3×15.4cm
 47. 《女と花》 / 第31巻第13号 / 1953(昭和28)年9月号 / 油彩・紙 / 15.0×15.5cm
 48. 《栗》 / 第31巻第14号 / 1953(昭和28)年10月号 / 油彩・紙 / 14.6×14.7cm
 49. 《紅葉錦》 / 第31巻第16号 / 1953(昭和28)年11月号 / 油彩・紙 / 14.7×14.7cm
 50. 《銀座の雨》 / 第31巻第17号 / 1953(昭和28)年12月号 / 油彩・紙 / 14.7×14.6cm
 51. 《琴》 / 第32巻第1号 / 1954(昭和29)年1月号 / 油彩・紙 / 14.7×14.7cm
 52. 《庭》 / 第32巻第2号 / 1954(昭和29)年2月号 / 油彩・紙 / 14.6×14.7cm
 53. 《犬》 / 第32巻第4号 / 1954(昭和29)年3月号 / 油彩・紙 / 15.0×15.0cm
 54. 《ピアノ》 / 第32巻第5号 / 1954(昭和29)年4月号 / 油彩・紙 / 15.8×15.8cm
 55. 《メロン》 / 第32巻第7号 / 1954(昭和29)年5月号 / 油彩・紙 / 16.1×16.7cm
 56. 《薔薇》 / 第32巻第8号 / 1954(昭和29)年6月号 / 油彩・紙 / 16.1×16.4cm
 57. 《温泉旅館》 / 第32巻第10号 / 1954(昭和29)年7月号 / 油彩・紙 / 15.1×15.3cm
 58. 《内海上空》 / 第32巻第11号 / 1954(昭和29)年8月号 / 油彩・紙 / 16.6×15.9cm
 59. 《雨の天主堂》 / 第32巻第14号 / 1954(昭和29)年9月号 / 油彩・紙 / 15.9×16.0cm
 60. 《葡萄》 / 第32巻第15号 / 1954(昭和29)年10月号 / 油彩・紙 / 15.9×15.9cm
 61. 《鏡台》 / 第32巻第17号 / 1954(昭和29)年11月号 / 油彩・紙 / 15.9×15.9cm
 62. 《海に見える風景》 / 第32巻第18号 / 1954(昭和29)年12月号 / 油彩・紙 / 16.0×15.9cm
 63. 《庭》 / 第33巻第1号 / 1955(昭和30)年1月号 / 油彩・紙 / 16.0×16.4cm
 64. 《黒卓と犬》 / 第33巻第3号 / 1955(昭和30)年2月号 / 油彩・紙 / 15.9×15.9cm
 65. 《室内》 / 第33巻第5号 / 1955(昭和30)年3月号 / 油彩・紙 / 15.8×15.9cm
-

-
66. 《苺》 / 第33巻第7号 / 1955(昭和30)年4月号 / 油彩・紙 / 16.1×16.6cm
 67. 《みだれ箱》 / 第33巻第9号 / 1955(昭和30)年5月号 / 油彩・紙 / 16.3×16.4cm
 68. 《初夏》 / 第33巻第11号 / 1955(昭和30)年6月号 / 油彩・紙 / 16.6×16.5cm
 69. 《バルシャの壺》 / 第33巻第13号 / 1955(昭和30)年7月号 / 油彩・紙 / 15.0×15.5cm
 70. 《花火》 / 第33巻第15号 / 1955(昭和30)年8月号 / 油彩・紙 / 15.1×15.5cm
 71. 《市街風景》 / 第33巻第17号 / 1955(昭和30)年9月号 / 油彩・紙 / 14.8×16.0cm
 72. 《少女と犬》 / 第33巻第19号 / 1955(昭和30)年10月号 / 油彩・紙 / 15.2×15.5cm
 73. 《菊》 / 第33巻第21号 / 1955(昭和30)年11月号 / 油彩・金箔, 紙 / 21.0×21.0cm
 74. 《画室の窓》 / 第33巻第22号 / 1955(昭和30)年12月号 / 油彩, コラージュ・紙 / 15.8×15.9cm
 75. 《小松》 / 第34巻第1号 / 1956(昭和31)年1月号 / グワッシュ・金箔, 紙 / 24.2×27.2cm
 76. 《南天》 / 第34巻第2号 / 1956(昭和31)年2月号 / 油彩・紙 / 16.4×15.8cm

II. 『別冊文藝春秋』表紙絵

77. 《室内の人物》 / 第16号 / 1950(昭和25)年5月号 / グワッシュ, パステル, 鉛筆・紙 / 21.5×31.5cm
78. 《海辺》 / 第17号 / 1950(昭和25)年8月号 / 油彩, 鉛筆・厚紙 / 21.3×31.6cm
79. 《遠乗り》 / 第18号 / 1950(昭和25)年10月号 / 鉛筆, 色鉛筆・紙 / 21.5×31.5cm
80. 《蜜柑》 / 第19号 / 1950(昭和25)年12月号 / 水彩, 色鉛筆, 鉛筆, コラージュ・紙 / 21.9×32.0cm
81. 《ピアノ演奏》 / 第20号 / 1951(昭和26)年3月号 / グワッシュ, 鉛筆, チョーク, コラージュ・紙 / 22.0×31.9cm
82. 《池のほとり》 / 第22号 / 1951(昭和26)年7月号 / 油彩, 鉛筆・紙 / 21.5×31.2cm
83. 《秋の夜》 / 第23号 / 1951(昭和26)年9月号 / 油彩・紙 / 21.2×31.2cm
84. 《菊》 / 第25号 / 1951(昭和26)年12月号 / 油彩・紙 / 22.4×32.3cm
85. 《秋果図》 / 第29号 / 1952(昭和27)年8月号 / 油彩・紙 / 21.1×31.3cm
86. 《鹿》 / 第39号 / 1954(昭和29)年4月号 / 油彩・紙 / 21.2×31.3cm

関連事業:

土曜講座「安井曾太郎の世界」→ p.20
日曜レクチャー → p.21

広報記録:

新聞・雑誌:

卓雉奈津子「柔軟な感性とウイット」『東京新聞』1999年12月24日付夕刊
海野弘「アート鑑賞術9 安井曾太郎の『文藝春秋』表紙絵 展」『東京人』2000年1月号
(賀)「二巨匠の異色作-安井曾太郎と猪熊弦一郎」『新美術新聞』2000年1月11日
Miki TAKASHIMA, "Nature with a casual twist", *The Daily Yomiuri*, February 17, 2000
(三)「コラージュの魅力再考」『朝日新聞』2000年2月18日付夕刊
(会)「窓 表紙が変わる」『朝日新聞』2000年2月24日付夕刊

テレビ:

「新日曜美術館」日本放送協会, 2000年2月13日放送

『レスタンプ・オリジナル』—世紀末フランスの版画革命

2000年3月7日(火)－6月4日(日)

会場：第1室,第2室

主催：石橋財団ブリヂストン美術館 / 石橋財団石橋美術館

出品内容：版画98点

入場者総数：16,739人(1日平均 217人)



II-39. カミーユ・マルタン「レスタンプ・オリジナル」第2年次の表紙

出品目録:

I. 参考出品

レスタンプ・オリジナル協会版『レスタンプ・オリジナル』第1号

1888年5月刊

1. フェリックス・ブラックモン《レオン・クラデルの肖像》/ エッチング, アクアチント / 31.6×25.7cm; 45.8×32.7cm
2. ダニエル・ヴィエルジュ《習作》/ エッチング / 1888年 / 26.8×19.2cm; 34.1×25.0cm
3. トニー・ベルトラン《独楽を見つめる子ども》/ 木口木版 / 19.5×19.8cm; 30.3×24.9cm
4. トニー・ベルトラン《子どもの習作》/ 木口木版 / 19.8×29.2cm; 28.4×36.9cm
5. アンリ・ブテ《舗道にて》/ ドライポイント, アクアチント / 28.3×10.4cm; 37.0×15.5cm
6. アンリ・ブテ《パリの街角, 夜》/ ドライポイント, アクアチント / 39.6×16.1cm; 38.1×20.2cm
7. アンリ=パトリス・ディヨン《アトリエの情景》/ リトグラフ / 22.5×32.1cm; 26.5×35.2cm
8. アンリ=パトリス・ディヨン《綺想》/ リトグラフ / 30.4×18.9cm; 34.1×22.4cm
9. オーギュスト=ルイ・ルペール《モンターニュ=サント=ジュヌヴィエーヴ通り》/ 木口木版 / 31.1×13.7cm; 41.0×23.4cm
10. オーギュスト=ルイ・ルペール《オーステルリッツ橋から望むセヌ河》/ 木口木版 / 17.0×27.0cm; 30.4×45.9cm

II. アンドレ・マルティ版『レスタンプ・オリジナル』

1893-95年刊

1. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック『レスタンプ・オリジナル』第1年次のための表紙 / 1893年 / 6色刷りリトグラフ / 56.3×64.3cm; 58.5×83.4cm
2. ジョルジュ・オリオール《序文装飾》/ 木版 / 6.6×21.1cm
3. ルイ・アंकタン《騎士と乞食》/ 1893年 / リトグラフ / 36.7×50.1cm; 41.8×57.3cm
4. ピエール・ボナル《家族の情景》/ 1893年 / 4色刷りリトグラフ / 31.3×17.8cm; 58.3×41.6cm
5. モーリス・ドニ《慈愛》/ 4色刷りリトグラフ / 30.1×25.2cm; 58.5×41.7cm
6. シャルル・モラン《トゥールーズ=ロートレックの肖像》/ エッチング, アクアチント / 22.8×13.7cm; 51.0×36.2cm
7. ポール=エリー・ランソン《密林の虎》/ 3色刷りリトグラフ / 36.7×28.5cm; 59.0×41.7cm
8. ケル=グザヴィエール=セル《雪の中で》/ 4色刷りリトグラフ / 33.0×19.5cm; 58.9×41.9cm
9. フェリックス・ヴァロットン《街頭デモ》/ 木版 / 20.4×32.1cm; 23.1×33.6cm
10. エドゥワール・ヴェイヤール《室内》/ 2色刷りリトグラフ / 27.9×22.8cm; 58.8×41.9cm
11. ジョルジュ・オリオール《ざわめく森》/ 6色刷りリトグラフ / 49.8×32.6cm; 58.5×42.6cm
12. アンリ・ブテ《パリの女》/ エッチング, アクアチント, ドライポイント, ルーレット / 49.5×27.4cm; 60.2×43.5cm
13. シャルル=マリー・デュラック《風景》/ 4色刷りリトグラフ / 31.4×48.3cm; 42.9×59.5cm

14. アンリ=シャルル・ゲラール《兎》/ 木版 / 32.8×23.0cm; 37.0×25.9cm / ニューオータニ美術館, 東京
15. シャルル・ギュー《洪水》/ 5色刷りリトグラフ / 20.9×29.1cm; 41.8×58.5cm
16. アンリ・ラシュエ《裝飾パネル》/ 8色刷りリトグラフ / 48.5×29.8cm; 58.6×41.6cm
17. ジャン=フランソワ・ラファエリ《自画像》/ 4色刷りドライポイント / 18.8×15.7cm; 60.4×43.9cm
18. オディロン・ルドン《耳の細胞》/ リトグラフ / 26.8×25.0cm; 59.0×43.2cm
19. オーギュスト・ロダン《アンリ・ベックの肖像》/ 1883-87年頃 / ドライポイント / 15.9×20.4 cm; 41.6×58.8cm
20. ポール・セリュジエ《風景》/ 2色刷りリトグラフ / 23.3×30.3cm; 42.1×57.1cm
21. アルベール・ベナール《闖入者》/ 1893年 / リトグラフ / 36.0×45.9cm; 41.7×58.2cm
22. アンリ=パトリス・ティヨン《マンドリン弾き》/ リトグラフ / 18.5×30.8cm; 40.2×59.5cm
23. アンリ・ファンタン=ラトゥール《聖アントニウスの誘惑》/ リトグラフ / 32.6×40.2cm; 42.9×59.6cm
24. オーギュスト=ルイ・ルペール《洗濯女》/ 5色刷りソフトグランド・エッチング, アクアチント, ルーレット / 39.4×22.8cm; 44.8×24.7cm
25. アレクサンドル・リュノワ《あかり》/ 5色刷りリトグラフ / 32.8×27.2 cm; 58.1×42.9cm
26. ヴィクトール・ブルヴェ《猛禽》/ エッチング, アクアチント / 22.4×41.0cm; 43.0×60.3cm
27. カルロス・シュヴァープ《受胎告知》/ 1893年 / リトグラフ / 25.9×36.5cm; 42.6×59.0cm
28. ヴィクトール・ヴィニョン《牛》/ エッチング / 25.1×27.0cm; 42.8×60.0cm
29. アドルフ・レオン・ヴィレット《運命の女神》/ リトグラフ / 25.5×24.7cm; 59.8×43.1cm
30. フェリックス・ブラックモン《ツアー万歳!》/ エッチング / 32.8×22.6cm; 48.8×36.2cm
31. ジュール・シェレ《ダンス》/ 3色刷りリトグラフ / 37.0×23.1cm; 59.8×43.0cm
32. アンリ・ド・グルー《旗手》/ リトグラフ / 27.7×21.8cm; 60.2×43.3cm
33. ピエール・ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ《ノルマンディー》/ 転写リトグラフ / 46.2×38.8cm; 60.7×43.1cm
34. ピエール=オーギュスト・ルノワール《前向きのピエール・ルノワール》/ リトグラフ / 28.0×24.0cm; 59.7×42.7cm / 横浜美術館
35. ピエール・ロッシュ《海藻》/ 2色刷りジブソタイプ / 16.8×10.3cm; 32.4×22.2cm
36. アンリ・リヴィエール《波》/ 8色刷りリトグラフ / 29.3×46.3cm; 41.1×57.4cm
37. フェリシアン・ロップス《悲しみの母》/ ドライポイント, エッチング / 13.6×10.2cm; 60.2×43.4cm
38. ジェイムス・マクニール・ホイッスラー《踊り子》/ 転写リトグラフ / 19.0×16.0cm; 29.5×24.1cm
39. カミーユ・マルタン『レスタンブ・オリジナル』/ 第2年次の表紙 / 5色刷りリトグラフ / 58.5×85.3cm; 60.0×89.7cm
40. エミール・ベルナール《磔刑》/ 木版 / 35.3×15.0cm; 59.4×42.9cm
41. エルネスト=アンジュ・デュエス《花》/ ドライポイント / 40.8×19.0cm; 60.2×43.2cm
42. ノルベール・グヌート《女の肖像》/ 1894年 / リトグラフ / 53.3×25.7cm; 60.0×43.3cm
43. ポール=セザール・エルー《もの思い》/ ドライポイント / 29.2×19.9cm; 59.7×42.8cm
44. アントニオ・ド・ラ・ガンダラ《座る女》/ リトグラフ / 25.5×11.4cm; 60.2×43.3cm
45. カミーユ・ピサロ《オスニー風景》/ 1887年 / ドライポイント / 11.5×15.6cm; 42.7×60.1cm
46. リュシアン・ピサロ《子どもたちの輪舞》/ 1893年 / 木版 / 20.8×15.9cm; 39.9×24.4cm
47. アンリ・ソム《パリの女》/ ドライポイント / 24.5×16.9cm; 60.0×43.0cm
48. テオドール・ピエール・ヴァグネル《夢》/ リトグラフ / 31.3×23.8 cm; 60.2×42.6cm
49. ジョルジュ・ド・フル《悪の泉》/ 5色刷りリトグラフ / 34.9×25.1cm; 55.5×39.5cm
50. ウジェーヌ・ドラートル《ユイスマンスの肖像》/ 3色刷りエッチング, アクアチント, ルーレット / 32.2×24.2cm; 59.7×42.9cm
51. ポール・ゴーガン《マナオ・トゥパパウ(死霊が見ている)》/ リトグラフ / 18.1×27.3cm; 42.9×59.7cm
52. ウジェーヌ・グラッセ《硫酸魔》/ 写真凸版, ステンシルによる手彩色 / 40.0×27.6cm; 60.5×44.1cm
53. アンリ=シャルル・ゲラール《霧の中の船》/ ルーレット / 14.8×20.4cm; 44.5×59.1cm
54. エルマン=ポール《帽子屋の女たち》/ 3色刷りリトグラフ / 24.7×35.6cm; 43.3×60.5cm
55. アンリ=ギュスターヴ・ジョソ《波》/ リトグラフ / 53.1×35.5cm; 61.2×43.1cm
56. マクシミリアン・リュス《梳る女》/ 転写リトグラフ / 43.2×33.0cm; 60.2×43.0cm
57. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《アンバサドゥールにて》/ 6色刷りリトグラフ / 30.4×24.6cm; 58.1×42.9cm
58. フィリップ=シャルル・ブラーシュ《黄昏》/ 1894年 / 2色刷りリトグラフ / 36.7×25.4 cm; 58.5×43.0cm
59. シャルル・ラコスト《ポートランド広場》/ リトグラフ / 24.9×32.5cm; 42.1×60.0 cm
60. ジョルジュ・マンザナ=ピサロ《いたずら七面鳥》/ 1887年 / 木版 / 21.5×22.6cm; 33.8×28.9cm
61. ヴィクトール・ブルヴェ《阿片》/ 1894年 / 5色刷りリトグラフ, 空押し / 55.2×40.3cm; 61.1×43.0cm

62. チャールズ・リケッツ《大洪水》/ 木口木版 / 8.7×9.5cm; 20.0×24.7cm
63. アルマン・セガン《風景》/ エッチング, アクアチント, ルーレット / 23.0×22.7cm; 60.2×42.3cm
64. チャールズ・ヘイゼルウッド・ジャンソン《女と猫》/ リトグラフ / 21.5×25.4cm; 29.3×47.0cm
65. ポール・シニャック《サン=トロペ》/ 6色刷りリトグラフ / 27.6×36.8cm; 43.2×60.2cm
66. テオドール・ヴァン・レイセルベルヘ《漁船》/ エッチング, アクアチント / 22.5×28.2cm; 24.0×31.2cm
67. アルベール・ベナール《水浴》/ エッチング, アクアチント / 15.9×23.9cm; 43.4×61.2cm
68. シャルル=マリー・デュラック《木立》/ リトグラフ / 47.8×36.4cm; 58.7×42.6cm
69. シャルル=ルイ・ウダール《蛙》/ 3色刷りアクアチント / 26.1×40.0cm; 37.3×47.2cm
70. アンリ=ガブリエル・イベルス《舗装工事の男たち》/ エッチング / 27.4×15.4cm; 59.4×39.5cm
71. ウィリアム・ニコルソン《橋の下》/ 2色刷りリトグラフ / 24.1×28.7cm; 29.4×44.0cm
72. リシャル・ランフト《使い走りの娘たち》/ エッチング, アクアチント / 40.0×25.9cm; 59.7×42.7cm
73. シャルル・ポール・ルヌワール《踊り子と母親》/ リトグラフ / 47.3×34.6cm; 59.3×42.9cm
74. ウィリアム・ローセンスタイン《肖像》/ 1894年 / 転写リトグラフ / 19.2×15.0cm; 39.9×23.0cm
75. フェリックス・ヴァロットン《入浴》/ 木版 / 18.2×22.5cm; 21.7×25.4cm
76. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック『レスタンプ・オリジナル』最終号の表紙 / 1895年 / 2色刷りリトグラフ, カンヴァスで裏打ち / 58.3×81.5cm; 58.3×83.4cm
77. アルベール・ベナール《読書する女》/ 1888年 / エッチング / 13.1×19.0cm; 22.4×31.3cm
78. ウジェーヌ・カリエール《ネリー・カリエール》/ リトグラフ / 46.7×36.0cm; 60.1×43.0cm
79. ウォルター・クレイン《シンバルを持つ踊り子》/ 1894年 / リトグラフ / 43.5×30.7cm; 60.2×43.1cm
80. アントニオ・ドラ・ガンダラ《女の肖像》/ リトグラフ / 27.8×20.7cm; 60.2×43.3cm
81. コンスタンタン・ムニエ《炭鉱夫》/ 転写リトグラフ / 34.5×53.9cm; 43.0×62.0cm
82. カミーユ・ピサロ《水浴の女たち》/ リトグラフ / 15.4×22.0cm; 42.7×59.8cm
83. ピエール・ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ《女性習作》/ 写真平版 / 30.9×15.1cm; 39.4×24.8cm
84. オディロン・ルドン《仏陀》/ リトグラフ / 31.5×24.9cm; 60.1×42.9cm
85. ピエール=オーギュスト・ルノワール《水浴の少女たち》/ エッチング / 26.2×24.1cm; 58.6×42.7cm
86. ピエール・ロッシュ《海藻》/ 2色刷りジブソタイプ / 16.8×10.3cm; 32.4×22.2cm
87. フェリシアン・ロップス《柴を集める女》/ 1874年 / エッチング, ドライポイント / 27.3×17.0cm; 60.5×43.0cm
88. アドルフ・レオン・ヴィレット《復讐》/ リトグラフ / 40.2×36.2cm; 60.1×42.8cm

* 所蔵先を明記していない作品は、すべてブリヂストン美術館蔵。

関連事業:

土曜講座「版画の社会学」→ p.20
 日曜レクチャー → p.21
 リトグラフとエッチングの実演 → p.22

広報記録:

新聞・雑誌:

Miki TAKASHIMA, "Wave of Japonisme in French prints", *The Daily Yomiuri*, March 30, 2000
 Linda INOKI, "Parisian revolution in graphic art", *The Japan Times*, April 2, 2000
 「Stardust：硫酸おんなのパラード」『芸術新潮』2000年5月号, p.92
 三木あき子「ART：危険なまでに魅惑的な、19世紀末パリの空気とは。」『Pen』2000年5月号
 西原瑛「ぶらりミュージアム：レスタンプ・オリジナル、版画史に残る出版の功績」『朝日新聞』5月24日付夕刊

<コーナー展示>

ドーミエの版画

1999年4月28日(水) - 6月30日(水)

出品内容：版画18点

入場者総数：8,024人(1日平均 146人)



16. 《お世辞抜きで、こう言えると思うんだが、それは本当の傑作だ！…》

出品目録：

I. <おしゃれ>

1. さあ、どうぞ！…で、こうしてあなたは他の女たちに会いに行くのでしょ！ / 1839年 / リトグラフ / 25.0×18.2cm
2. われわれがロンパール街からやって来たなんて信じられるかな？ と、自分では思うんだけど。…あなたは全然お菓子屋なんかではないという様子よ。 / 1839年 / リトグラフ / 26.0×20.0cm
3. おや、こんにちは、いつも美しい！ / 1839年 / リトグラフ / 24.2×19.4cm
4. さあできた！ ネクタイくらい結べるぞ。 / 1839年 / リトグラフ / 24.5×18.8cm
5. もういい、もういい、きつすぎる！！… いえ、旦那、この生地は手袋みたいにびたりですよ！ / 1839年 / リトグラフ / 21.1×19.5cm
6. このブーツめ！…おれを小足にしようとしているな！… / 1839年 / リトグラフ / 23.1×18.8cm
7. 確かに、アウステルリッツでどうだったかは知らないが、これよりよくはなかっただろうな。 / 1840年 / リトグラフ / 27.2×19.5cm
8. (手紙を読んで)デートの約束だ、たぶんいとしいマダム・ジローからだ！…そう…だが、私を捕まえてさんざんに殴ろうとしている夫からかもしれない。 / 1840年 / リトグラフ / 21.8×18.3cm
9. 確かに！ 言われたとおり、真珠を並べたようだ！ …ただ、その真珠がとびとびだが、それだけのことだ。 / 1840年 / リトグラフ / 21.8×17.3cm
10. 寝間着ははがれ、あらわな我が身、こむらの肉は消え去りぬ。(J.B. ルソー) / 1840年 / リトグラフ / 23.3×18.8cm

II. <壺マニア>

11. アデレード…ねえ、君…ご覧よ、この子は半時間以上も前から泣いているよ！ 何を加えたらいいかしら…小さな飾りを貼りつけたいわ！ / 1855年 / リトグラフ / 19.4×22.6cm
12. あっ！ いちばんきれいな壺が！ …いちばん大切な壺が！… / 1855年 / リトグラフ / 19.4×24.3cm
13. ねえあなた、お年玉に素敵な壺を持ってきましたよ。 おや、偶然ですね、私もあなたに壺を持ってきたんですが！ / 1855年 / リトグラフ / 19.3×23.4cm
14. 犬と猫と壺を同時に愛する不都合。 / 1855年 / リトグラフ / 19.2×25.0cm
15. おや、バルミュルさんがおまえのとそっくりの壺を作っている！ 住まいもさぞかしきれいに飾っているんだろうな！… / 1855年 / リトグラフ / 17.9×24.2cm
16. お世辞抜きで、こう言えると思うんだが、それは本当の傑作だ！… / 1855年 / リトグラフ / 20.2×24.0cm
17. おそろしい悪夢。 / 1855年 / リトグラフ / 19.0×26.5cm
18. 日本の壺の模造品、真のうさがた三人を感嘆さす。 / 1855年 / リトグラフ / 18.9×22.9cm

* 出品作はすべてブリチストン美術館蔵。

<特集展示>

没後30年記念 坂本繁二郎

1999年7月14日(水)－9月12日(日)

会場：第5～8室

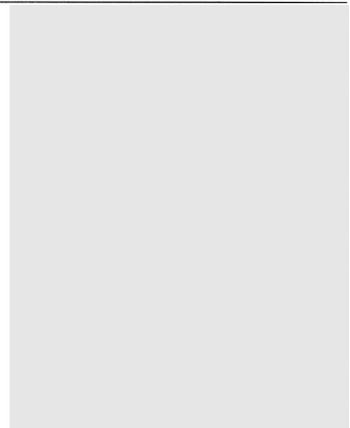
主催：石橋財団石橋美術館

後援：久留米市 / 財団法人久留米文化振興会

出品内容：油彩39点、鉛筆・水彩・墨16点、木版22点、石版1点、

書簡7点、関連作品1点 計86点

入場者総数：6,797人(1日平均128人)



28.《帽子を持てる女》

出品目録：

- 1.《夏野》/ 1898年 / 油彩・カンヴァス / 71.0×116.0cm / 個人蔵
- 2.《水繩山風景》/ 1898年 / 水彩・紙 / 56.5×74.5cm / 個人蔵
- 3.《秋の山道》/ 1903年頃 / 水彩・紙 / 29.0×48.0cm / 個人蔵
- 4.《町裏》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 80.3×60.5cm / 個人蔵
- 5.《早春》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 80.5×60.0cm / 個人蔵
- 6.《風景》/ 1905年 / 水彩・紙 / 32.7×50.0cm / 個人蔵
- 7.《大島の一部》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 116.3×73.0cm / 福岡市美術館蔵
- 8.《新聞》/ 1910年 / 油彩・カンヴァス / 80.5×60.7cm / 個人蔵
- 9.《草画舞台姿 沢村宗之助の皆鶴姫》/ 1911年(1971年復刻) / 多色木版・紙 / 22.3×15.8cm / 個人蔵
- 10.《草画舞台姿 沢村宗十郎の榊沢平九郎》/ 1911年(1971年復刻) / 多色木版・紙 / 22.5×15.8cm / 個人蔵
- 11.《草画舞台姿 初瀬浪子の秋山静子》/ 1911年(1971年復刻) / 多色木版・紙 / 22.3×15.8cm / 個人蔵
- 12.《草画舞台姿 市川高麗太郎の長作》/ 1911年(1971年復刻) / 多色木版・紙 / 22.2×15.9cm / 個人蔵
- 13.《草画舞台姿 沢村訥子の松平吉峰》/ 1911年(1971年復刻) / 多色木版・紙 / 21.6×15.0cm / 個人蔵
- 14.《草画舞台姿 市川高麗蔵の姉輪平次》/ 1911年(1971年復刻) / 多色木版・紙 / 21.5×14.8cm / 個人蔵
- 15.《魚を持ってきた海女》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 117.0×80.6cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 16.《あらしの海》/ 1917年 / 油彩・板 / 23.2×33.0cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 17.《静物》/ 1918年 / 油彩・カンヴァス / 45.0×60.5cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 18.《日本風景版画 筑紫之部 榎寺神社》/ 1918年 / 多色木版・紙 / 17.4×23.5cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 19.《日本風景版画 筑紫之部 神湊》/ 1918年 / 多色木版・紙 / 17.0×23.5cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 20.《日本風景版画 筑紫之部 水繩山》/ 1918年 / 多色木版・紙 / 17.0×23.5cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 21.《日本風景版画 筑紫之部 筑後川》/ 1918年 / 多色木版・紙 / 16.9×23.2cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 22.《日本風景版画 筑紫之部 火の海》/ 1918年 / 多色木版・紙 / 17.4×23.4cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 23.《建設中の立教大学》/ 1919年 / 石版・紙 / 25.0×34.5cm / 個人蔵
- 24.《牛》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 71.0×116.5cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 25.《少女》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 40.8×32.8cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 26.《読書の女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 40.8×31.7cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 27.《パリ郊外》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×65.0cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 28.《帽子を持てる女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 80.7×65.0cm / 石橋財団石橋美術館蔵
- 29.《老婆》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 41.0×32.8cm / 個人蔵
- 30.《巴里の乞食》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 40.0×32.8cm / 福岡県立美術館蔵
- 31.《自画像》/ 1923年 / 鉛筆、水彩・紙 / 27.7×21.9cm / 個人蔵

-
- 32.《柿》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 45.8×61.0cm / 福岡県立美術館蔵
 - 33.《母の像》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 52.9×45.8cm / 個人蔵
 - 34.《自画像鏡像》/ 1929年 / 油彩・紙 / 45.5×37.5cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 35.《自像》/ 1923-30年 / 油彩・カンヴァス / 52.5×45.0cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 36.《放牧》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス / 71.5×116.5cm / 個人蔵
 - 37.《鳥》/ 1930年 / 淡彩・紙 / 37.5×30.2cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 38.《放牧三馬》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 79.6×99.0cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 39.《二馬》/ 1930年頃 / 鉛筆・紙 / 17.3×23.5cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 40.《肉弾三勇士》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×80.0cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 41.《水より上る馬》/ 1935年 / 水彩・紙 / 15.8×21.4cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 42.《春・駒》/ 1935年頃 / 墨・紙 / 130.0×60.5cm / 個人蔵
 - 43.《放牧二馬》/ 1936年 / 油彩・カンヴァス / 91.0×116.5cm / 個人蔵
 - 44.《牧馬(左)》/ 1942年 / 油彩・絹 / 35.8×87.0cm / 福岡市美術館蔵
 - 45.《牧馬(右)》/ 1942年 / 油彩・絹 / 34.2×85.5cm / 福岡市美術館蔵
 - 46.《柿》/ 1944年 / 油彩・カンヴァス / 45.3×52.5cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 47.《馬》/ 1948年 / 水彩・紙 / 23.9×32.1cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 48.《青木繁歌碑文字図案》/ 1948年 / 墨・紙 / 51.3×66.8cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 49.《鮭》/ 1949年 / 油彩・カンヴァス / 41.2×60.3cm / 福岡市美術館蔵
 - 50.《阿蘇五景 表紙絵》/ 1950年 / 多色木版・紙 / 12.9×14.8cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 51.《阿蘇五景 扉絵》/ 1950年 / 多色木版・紙 / 12.9×14.8cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 52.《阿蘇五景 南郷谷》/ 1950年 / 多色木版・紙 / 25.0×36.0cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 53.《阿蘇五景 噴火口》/ 1950年 / 多色木版・紙 / 25.1×36.0cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 54.《阿蘇五景 波野の月》/ 1950年 / 多色木版・紙 / 25.2×36.1cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 55.《阿蘇五景 根子嶽の朝》/ 1950年 / 多色木版・紙 / 25.2×36.1cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 56.《阿蘇五景 放牧》/ 1950年 / 多色木版・紙 / 25.3×36.0cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 57.《馬三題 1》/ 1951年 / 多色木版・紙 / 22.1×31.2cm / 個人蔵
 - 58.《馬三題 2》/ 1951年 / 多色木版・紙 / 23.5×33.2cm / 個人蔵
 - 59.《馬三題 3》/ 1951年 / 多色木版・紙 / 23.5×32.7cm / 個人蔵
 - 60.《塩屋の娘人形》/ 1951年 / 油彩・カンヴァス / 40.7×31.5cm / 個人蔵
 - 61.《能面》/ 1954年 / 油彩・カンヴァス / 38.0×45.5cm / 個人蔵
 - 62.《石》/ 1954年 / 水彩・紙 / 39.5×49.9cm / 福岡県立美術館蔵
 - 63.《能面》/ 1955年 / 油彩・カンヴァス / 33.5×49.5cm / 福岡県立美術館蔵
 - 64.《馬》/ 1955年 / 水彩・紙 / 27.0×24.0cm / 個人蔵
 - 65.《泊船暁光》/ 1956年 / 多色木版 / 16.6×23.1cm / 個人蔵
 - 66.《林橋・蜜柑・柿》/ 1958年 / 油彩・カンヴァス / 32.5×41.5cm / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 67.《植木鉢》/ 1959年 / 油彩・カンヴァス / 38.3×45.5cm / 久留米市立篠山小学校蔵
 - 68.《鼓胴と能面》/ 1962年 / 油彩・カンヴァス / 37.9×45.5cm / 個人蔵
 - 69.《月》/ 1964年頃 / 色鉛筆, 水彩・紙 / 56.5×31.3cm / 個人蔵
 - 70.《月》/ 1964年頃 / 色鉛筆, 水彩・紙 / 45.5×22.7cm / 個人蔵
 - 71.《みずとり》/ 1964年頃 / 色鉛筆, 水彩・紙 / 45.8×49.0cm / 個人蔵
 - 72.《木槿》/ 1964年頃 / 色鉛筆, 水彩・紙 / 40.5×63.0cm / 個人蔵
 - 73.《牛》/ 1919-65年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×80.3cm / 個人蔵
 - 74.《霧島風景(左)》/ 1965年頃 / 油彩・板 / 47.8×83.5cm / 個人蔵
 - 75.《霧島風景(右)》/ 1965年頃 / 油彩・板 / 47.6×83.8cm / 個人蔵
 - 76.《婦人像》/ 1922-68年 / 油彩・カンヴァス / 81.0×64.8cm / 個人蔵
 - 77.《白い牛》/ 1969年 / 油彩・カンヴァス / 50.0×61.0cm / 個人蔵
 - 78.《幽光》/ 1969年 / 油彩・カンヴァス / 31.7×41.0cm / 個人蔵
 - 79.《坂本繁二郎書簡 / 坂井義三郎(犀水)宛》/ 1920年2月14日付 / 封書 / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 80.《坂本繁二郎書簡 / 坂井義三郎(犀水)宛》/ 1921年4月22日消印 / 封書 / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 81.《坂本繁二郎書簡 / 坂井義三郎(犀水)宛》/ 1923年1月1日付 / 葉書 / 石橋財団石橋美術館蔵
 - 82.《坂本繁二郎書簡 / 坂井義三郎(犀水)宛》/ 1925年11月6日付 / 封書 / 石橋財団石橋美術館蔵
-

-
- 83.《坂本繁二郎書簡 / 坂井義三郎(犀水)宛》 / 1925年11月10日付 / 葉書 / 石橋財団石橋美術館蔵
84.《坂本繁二郎書簡 / 坂井義三郎(犀水)宛》 / 1937年1月1日付 / 葉書 / 石橋財団石橋美術館蔵
85.《坂本繁二郎書簡 / 坂井昭雄・坂井晴彦宛》 / 1941年8月7日付 / 封書 / 石橋財団石橋美術館蔵
86. 今里龍生《坂本繁二郎像》 / 1961年 / ブロンズ / 高33.0cm / 石橋財団石橋美術館蔵

関連事業:

開催記念美術講座 → p.24

広報記録:

新聞・雑誌:

- 「特集展示『没後30年記念 坂本繁二郎』『市政くろめ』第991号, 1999年6月15日
「展覧会から 坂本繁二郎の作品を特集 没後30周年を記念し80点」『西日本新聞』1999年7月8日付夕刊
「坂本繁二郎没後30年記念展 50点以上の作品17年ぶりに一堂に」『朝日新聞』1999年7月15日(筑後版)
「坂本繁二郎没後30年展始まる 巨匠の全ぼうたどる86点」『西日本新聞』1999年7月17日(筑後版)
「坂本繁二郎没後30年記念展 代表作『放牧三馬』など86点」『読売新聞』1999年7月23日(筑後版)
「美術館情報」『アートマインド』第105号, 1999年8月1日
「好きな人に聞いたのしいART」『月刊はかた』第129号, 1999年8月1日
「坂本繁二郎・没後三十年展 78点で画業を回顧 新たな坂本像を探る」『西日本新聞』1999年8月10日
竹田博志編集委員「心を浄化する無垢な形 宇治山哲平展ほか」『日本経済新聞』1999年8月11日
「特集 月とのカンケイをはじめようか」『芸術倶楽部』第34号, 1999年8月
「さらに展覧会 Sweet Spot」『アミューズ』第52巻第16号, 1999年8月
「PREVIEW 没後30年記念 坂本繁二郎展」『アート・トップ』第172号, 1999年9月
「最後の『群展』開幕 坂本繁二郎没後30年節目に」『西日本新聞』1999年9月8日(筑後版)
「群展24回目で『終わり』 没後30年坂本繁二郎に師事の6人」『朝日新聞』1999年9月9日(筑後版)
「坂本が残した絵の背骨 最後の『群展』」『西日本新聞』1999年9月17日

ブリヂストン美術館所蔵品による

西洋の風景画

1999年9月15日(水)～11月14日(日)

会場：第6～8室

主催：石橋財団石橋美術館

後援：久留米市 / 財団法人久留米文化振興会

出品内容：油彩39点、水彩6点、グワッシュ1点 計46点

入場者総数：9,508人(1日平均179人)



同展ポスター

出品目録：

1. アントニー・ヤンズゾーン・ファン・デル・クロース《レイスウェイク城》/ 油彩・板 / 59.4×89.2cm
2. グレゴリオ・ラッサリーニ《黄金の子牛の礼拝》/ 1700-07年頃 / 油彩・カンヴァス / 91.2×148.4cm
3. ジャン＝バティスト・パテル《水浴》/ 油彩・カンヴァス / 56.7×65.5cm
4. カミュー・コロ《ヴィル・ダヴレー》/ 1835-40年 / 油彩・カンヴァス / 51.1×46.6cm
5. カミュー・コロ《オンフルールのトゥータン農場》/ 1845年頃 / 油彩・カンヴァス / 44.4×63.8cm
6. カミュー・コロ《森の中の若い女》/ 1865年 / 油彩・板 / 54.7×38.9cm
7. ジャン＝フランソワ・ミレー《乳しぼりの女》/ 1854-60年 / 油彩・カンヴァス / 59.0×72.4cm
8. シャルル＝フランソワ・ドービニー《レ・サーブル＝ドロンス》/ 油彩・板 / 39.1×67.1cm
9. ギュスターヴ・クールベ《雪の中を駆ける鹿》/ 1856-57年頃 / 油彩・カンヴァス / 93.5×148.8cm
10. アドルフ・モンティセリ《庭園の貴婦人》/ 1870-80年 / 油彩・板 / 42.2×55.9cm
11. ウジェース・ブーダン《トルーヴィル近郊の浜》/ 865年頃 / 油彩・板 / 35.7×57.7cm
12. カミュー・ピサロ《ブーヅヴァルのセーヌ河》/ 1870年 / 油彩・カンヴァス / 51.4×82.2cm
13. カミュー・ピサロ《菜園》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス / 55.2×45.9cm
14. アルフレッド・シスレー《森へ行く女たち》/ 1866年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×92.2cm
15. アルフレッド・シスレー《サン＝マメス六月の朝》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 54.6×73.4cm
16. アルフレッド・シスレー《レディーズ・コーヴ、ウェールズ》/ 1897年 / 油彩・カンヴァス / 54.3×65.3cm
17. クロード・モネ《アルジャントウイユの洪水》/ 1872-73年 / 油彩・カンヴァス / 54.4×73.3cm
18. クロード・モネ《アルジャントウイユ》/ 1874年 / 油彩・カンヴァス / 43.0×70.0cm
19. クロード・モネ《雨のペリール》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×73.7cm
20. クロード・モネ《睡蓮》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 81.5×100.5cm
21. クロード・モネ《黄昏、ヴェネツィア》/ 1908年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.0×92.5cm
22. アンリ・ルソー《イヴリー河岸》/ 1907年頃 / 油彩・カンヴァス / 46.1×55.0cm
23. アンリ・ルソー《牧場》/ 1910年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×55.3cm
24. ポール・ゴーガン《ボン＝タヴェン付近の風景》/ 1888年 / 油彩・カンヴァス / 72.9×92.2cm
25. ポール・ゴーガン《乾草》/ 1889年 / 油彩・カンヴァス / 55.4×46.2cm
26. フィンセント・ファン・ゴッホ《モンマルトルの風車》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 48.2×39.5cm
27. ポール・シニャック《コンカルノー港》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 73.4×53.9cm
28. ポール・シニャック《ラ・ロシェル》/ 水彩、鉛筆・紙 / 20.8×27.0cm
29. ポール・シニャック《プティ・タンドリー》/ 水彩、コンテ・紙 / 26.7×39.4cm
30. ピエール・ボナール《ヴェルノン付近の風景》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 63.4×62.4cm
31. アンリ・マティス《コリウール》/ 1905年 / 油彩・厚紙 / 24.5×32.4cm

-
32. アンリ・マティス《ルー川のほとり》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 38.3×47.0cm
 33. ジョルジュ・ルオー《風景》/ 1913年 / 水彩・紙 / 20.4×30.9cm
 34. ジョルジュ・ルオー《郊外のキリスト》/ 1920年 / 油彩・紙 / 92.0×73.6cm
 35. アルベール・マルケ《道行く人、ラ・フレット》/ 1946年 / 油彩・カンヴァス / 54.0×65.1cm
 36. モーリス・ド・ヴラマンク《風景》/ 水彩・紙 / 47.8×64.1cm
 37. ラウル・デュフィ《ドゥーヴィルの突堤》/ 油彩・カンヴァス / 54.3×80.9cm
 38. ケース・ヴァン・ドンゲン《シャンゼリゼ大通り》/ 1924-25年 / 油彩・カンヴァス / 68.0×52.2cm
 39. パブロ・ピカソ《生木と枯木のある風景》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 49.4×65.4cm
 40. モーリス・ユトリロ《サン=ドニ運河》/ 1906-08年 / 油彩・紙 / 53.4×74.5cm
 41. モーリス・ユトリロ《パリのアンジュール河岸》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 100.3×81.3cm
 42. アンドレ・デュノワイエ・ド・スゴンザック《風景》/ 水彩・紙 / 49.9×56.9cm
 43. マルク・シャガール《ヴァンスの新月》/ 1955-1956年 / グワッシュ・紙 / 64.9×50.1cm
 44. ジョルジョ・デ・キリコ《吟遊詩人》/ 油彩・カンヴァス / 62.4×49.8cm
 45. カイム・スーティン《大きな樹のある南仏風景》/ 1924年 / 油彩・紙 / 49.8×60.6cm
 46. ザオ・ウーキー《サバンナ(草原)》/ 1952年 / 水彩, ペン, インク・紙 / 33.2×37.4cm

関連事業:

開催記念美術講演会 → p.24

広報記録:

新聞:

「展覧会から ブリヂストン美術館所蔵品による西洋の風景画 15日から石橋美術館」『西日本新聞』1999年9月9日付夕刊
「モネなど46点 きょうから展示 石橋美術館」『西日本新聞』1999年9月15日(福岡県版)
太田秀紀「名作46点にワクワク 『西洋の風景画展』」『毎日新聞』1999年9月18日(筑後版)
「モネやミレーらの作品 『西洋の風景画』を展示 石橋美術館」『朝日新聞』1999年9月19日(筑後版)
「土曜ネット 『西洋の風景画展』開催記念 東大名誉教授高階氏招きあす講演会」『西日本新聞』1999年10月16日(筑後版)
「風景画の見方など講演」『読売新聞』1999年10月18日(筑後版)

<特別展示>

長崎・諏訪神社伝来

能面と能装束展

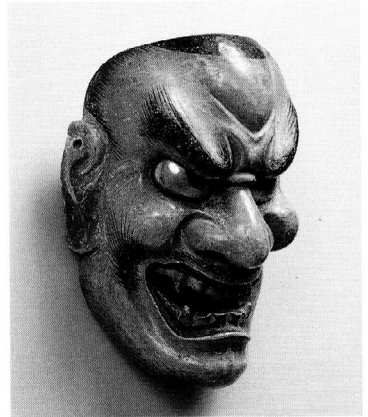
1999年5月25日(火)－6月6日(日)

主催：石橋財団石橋美術館別館

後援：久留米市 / 財団法人久留米文化振興会

出品内容：能面41点、能装束18点 計59点

入場者総数：1,396人(1日平均116人)



6.《鰐》

出品目録：

面

- 1.《翁》 / 江戸時代 / 19.5×15.3×5.2cm
- 2.《大飛出》 / 江戸時代 / 20.7×14.3×7.5cm
- 3.《小飛出》 / 江戸時代 / 20.5×14.6×6.5cm
4. 出目栄満《大癒見》 / 江戸時代中期 / 22.4×15.9×8.4cm
5. 出目栄満《小癒見》 / 江戸時代中期 / 20.7×15.3×7.6cm
6. 出目栄満《鰐》 / 江戸時代中期 / 20.5×12.9×7.1cm
7. 出目栄満《驚鼻悪尉》 / 江戸時代中期 / 20.8×13.8×8.4cm
- 8.《長霊癒見》 / 江戸時代 / 20.9×15.4×7.5cm
9. 出目栄満《黒髭》 / 江戸時代中期 / 20.5×14.5×7.0cm
- 10.《瘦男》 / 江戸時代 / 20.2×14.5×6.5cm
11. 出目栄満《怪士》 / 江戸時代中期 / 20.4×14.9×6.6cm
12. 出目栄満《筋怪士》 / 江戸時代中期 / 21.4×15.8×6.8cm
13. 出目栄満《河津》 / 江戸時代中期 / 20.0×15.1×6.6cm
14. 出目栄満《鷹》 / 江戸時代中期 / 20.1×13.2×7.0cm
15. 出目栄満《山姥》 / 江戸時代中期 / 21.2×14.4×6.6cm
16. 出目栄満《瘦女》 / 江戸時代中期 / 21.1×14.3×5.7cm
17. 出目栄満《泥眼》 / 江戸時代中期 / 21.1×13.5×5.2cm
18. 出目栄満《般若》 / 江戸時代中期 / 21.2×14.4×7.1cm
19. 出目栄満《生成》 / 江戸時代中期 / 21.4×14.8×6.3cm
20. 出目栄満《小牛尉》 / 江戸時代中期 / 21.0×12.6×6.7cm
21. 出目栄満《舞尉》 / 江戸時代中期 / 19.5×13.0×5.8cm
22. 出目栄満《朝倉尉》 / 江戸時代中期 / 19.6×12.7×6.7cm
23. 出目栄満《三光尉》 / 江戸時代中期 / 20.2×12.9×7.5cm
24. 出目栄満《中将》 / 江戸時代中期 / 20.0×13.5×5.9cm
25. 出目栄満《邯鄲男》 / 江戸時代中期 / 19.9×14.2×5.9cm
26. 出目栄満《平太》 / 江戸時代中期 / 20.0×14.1×6.2cm
27. 出目栄満《大喝食》 / 江戸時代中期 / 21.2×13.9×6.2cm
28. 出目栄満《小喝食》 / 江戸時代中期 / 21.2×13.7×5.5cm
29. 出目栄満《童子》 / 江戸時代中期 / 20.4×13.7×5.3cm
30. 出目栄満《狸々》 / 江戸時代中期 / 20.8×13.6×5.3cm

31. 出目栄満《頼政》 / 江戸時代中期 / 20.7×15.3×7.1cm
 32. 出目若狭《小面》 / 江戸時代中期 / 21.0×13.6×5.4cm
 33. 出目栄満《増女》 / 江戸時代中期 / 21.1×13.4×5.4cm
 34. 出目栄満《曲見》 / 江戸時代中期 / 21.1×14.0×5.8cm
 35. 出目栄満《深井》 / 江戸時代中期 / 20.5×13.5×5.7cm
 36. 出目栄満《近江女》 / 江戸時代中期 / 20.8×13.3×5.5cm
 37. 出目栄満《老女》 / 江戸時代中期 / 20.9×14.5×6.1cm
 38. 《姥》 / 江戸時代 / 20.4×13.4×5.2cm
 39. 《三番叟》 / 江戸時代 / 18.0×14.6×5.3cm
 40. 《景清》 / 江戸時代中期 / 20.3×14.2×6.0cm
 41. 出目栄満《増女》 / 江戸時代中期 / 21.1×13.6×5.5cm

装束

42. 《紺地丸紋尽くし模様唐織》 / 江戸時代 / 148.0×65.0cm
 43. 《紅地秋草模様唐織》 / 江戸時代 / 149.0×68.0cm
 44. 《茶地菊唐草模様唐織》 / 江戸時代 / 151.0×67.0cm
 45. 《白萌葱段替龍田模様唐織》 / 江戸時代 / 130.0×63.0cm
 46. 《紅浅葱格子段替鶴亀模様厚板》 / 江戸時代 / 146.0×74.0cm
 47. 《白地花扇模様縫箔》 / 江戸時代 / 118.0×60.0cm
 48. 《白地青海波桐団扇模様摺箔》 / 江戸時代 / 141.0×68.0cm
 49. 《浅葱地松薄模様舞衣》 / 江戸時代 / 95.0×83.0cm
 50. 《紺地牡丹唐草鳳凰模様袷被》 / 江戸時代 / 85.0×84.5cm
 51. 《紅地蜀江模様袷狩衣》 / 江戸時代 / 180.0×89.0cm
 52. 《紺地雲龍模様袷狩衣》 / 江戸時代 / 144.0×88.5cm
 53. 《浅葱雲鶴丸模様素襦》 / 江戸時代 / 98.0×101.0cm
 54. 《白地牡丹立湧模様半切》 / 江戸時代 / 88.0cm
 55. 《紅緞地菊唐草模様鬘帯》 / 江戸時代 / 253.0×3.5cm
 56. 《白地鱗模様鬘帯》 / 江戸時代 / 125.0×4.0cm
 57. 《白地桔梗模様鬘帯》 / 江戸時代 / 138.0×3.5cm
 58. 《納戸地鱗模様鬘帯》 / 江戸時代 / 238.0×3.5cm
 59. 《錦地金襴烏兜》 / 江戸時代



46. 《紅浅葱格子段替鶴亀模様厚板》

* 法量は面を縦×横×深さ、装束を丈×桁、鬘帯を丈×幅であらわす。
 作品はすべて諏訪神社の所蔵である。

広報記録:

新聞:

- 「展覧会から 長崎・諏訪神社伝来能面と能装束展 25日から石橋美術館別館」『西日本新聞』1999年5月13日付夕刊
 「能面や能装束を公開 諏訪神社所蔵の59点 復曲能来月上演を前に」『読売新聞』1999年5月25日(筑後版)
 「新能盛り上げへ秘蔵品がずらり 久留米で『能面と能装束展』」『朝日新聞』1999年5月26日(筑後版)
 「新能上演記念で特別展示 長崎・諏訪神社伝来 江戸時代の面や装束59点」『西日本新聞』1999年5月26日(筑後版)

<土曜講座>

土曜日 14:00~16:00 ホール

通算回数	月日	講座題目	講師
《地中海学会春期連続講演会 地中海：異文化の出会い》			
企画＝高山博氏(地中海学会, 東京大学助教授)			
1850	1999年4月10日	オスマン帝国のチューリップ時代	鈴木董氏(東京大学教授)
1851	4月17日	港の中の異文化	深沢克己氏(東京大学教授)
1852	4月24日	ガウディ：エジプトとの出会い	鳥居徳敏氏(建築家)
1853	5月 8日	ヴェネツィア：極東との出会い	石井元章氏(大阪芸術大学助教授)
1854	5月15日	中世ヨーロッパへのオルガン導入	片山千佳子氏(東京芸術大学助教授)
1855	5月22日	中世シチリアの異文化交流	高山博氏(東京大学助教授)

《庭園の宇宙誌》

企画＝福満葉子

1856	6月 5日	形而上の庭－風水と中国庭園	中野美代子氏(中国文学者)
1857	6月12日	大名庭園－夢と現実の世界旅行	白幡洋三郎氏(国際日本文化研究センター教授)
1858	6月19日	イスラム庭園－理想郷への憧憬	杉田英明氏(東京大学助教授)
1859	6月26日	異様の風景－庭としての18世紀ヨーロッパ	高山宏氏(東京都立大学教授)

《安井曾太郎の世界》

企画＝貝塚健

1860	2000年1月22日	安井曾太郎の人と芸術	嘉門安雄氏(東京都現代美術館館長) 聞き手 富山秀男
1861	1月29日	安井曾太郎と京都	島田康寛氏(京国国立近代美術館学芸課長)
1862	2月 5日	造形美の探求－残された写真から	富山秀男
1863	2月12日	安井曾太郎－「版画」の視点から	水沢勉氏(神奈川県立近代美術館主任学芸員)
1864	2月19日	安井曾太郎と『文藝春秋』	貝塚健

《版画の社会学》

企画＝福満葉子

1865	3月11日	版画と社会	坂本満氏(聖徳大学教授)
1866	3月18日	増殖するイメージ－版画による伝達・版画による再現	佐川美智子氏(町田市立国際版画美術館学芸員)
1867	3月25日	版画コレクションの誕生	保井亜弓氏(金沢美術工芸大学助教授)
1868	4月 1日	江戸の出版統制－浮世絵版画の情報伝達性	岩崎均史氏(たばこと塩の博物館主任学芸員)
1869	4月 8日	20世紀版画の経済史	広本伸幸氏(川村記念美術館学芸課長)

<日曜レクチャー>

入門編

日曜日 11:00~11:45 ホール

月日	タイトル	講師
1999年12月 5日	風景画の誕生	福満葉子
12月19日	クリスマスの図像学	吉城寺尚子
2000年 1月16日	絵と鏡	吉城寺尚子
1月30日	学芸員のしごと	貝塚健
2月13日	「安井曾太郎の『文藝春秋』表紙絵」について	貝塚健
2月27日	印象派って何?	宮崎克己
3月12日	日本の美術館, ここが悪い	田中千秋
3月26日	クーリエの仕事-美術品輸送の同行について	塚田美香子

応用編

日曜日 14:00~14:45 第1~2展示室

1999年12月5日, 12月19日, 2000年1月16日, 1月30日, 2月13日, 2月27日	「安井曾太郎の『文藝春秋』表紙絵」について	貝塚健
2000年3月12日, 3月26日	「レスタンプ・オリジナル」について	福満葉子

*リニューアル後に新たにもうけた日曜レクチャーは、「美術に興味を持ち始めた方, これから美術館めぐりをしてみようと考えている方など」を対象としている。開館以来続いていて、美術愛好家を主な対象にしていた土曜講座を補完する入門的な美術講座と位置づけている。

<リニューアル記念講演会>

1999年12月 4日(土)14:00~16:00 ホール リニューアル・デザインに携わって —— 高市忠夫 氏(建築家・デザイナー)
聞き手 宮崎克己
12月11日(土)14:00~16:00 ホール 現代の美術館と文化のシステム —— 宮崎克己
12月18日(土)14:00~16:00 ホール 美術館競合時代の問題点 —— 富山秀男

* 1999年7月1日から12月2日まで当館は休館してリニューアル工事を行った(→pp.57-63)。
その改修事業の基本的な考え方や実現にあたっての観点などを、中心となって携わった3人が発表した。

<版画の実演>

2000年3月9日(木)から6月4日(日)の木曜日と日曜日、ならびに5月5日(金)に実施(全27回) エントランス
各日とも、13:00からエッチング制作の実演、15:00からリトグラフ制作の実演
担当=田中千秋
リトグラフ技術指導、リトプレス機提供=阿部浩 氏(版画家)
協力=大山麻沙美 氏(版画家)

* 特集展示「『レスタンブ・オリジナル』—世紀末フランスの版画革命」にあわせて、来館者の版画制作の
理解を助けるため、展示作品の主要な技法であるエッチングとリトグラフについて、銅版・プレス機・
石版などを用いて版画制作の実演を行った。

<見学研究会「教材としての美術館」>

2000年1月15日(土) 14:30~18:00 ホールおよび展示室
主催:石橋財団ブリヂストン美術館

プログラム:

14:30~15:00 ケーススタディー1「鑑賞教育の実践」—— 岸本雅行 氏(中央区立阪本小学校教諭)
15:00~15:30 ケーススタディー2「美術館の夏休み企画」—— 一條彰子 氏(東京国立近代美術館研究員)
15:30~16:00 ケーススタディー3「世田谷美術館と小学校」—— 大庭秀幸 氏(世田谷美術館学芸員)
16:00~17:00 展示見学
17:00~18:00 質疑応答 / ディスカッション

参加者:67人(小学校図工科教諭40人;中学校美術科教諭3人;美術館博物館職員16人;その他7人)
広報記録:「ブリヂストン美術館が主宰した研究見学会 教材としての美術館」『ドーム』49号,2000年4月

<ギャラリートーク>

日曜日 11:00~12:00 / 15:00~16:00 展示室

1999年4月4日,4月11日,4月25日 「西洋美術の近代」—— 貝塚健
5月2日,5月9日,5月16日,5月23日,5月30日 「日本美術の近代」—— 貝塚健
6月6日,6月13日,6月20日,6月27日 「美術館について考える」—— 貝塚健

* 1998年8月から,月ごとにテーマを替えて毎週日曜日に実施した。

< 見学解説 >

1999年	4月20日(火)	福島市立野田中学校3年生	4名
	5月 9日(日)	日本大学芸術学部	約50名
	5月11日(火)	河口湖美術館友の会	約30名
	5月13日(木)	豊田市立猿投台中学校3年生	1名
	5月27日(木)	東久留米市立久留米中学校2年生	6名
	6月 2日(水)	IMCAデザイン専門学校	約20名
	6月 3日(木)	桐朋学園小学校6年生	79名
	6月30日(水)	中央区立阪本小学校4年生	約10名
	12月 8日(水)	川崎市高津区区民講座	約20名
	12月11日(土)	中央区区民講座	約20名
2000年	1月21日(金)	共立女子学園中学校1~2年生	合計約800名
	1月22日(土)	共立女子学園中学校1~2年生	
	1月25日(火)	共立女子学園中学校1~2年生	
	1月26日(水)	共立女子学園中学校1~2年生	
	1月27日(木)	共立女子学園中学校1~2年生	
	1月28日(金)	共立女子学園中学校1~2年生	
	1月29日(土)	共立女子学園中学校1~2年生	
	2月 9日(水)	共立女子学園中学校1~2年生	
	2月10日(木)	共立女子学園中学校1~2年生	
	2月16日(水)	共立女子学園中学校1~2年生	
	2月17日(木)	共立女子学園中学校1~2年生	

*ここでは事前打ち合わせのうえ、解説を行った団体を記している。解説は貝塚健、田中千秋が担当。

<美術講座>

月日	講座題目	講師
《特集展示「没後30年記念 坂本繁二郎」開催記念美術講座》		
1999年7月17日	坂本繁二郎の生涯と作品	植野健造
7月24日	坂本繁二郎とその周辺 (14:00~15:30 石橋文化会館2階小ホール)	尾崎正明 氏(東京国立近代美術館企画・資料課長)
《石橋美術館学芸員による美術講座》		
7月31日	坂本繁二郎のフランス留学	田内正宏
8月7日	日本絵画と四季	平間理香
8月21日	画家たちの視点 (14:00~15:30 石橋美術館集会室)	森山秀子
《秋の美術講座》		
10月16日	蒔絵 日本工芸の華	日高薫 氏(国立歴史民俗博物館助教授)
10月23日	印象派が描いた都市の風景 (14:00~15:30 石橋美術館集会室)	大森達次 氏(女子美術大学教授)
《特集展示「ブリタニオン美術館所蔵品による西洋の風景画」開催記念美術講演会》		
10月17日	光と色彩のドラーマー近代絵画に見る風景表現 (13:30~15:00 久留米市民会館)	高階秀爾 氏(東京大学名誉教授・国立西洋美術館館長)

<ギャラリートーク>

石橋美術館：第1,第3日曜日

石橋美術館別館：第2日曜日

各館展示室にてそれぞれ毎回テーマを替えて実施した。

時間：14:00~14:20

<見学解説>

1999年4月30日(金)	京都女子大学	43名
5月14日(金)	久留米教育クラブ	15名
6月4日(金)	久留米教育クラブ	15名
7月9日(金)	久留米教育クラブ	11名
7月14日(水)	八女市立大野小学校	17名
7月23日(金)	小郡市立三国中学校	23名
7月31日(土)	福岡市立曲淵小学校職員	10名
8月10日(火)	福岡県立学校事務長会筑後地区研修会	31名
9月10日(金)	福岡県教職員互助会	17名
9月10日(金)	久留米教育クラブ	5名
10月8日(金)	久留米教育クラブ	6名
11月10日(水)	NHK北九州文化センター	39名
11月11日(木)	大分大学	18名
11月12日(金)	NHK北九州文化センター	20名
11月19日(金)	久留米市立荘島小学校	52名
11月27日(土)	九州留学生フォーラム inくるめ	29名
12月10日(金)	久留米教育クラブ	8名
2000年1月14日(金)	久留米教育クラブ	7名
1月19日(水)	久留米市立中学校美術教諭研究会	20名
2月9日(水)	久留米市立高良内小学校教養委員会	8名
3月10日(金)	久留米教育クラブ	11名
3月30日(木)	伊予鉄愛媛新聞観光社主催「美術館の旅シリーズ」	43名

*事前打ち合わせのうえ、解説を行った団体のみを記している。

< 博物館実習生の受入れ >

学芸員資格取得のための博物館実習生を次のように受入れた。

期間：1999年8月3日～8月20日

人数：4校 5名

実習内容：

	10:00～12:00	13:00～17:00
8月3日(火)	館長挨拶 組織と運営	館内見学
8月4日(水)	作品の管理	作品の管理
8月5日(木)	作品の調査と調書の作成 (油彩画)	作品の調査と調書の作成 (油彩画)
8月6日(金)	写真の撮影	作品の取扱い
8月7日(土)	写真資料の整理保存	美術講座の開催、美術講座の聴講
8月8日(日)	実習ノート整理	実習ノート整理
8月10日(火)	作品の調査と調書の作成 (日本画)	作品の調査と調書の作成 (日本画)
8月11日(水)	図書資料の整理保存	図書資料の整理保存
8月12日(木)	文献資料の収集	文献資料の収集
8月17日(火)	他館見学	他館見学
8月18日(水)	図書資料の整理保存	図書資料の整理保存
8月19日(木)	久留米の文化財見学	久留米の文化財見学
8月20日(金)	実習ノート整理	実習ノート整理・提出、まとめ

入場者数

ブリタストン美術館

月	開館日数	有 料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	24	4,994	872	201	306	6,373	197	6,570	274
5	26	2,764	524	273	518	4,079	81	4,160	160
6	26	2,275	340	201	537	3,353	93	3,446	133
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	19	2,693	191	44	285	3,213	199	3,412	180
1	23	3,504	265	68	891	4,728	251	4,979	216
2	24	6,076	392	122	506	7,096	295	7,391	308
3	22	3,497	423	132	74	4,126	161	4,287	195
合計	164	25,803	3,007	1,041	3,117	32,968	1,277	34,245	209

石橋美術館

月	開館日数	有 料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	26	994	47	61	257	1,359	46	1,405	54
5	26	1,469	93	88	961	2,611	99	2,710	104
6	26	973	41	51	268	1,330	58	1,391	54
7	26	1,606	92	158	472	2,328	246	2,574	99
8	26	2,040	158	442	108	2,748	334	3,082	119
9	25	2,641	158	141	573	3,513	928	4,441	178
10	27	3,290	133	130	530	4,083	502	4,585	170
11	24	2,184	107	97	587	2,975	505	3,480	145
12	23	710	77	14	157	958	24	982	43
1	23	691	39	29	50	809	21	830	36
2	25	959	75	25	338	1,397	70	1,467	59
3	27	1,524	153	61	294	2,032	42	2,074	77
合計	304	19,081	1,173	1,297	4,595	26,146	2,875	29,021	95

石橋美術館別館

月	開館日数	有 料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	26	450	16	8	122	596	18	614	24
5	25	843	41	26	53	963	223	1,186	47
6	25	671	21	21	5	718	325	1,043	42
7	27	485	21	34	92	632	33	665	25
8	26	516	37	55	43	651	39	690	27
9	26	559	28	27	320	934	53	987	38
10	27	819	18	13	143	993	50	1,043	39
11	25	678	15	25	24	742	62	804	32
12	23	335	59	0	8	402	21	423	18
1	23	373	15	4	10	402	14	416	18
2	25	550	28	7	201	786	25	811	32
3	27	607	71	17	33	728	38	766	28
合計	305	6,886	370	237	1,054	8,547	901	9,448	31

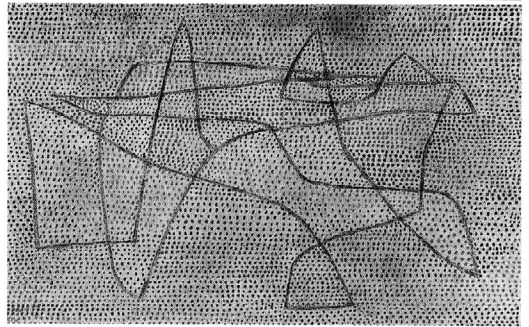
クレー, パウル
KLEE, Paul
1879-1940

島

1932年
油彩, 砂を混ぜた石膏・板
55.2×85.2cm
左下に署名; 裏面に署名, タイトル, 年記, 作品番号

Island (Insel)

1932
Oil and sand mixed plaster on panel
55.2×85.2cm
Signed lower left : Klee
Signed, titled, dated and numbered on the reverse : 1932 X12 / Insel / Klee



来歴 Prov.: Galerie Simon, Paris (Daniel-Henry Kahnweiler); by 1938, Karl Nierendorf, Berlin and New York; Mies van der Rohe, Chicago, probably acquired through Nierendorf in New York; December 24, 1950, Marianne (Manna) Lohan, Paris, Mies' daughter, a gift from the above; Galerie Tarica, Paris; March 28, 1984, Sotheby's, London, Impressionist and Modern Paintings and Sculpture, Part I, lot.246; Galerie Beyler, Basel, stock number 10354; 1987, Galerie Urban, Nagoya, Japan; Private Collection, Japan; ITOCHU Gallery Co., Ltd.; 2000, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.: 1935, Kunsthalle Basel, Basel, *Paul Klee*, no. 55; 1938, Buchholz Gallery Curt Valentin, *Exhibition of the work of Paul Klee*, no. 45

保管: ブリヂストン美術館 (外洋202)
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

1925年頃から、クレーは「モザイク画」とか「点描画」と呼ばれる作品を手がけは始めている。ベルン美術館所蔵の《パルナッソスへ Ad Parnassum》は、こうした一連の点描作品の頂点にあたるものである。《島》は、《パルナッソスへ》と同じ1932年に制作されており、クレー自らが付した作品番号も非常に近い(《島》はX12、《パルナッソスへ》はX14)。

また、両者の作品番号の間には、《ポリフォニー Poliphonie》(1932年, X13, バーゼル美術館所蔵)がある。「ポリフォニー(多声楽)」は、ヴァイオリニストでもあったクレーが絵画造形にもちこんだ音楽理念である。《パルナッソスへ》《ポリフォニー》の2点に並ぶ《島》は、クレーの点描時代において重要な位置を占める作品と考えられる。

児島善三郎

KOJIMA, Zenzaburō

1893-1962

立つ

1928年

油彩・カンヴァス, 139.0×78.0cm

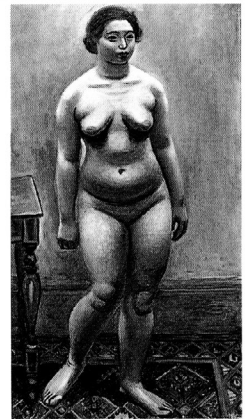
右下に署名: Z. Z. Kojima

Standing Nude

1928

Oil on canvas, 139.0×28.0cm

Signed lower right



来歴: 個人, 大阪; 溝上美術画廊, 福岡; 1999年4月2日, 購入

Prov.: Private collection, Osaka; Mizokami Art Gallery, Fukuoka; 1999, purchased.

展覧会歴: 1929 東京府美術館「第16回二科展」; 1993 福岡市美術館 / 千葉そごう美術館 / 茨城県近代美術館 / 小田急美術館 / 三重県立美術館「生誕100年記念 児島善三郎展」no.54

文献: 1929 荒城季夫「二科の展望」『美之國』5巻9号, p.90; 1929「アトリエ・グラフ」/「二科合評」p.12-13『アトリエ』6巻10号; 1929「二科を語る」p.28-29 / 志保谷達郎「二科展評」p.33『美之國』5巻10号; 1929 鈴木千久馬「二科を評す」p.38 / 高島達四郎「二科会評」p.46『美術新論』4巻10号; 1929 東郷青児「二科会の諸作」p.5 / 荒城季夫「二科に於ける近代性」p.7『みづゑ』296号; 1932『児島善三郎画集 - 日本芸術学会編新芸術家叢書7』建設社, pl.14; 1999 大熊敏之「主に日本の近代洋画を中心としながら」『山種美術館開館30周年記念シンポジウム報告書 日本に新古典主義絵画はあったか? - 1920~30年代日本画を検証する -』p.43-44

保管: 石橋美術館 (日洋495)

Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)

『レスタンプ・オリジナル』第1号

レスタンプ・オリジナル協会が1888年5月に刊行
ポートフォリオに収められた版画10点
限定125部のうちの105番

L'Estampe originale, 1st album

published by La Société L'Estampe originale, May 1888
The portfolio containing 10 prints
Ed.: 105 / 125

ブラックモン、フェリックス
BRACQUEMOND, Félix
1833-1914

レオン・クラデルの肖像

エッチング、アクアチント

画面サイズ：31.6×25.7cm；紙サイズ：45.8×32.7cm
版の左下に署名；右下の余白に赤インクで印
外版302

Portrait of Léon Cladel (Portrait de Léon Cladel)

Etching and aquatint

Image size: 31.6×25.7cm; sheet size: 45.8×32.7cm

Signed, lower left in plate: *Bracquemond*; red ink stamp, lower right margin.



ヴィエルジュ、ダニエル

(本名ウラピエタ・オルティス・イ・ビエルヘ)

VIERGE, Daniel

(Pseudonym of Urrabieta Ortiz y Vierge)

1851-1904

習作

エッチング

1888年

画面サイズ：26.8×19.2cm；紙サイズ：34.1×25.0cm
版の右下に署名と年記；右下の余白に赤インクで印
外版303

Study (Etude)

Etching

1888

Image size: 26.8×19.2cm; paper size: 34.1×25.0cm

Signed and dated, lower right in plate: *VIERGE/1888*; red ink stamp, lower right margin.



ベルトラン, トニー
BELTRAND, Tony
c. 1847-1904

独楽を見つめる子ども

木口木版

画面サイズ: 19.5×19.8cm; 紙サイズ: 30.3×24.9cm

版の左下に署名; 画面の右下に赤インクで印

外版304

Child with Spinning Top (L'Enfant à la toupie)

Wood engraving

Image size: 19.5×19.8cm; paper size: 30.3×24.9cm

Signed, lower left in block: *A. Beltrand*; red ink stamp, lower right composition; mounted on sheet.



ベルトラン, トニー
BELTRAND, Tony
c. 1847-1904

子どもの習作

木口木版

画面サイズ: 19.8×29.2cm; 紙サイズ: 28.4×36.9cm

版の左下に署名; 画面の左下に赤インクで印

外版305

Sketches of Children (Croquis d'enfants)

Wood engraving

Image size: 19.8×29.2cm; paper size: 28.4×36.9cm

Signed, lower left in block: *AT. BELTRAND*; red ink stamp, lower left composition; mounted on sheet.



ブテ, アンリ
BOUTET, Henri
1851-1919

舗道にて

ドライポイント, アクアチント

画面サイズ: 28.3×10.4cm; 紙サイズ: 37.0×15.5cm

版の左下に署名; 右下の余白に赤インクで印

外版306

On the Refuge (Sur le refuge)

Drypoint and aquatint

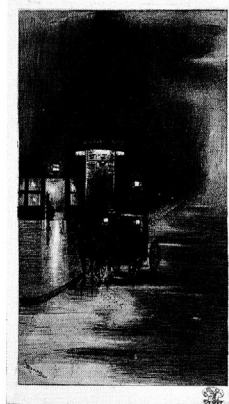
Image size: 28.3×10.4cm; paper size: 37.0×15.5cm

Signed, lower left in plate: *Hboutet*; red ink stamp, lower right margin.



ブテ, アンリ
BOUTET, Henri
1851-1919

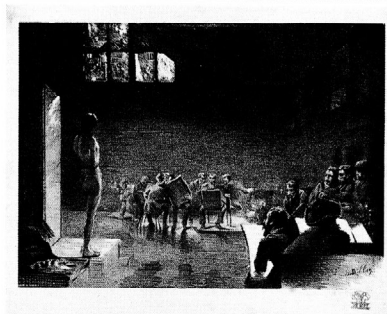
パリの街角, 夜
ドライポイント, アクアチント
画面サイズ: 39.6×16.1cm; 紙サイズ: 38.1×20.2cm
版の左下に署名; 右下の余白に赤インクで印
外版307



A Corner of Paris at Night
(Coin de Paris la nuit)
Drypoint and aquatint
Image size: 39.6×16.1cm; paper size: 38.1×20.2cm
Signed, lower left in plate: *HBoutet*; red ink stamp, lower right margin.

ディヨン, アンリ=パトリス
DILLON, Henri-Patrice
1851-1909

アトリエの情景
リトグラフ
画面サイズ: 22.5×32.1cm; 紙サイズ: 26.5×35.2cm
版の右下に署名; 右下の余白に赤インクで印
外版308



A Sitting at the Studio (Séance à l'atelier)
Lithograph
Image size: 22.5×32.1cm; paper size: 26.5×35.2cm
Signed, lower right on stone: *H. Dillon*; red ink stamp, lower right margin.

ディヨン, アンリ=パトリス
DILLON, Henri-Patrice
1851-1909

綺想
リトグラフ
画面サイズ: 30.4×18.9cm; 紙サイズ: 34.1×22.4cm
版の下部中央に署名; 画面の右下に赤インクで印
外版309



Fantasy (Fantaisie)
Lithograph
Image size: 30.4×18.9cm; paper size: 34.1×22.4cm
Signed, lower center on stone: *HP.DILLON*; red ink stamp, lower right composition.

ルペール, オーギュスト＝ルイ
LEPERE, Auguste-Louis
1849-1918

モンターニュ＝サント＝ジュヌヴィエーヴ通り
木口木版
画面サイズ：31.1×13.7cm; 紙サイズ：41.0×23.4cm
版の右下に書き込み; 版の右下に署名; 左下隅の余白に赤インクで印
外版310

La Rue de la Montagne-Sainte-Geneviève

Wood engraving
Image size: 31.1×13.7cm; paper size: 41.0×23.4cm
Inscribed, lower left in block: *PARIS. - LA RUE DE LA MONTAGNE Ste GENEVIEVE*; signed, lower right in block: *ALEPERE*; red ink stamp, lower left corner margin.



ルペール, オーギュスト＝ルイ
LEPERE, Auguste-Louis
1849-1918

オーステルリッツ橋から望むセーヌ河
木口木版
画面サイズ：17.0×27.0cm; 紙サイズ：30.4×45.9cm
版の右下に署名; 右下の余白に赤インクで印
外版311

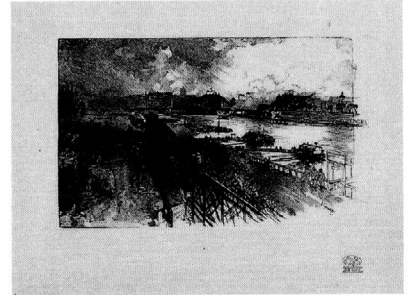
The Seine near the Austerlitz Bridge (La Seine au Pont d'Austerlitz)

Wood engraving
Image size: 17.0×27.0cm; paper size: 30.4×45.9cm
Signed, lower right in block: *ALEPERE*; red ink stamp, lower right margin.

以上10点

来歴 Prov.: Arsène Bonafous-Murat, Paris; Ishibashi Foundation

保管：ブリヂストン美術館
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)



ボナール, ピエール
BONNARD, Pierre
1867-1947

家族の情景

マルチ版『レスタンプ・オリジナル』第1号(1893年)所収
1893年
4色刷りリトグラフ
画面サイズ: 31.3×17.8cm; 紙サイズ: 58.3×41.6cm
版の左上に署名と年記; 右下の余白に鉛筆で番号と署名; 左下の余白に
空押し印

The Family (Famille)

L'Estampe originale, published by André Marty, Album I, 1893
1893

Four-colour lithograph

Image size: 31.3×17.8cm; sheet size: 58.3×41.6cm

Signed and dated, upper left on stone: *Bonnard/93*; numbered and
signed, lower right margin, pencil: *No6/Bonnard*; blind stamp, lower
left margin.

来歴 Prov.: Galleria Grafica Tokio; Ishibashi Foundation

保管: ブリヂストン美術館 (外版320)

Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)



シェレ, ジュール
CHERET, Jules
1836-1932

ダンス

マルチ版『レスタンプ・オリジナル』第4号(1893年)所収
3色刷りリトグラフ
画面サイズ: 37.0×23.1cm; 紙サイズ: 59.8×43.0cm
版の中央左に署名; 右下の余白に鉛筆で署名; 左下隅の余白に空押し印

Dance (La Danse)

L'Estampe originale, published by André Marty, Album IV, 1893

Three-colour lithograph

Image size: 37.0×23.1cm; paper size: 59.8×43.0cm

Signed, left center on stone: *J Chéret*; signed, lower right margin,
pencil: *Jules Chéret*; blind stamp, lower left corner margin.

来歴 Prov.: Galleria Grafica Tokio; Ishibashi Foundation

保管: ブリヂストン美術館 (外版322)

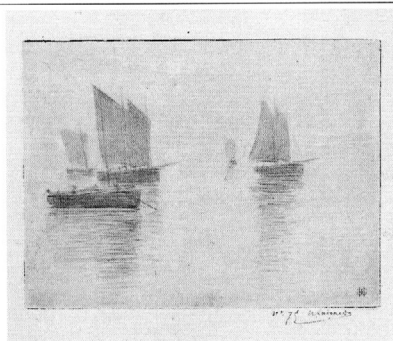
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)



ゲラール, アンリ=シャルル
GUERARD, Henri-Charles
1846-1897

霧の中の船

マルティ版『レスタンプ・オリジナル』第6号(1894年)所収
ルーレット
画面サイズ: 14.8×20.4cm; 紙サイズ: 44.5×59.1cm
版の右下にモノグラム; 右下の余白に鉛筆で番号と署名; 余白の左下隅に
空押し印



Boats in the Fog (Bateaux dans le brouillard)

L'Estampe originale, published by André Marty, Album VI, 1894
Roulette

Image size: 14.8×20.4cm; paper size: 44.5×59.1cm
Monogram, lower right in plate: *HCG*; numbered and signed, lower
right margin, pencil: *No. 79 H. Guérard*; blind stamp, left lower
corner margin.

来歴 Prov.: Galleria Grafica Tokio; Ishibashi Foundation

保管: ブリヂストン美術館(外版313)
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

ラコスト, シャルル
LACOSTE, Charles
1870-1959

ポートランド広場

マルティ版『レスタンプ・オリジナル』第7号(1894年)所収
リトグラフ
画面サイズ: 24.9×32.5cm; 紙サイズ: 42.1×60.0cm
右下の余白に鉛筆で番号; 左下の余白に鉛筆で署名; 右下隅の余白に
空押し印



Portland Place

L'Estampe originale, published by André Marty, Album VII, 1894
Lithograph

Image size: 24.9×32.5cm; paper size: 42.1×60.0 cm
Numbered, lower right margin, pencil: *No 54*; signed, lower left
margin, pencil: *Ch. Lacoste*; blind stamp, lower right corner margin.

来歴 Prov.: Galleria Grafica Tokio; Ishibashi Foundation

保管: ブリヂストン美術館(外版314)
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

ラ・ガンダラ,アントニオ・ド
LA GANDARA, Antonio de
1862-1917

座る女

マルティ版『レスタンプ・オリジナル』第5号(1894年)所収
リトグラフ

画面サイズ: 25.5×11.4cm; 紙サイズ: 60.2×43.3cm
右下の余白に鉛筆で署名; 右下隅の余白に番号; 左下隅の余白に空押し印

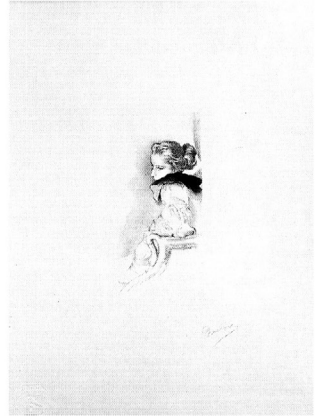
Seated Woman (Femme assise)

L'Estampe originale, published by André Marty, Album V, 1894
Lithograph

Image size: 25.5×11.4cm; paper size: 60.2×43.3cm
Signed, lower right margin, pencil: *Gandara*; numbered, lower right corner margin, pencil: 55; blind stamp, lower left corner margin.

来歴 Prov.: Galleria Grafica Tokio; Ishibashi Foundation

保管: ブリヂストン美術館(外版312)
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)



リュノワ,アレクサンドル
LUNOIS, Alexandre
1863-1916

あかり

マルティ版『レスタンプ・オリジナル』第3号(1893年)所収
5色刷りリトグラフ

画面サイズ: 32.8×27.2cm; 紙サイズ: 58.1×42.9cm
版の左下にモノグラム; 左下の余白に鉛筆で番号; 右下の余白に鉛筆で署名;
下部中央の余白に印刷者名; 左下隅の余白に空押し印

The Light (L'Illumination)

L'Estampe originale, published by André Marty, Album III, 1893
Five-colour lithograph

Image size: 32.8×27.2 cm; paper size: 58.1×42.9 cm
Monogram, lower left on stone: *AL*; numbered, lower left margin, pencil: *No44*; signed, lower right margin, pencil: *AlexLunois*; name of the printer, lower center margin: *A. Lafontaine & Fils, Paris*; blind stamp, lower left corner margin.

来歴 Prov.: Galleria Grafica Tokio; Ishibashi Foundation

保管: ブリヂストン美術館(外版319)
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)



ロップス, フェリシアン
ROPS, Félicien
1833-1898

柴を集める女

マルティ版『レスタンプ・オリジナル』第9号(1895年)所収
1874年
エッチング, ドライポイント
画面サイズ: 27.3×17.0cm; 紙サイズ: 60.5×43.0cm
版の下部中央に署名; 右下の余白に赤鉛筆で署名; 左下の余白に空押し印

The Firewood Collector (La Ramasseuse de fagots)

L'Estampe originale, published by André Marty, Album IX, 1895
1874

Etching and drypoint

Image size: 27.3×17.0cm; paper size: 60.5×43.0cm
Signed, lower center in plate: *F.Rops*; signed, lower right margin, red crayon: *F.Rops*; blind stamp, lower left margin.

来歴 Prov.: Galleria Grafica Tokio; Ishibashi Foundation

保管: ブリヂストン美術館 (外版318)
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)



ローセンスタイン, ウィリアム
ROTHENSTEIN, William
1872-1945

肖像

マルティ版『レスタンプ・オリジナル』第8号(1894年)所収
1894年
転写リトグラフ
画面サイズ: 19.2×15.0cm; 紙サイズ: 39.9×23.0cm
版の左下に署名と番号; 下部中央の余白に鉛筆で署名; 台紙の左下余白に空押し印

Portrait

L'Estampe originale, published by André Marty, Album VIII, 1894
1894

Transfer lithograph

Image size: 19.2×15.0cm; paper size: 39.9×23.0cm
Signed and numbered, lower left on stone: *Will R./94*; signed, lower center margin, pencil: *Will Rothenstein*; blind stamp, lower left margin mount; mounted on sheet.

来歴 Prov.: Galleria Grafica Tokio; Ishibashi Foundation

保管: ブリヂストン美術館 (外版315)
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)



ソム, アンリ (本名フランソワ=クレマン・ソミエ)
SOMM, Henry
(Pseudonym of François-Clément Sommier)
1844-1907

パリの女

マルティ版『レスタンブ・オリジナル』第5号(1894年)所収
ドライポイント
画面サイズ: 24.5×16.9cm; 紙サイズ: 60.0×43.0cm
版の右下に署名; 右下の余白に鉛筆で番号と署名; 右下隅の余白に空押し印



Head of a Parisian Woman (Tête de parisienne)

L'Estampe originale, published by André Marty, Album V, 1894
Drypoint

Image size: 24.5×16.9cm; paper size: 60.0×43.0cm
Signed, lower right in plate: *Hy. Somm.*; numbered and signed, lower right margin, pencil: *13/Henry Sommier*; blind stamp, lower right corner margin.

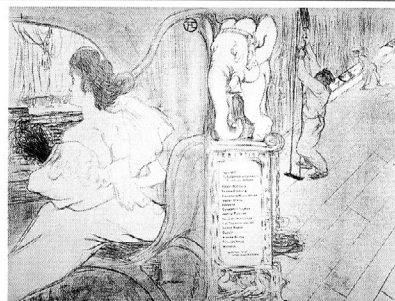
来歴 Prov.: Galleria Grafica Tokio; Ishibashi Foundation

保管: ブリヂストン美術館 (外版316)
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

トゥールーズ=ロートレック, アンリ・ド
TOULOUSE-LAUTREC, Henri de
1864-1901

『レスタンブ・オリジナル』最終号の表紙

マルティ版『レスタンブ・オリジナル』第9号(1895年)所収
1895年
2色刷りリトグラフ, カンヴァスで裏打ち
画面サイズ: 58.3×81.5cm; 紙サイズ: 58.3×83.4cm
版の上部中央にモノグラム; 画面の下部中央に鉛筆で署名; 版に書き込み



Cover for the Last Album of *L'Estampe originale* (Couverture pour l'album de clôture de *L'Estampe originale*)

L'Estampe originale, published by André Marty, Album IX, 1895
1895

Two-colour lithograph, lined with canvas
Image size: 58.3×81.5cm; paper size: 58.3×83.4cm
Monogram, upper center on stone: *HTL*; signed, lower center composition, pencil: *THLautrec*; inscribed on stone: *Mars 1895/ "L'Estampe originale"/ Album de clôture/ Albert Besnard/ Eugène Carrière/ Alexandre Charpentier/ Walter Crane/ Gandara/ Constantin Meunier/ Camille Pissarro/ Puvion de Chavannes/ H. de Toulouse-Lautrec/ Odilon Redon/ Renoir/ Pierre Roche/ Félicien Rops/ Willette/ André Marty éditeur/ imp. Edw. Ancourt 83 Fb. St. Denis.*

来歴 Prov.: Galleria Grafica Tokio; Ishibashi Foundation

保管: ブリヂストン美術館 (外版323)
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

ヴィレット, アドルフ・レオン
WILLETTE, Adolphe Léon
1857-1926

復讐

マルティ版『レスタンプ・オリジナル』第9号(1895年)所収
リトグラフ
画面サイズ: 40.2×36.2cm; 紙サイズ: 60.1×42.8cm
版の左下に署名; 右下の余白に青鉛筆で番号と署名; 右下の余白に空押し印



Revenge (Revanche)

L'Estampe originale, published by André Marty, Album IX, 1895
Lithograph

Image size: 40.2×36.2cm; paper size: 60.1×42.8cm
Signed, lower left on stone: *A. Willette*; numbered and signed, lower right margin, blue pencil: *No 88/A. Willette*; blind stamp, lower right margin.

来歴 Prov.: Galleria Grafica Tokio; Ishibashi Foundation

保管: プリチストン美術館(外版317)
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

ヴァロットン, フェリックス
VALLOTTON, Félix
1865-1925

信頼する人

1895年
木版
画面サイズ: 17.9×22.3cm; 紙サイズ: 25.2×31.9cm
版の左下に題名; 版の右下にイニシャル; 右下の余白に青鉛筆で番号と署名



A Trusting Man (Le Confiant)

1895
Woodcut
Image size: 17.9×22.3cm; paper size: 25.2×31.9cm
Titled, lower left in block: *LECONFIANT*; initialed, lower right in block: *FV*; numbered and signed, lower right margin, blue pencil: *29fvallotton*.

来歴 Prov.: Arcadia; Ishibashi Foundation

保管: プリチストン美術館(外版321)
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

坂本繁二郎書簡 7通

- 1) 坂井義三郎(犀水)宛書簡(1920年2月14日付) 封書
- 2) 坂井義三郎(犀水)宛書簡(1921年4月22日消印) 封書
- 3) 坂井義三郎(犀水)宛書簡(1923年1月1日付) 葉書
- 4) 坂井義三郎(犀水)宛書簡(1925年11月6日付) 封書
- 5) 坂井義三郎(犀水)宛書簡(1925年11月10日付) 葉書
- 6) 坂井義三郎(犀水)宛書簡(1937年1月1日付) 葉書
- 7) 坂井昭雄・晴彦宛書簡(1941年8月7日付) 封書

Seven Letters by SAKAMOTO Hanjiro

- 1) Letter paper to SAKAI Yoshisaburo(Saisui) dated February 14, 1920
- 2) Letter paper to SAKAI Yoshisaburo(Saisui) postmarked April 22, 1921
- 3) Postcard to SAKAI Yoshisaburo(Saisui) dated January 1, 1923
- 4) Letter paper to SAKAI Yoshisaburo(Saisui) dated November 6, 1925
- 5) Postcard to SAKAI Yoshisaburo(Saisui) dated November 10, 1925
- 6) Postcard to SAKAI Yoshisaburo(Saisui) dated January 1, 1937
- 7) Letter paper to SAKAI Akio and Haruhiko dated August 7, 1941

来歴：坂井香代子，東京；1999年4月23日，石橋財団に寄贈

Prov.: SAKAI Kayoko, Tokyo; 1999, donated to the Ishibashi Foundation.

保管：石橋美術館(雑83)

Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)

新取図書

ブリヂストン美術館

	購入	寄贈	計
和書	61冊	98冊	159冊
洋書	197冊	33冊	230冊
計	258冊	131冊	389冊

(展覧会図録・逐次刊行物は含まない)

石橋美術館・石橋美術館別館

	購入		寄贈	計
	石橋美術館	石橋美術館別館		
和書	127冊	89冊	71冊	288冊
洋書	1冊	0冊	0冊	1冊
漢書	0冊	0冊	0冊	0冊
計	128冊	89冊	71冊	289冊

(展覧会図録・逐次刊行物は含まない)

修復記録

モーリス・ドニ《バッカス祭》 1920年
油彩・麻布 139.5×99.3cm
ブリヂストン美術館

はじめに

本修復の目的は作品の現状を出来る限り保存しつつ、貸出しに伴う海外への輸送、展示に耐えられる、物理的な安定状態をもたらす事にある。この処置の目的ならびに方針は二つの理由に拠る。

第一に福満学芸員の調査によると、「本作品はかつてジュネーヴにあった毛皮店の室内装飾のために、1920年にドニが描いた大画面の油彩画(280×420cm)の習作である。完成作は、上記の店舗が改装された折に壁面から剥がされ、1980年代後半に市場に姿を現したが、その時には無残にも画面が二つに分断されていた。市場にも2点の作品として別々に出たのである。したがって本作品は、完成作のオリジナルの姿を伝える貴重な作例である。」

この様に大画面の油彩画の下絵として制作されたものである事が確認された。下絵を拡大する際に使用されたものか、作品の画面周辺部に針穴が開けられている。同時に、作品にはワニス等は塗布されていない。

第二には本作品は2001年春に海外への貸出しが予定されている。貸出しの為に作品を修復する事には賛否両論があるが、本修復は長期的な作品の運用計画および修復計画に基いたもので、通常語られる応急的なそれとは異なる。逆に言えば作品の保存を考えた場合、長期的な作品の運用計画とそれに伴う修復計画が立案されなければならない。

以上のことから、本修復は作品の物質面でのオリジナリティを尊重し、同時に出来る限り処置介入を軽減する。

それによって、経年劣化による作品の変質は伴うが、作者が制作した時の状態を保存する。

さらに、海外への輸送に物質としても耐え、そして展示する際の鑑賞に耐え得る事。

これら全てを満たす修復処置、ならびに保存処置を目的とした。

作品の状態

この作品は白色地塗りが施された既製のキャンバスに、油彩で描かれている。

亜麻布は織糸数、経糸19本、緯糸15本の平織りで、経糸が画面の左右方向に使用されている。比較的目の詰んだ亜麻布であるが、軽い織り斑が観察され、織り糸の紡ぎ斑もある。

支持体の亜麻布は、員数6本の木枠(fig.4)にタックスで張り込まれている。木枠は、四隅および中棧の接合部がそれぞれ2本ずつの木ネジで固定されている。それぞれの辺の断面は長方形であり、表面側全面が画布と接触してしまっている。これは、今後ストレッチャークリース等の損傷がさらに大きくなる可能性が非常に高く、画布の支持方法を早急に改善する必要がある。

画布の張り代の状態から、少なくとも過去に一度張り直されたことが観察される。画布の張り込みに使用されたタックスは、絵画用のもので殆どが著しく錆びている。この錆は画布張り代を腐食し、一部の張り代はタックスから脱落した状態となっている。タックスは、上辺19本、下辺17本、左辺12本、右辺15本が残されているが、それぞれのタックスの近くに古い釘穴が観察される(fig.5,6)。また張り代部には錆による損傷以外にも、巾不足や破れが見られる。

張り代の上辺左方には描画とも思われる絵具層が観察され、釘穴がこの絵具層を貫通していることから、作品の寸法が変更された可能性がある。また、張り代部には刃物または鋭いものによる線刻が見られ(fig.5)、部分によってはこの線刻が画面寸法となっている。

絵具層には斜光線および透過光線による写真で分かる



fig.1 モーリス・ドニ《バッカス祭》修復前全図



fig.2 《バッカス祭》修復前左方斜光線

ように (fig.2,3), ストレッチャークリースが強く発生している。また、画布が木枠から脱落してしまったため、亜麻布の温湿度変化による伸縮によって縦方向に亀裂が発生している。

画面左上角には強くものが当たったと思われる損傷があり、絵具層、地塗り層のみならず支持体に裂けが見られる (fig.7)。画布を木枠から外した際に、この部分の木枠にも当たり傷が観察された。暗青色と緑色の一部には乾燥亀裂が発生している。それ以外にも画面周辺部は額による擦れ跡が見られる。

作品には保護ニスが塗布された痕跡は無く、艶消しの状態である。また、絵具層表面には汚れが付着している。

額は国産のものではないが、いつの時点で本作品に取り付けられたのかは不明である (fig.1)。下辺の両角は著しく損傷しているが、他の部分についても以前損傷していたと思われる。額は修復が行なわれ、全面に新たな地が作られ、真鍮箔が貼られ刻印が打たれている。この処置を行なったのは日本であろうことが額製造者からの聞き取りによって判明した。額の作品の保持力は失われていると考えられ、同時に、この額装では作品の保存上はほとんど機能しておらず、早急に額装を改善する必要がある。特に海外への貸出しを考慮すると作品の保存に重点をおいた額を新調する必要がある。

以上の結果から下記の修復計画を作成し、修復を行なった。

[修復計画]

- * 調査・写真撮影・記録
- * 絵具層損傷部接着強化
- * 画布変形修正・損傷部補強
- * 画布張り代の補強
- * 木枠調整
- * ルースライニング用亜麻布の準備

- * 画布張り込み(ルースライニング)
- * 画面汚損の除去
- * 絵具層接着強化
- * 絵具層損傷部の充填補彩
- * 報告書作成

修復処置

現状記録として可視光(全光、斜光、透過光)及び紫外線蛍光による写真を撮影した。

赤外線ビジコンカメラを使用し赤外線画像調査を行った。

絵具層の損傷部をエチレン化酢酸ビニル樹脂(D-8)によって接着の強化を行った。

画布を木枠から外し、仮固定用の枠に張った後、画布の変形の著しい部分には裏面から2%程度の膠水を極少量塗布し、低温のアイロンで加温加圧し画布の変形を修正した。画布の損傷部には裏面から亜麻糸をD-8で接着し破れを繋いだ (fig.8)。

画布張り代部分に薄手の亜麻布を合成樹脂(BEVA 371)で裏打ちし、画布張り込みの補強をした。

木枠裏面に貼られているラベルが処置中に損傷しないように、和紙による養生を行った。

木枠の調整は二種類の行程である。一つにはルースライニングはかなりの張力が要求され、一般にはそのため木枠を新調する事が多い。今回の修復では木枠は作者が描画時に使用したものでは無いにしても、作品寸法の変更の可能性があり、その資料的価値は大きい。現状の木枠は断面が長方形であり、このままでは使用する事はできないが、組み手には十分な強度があり、断面の形状を改善すれば現状のものを使用する事が可能である。この改善には、断面を直角三角形にしたアガチス材をPVA樹脂で貼りつけた。同時に損傷を受けていた部分にも埋め木を行なった (fig.9)。

もう一つは現状の木枠を使用する事から、釘穴を木枠の

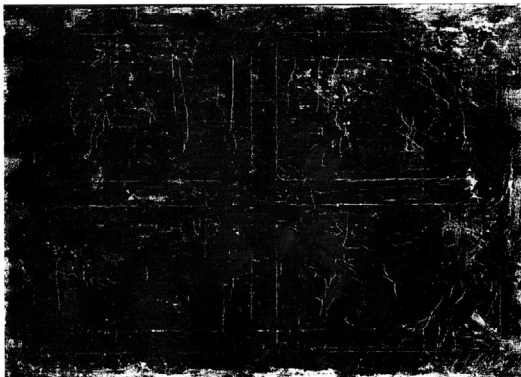


fig.3 《バカスカ祭》修復前透過光

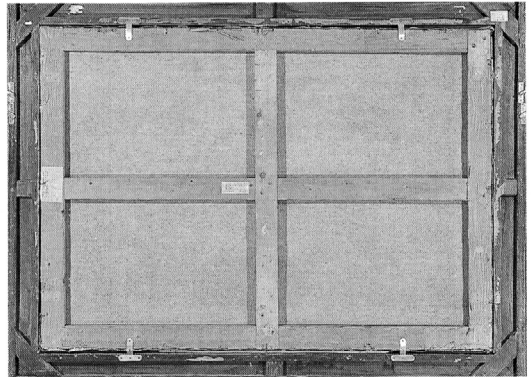


fig.4 《バカスカ祭》修復前裏面

木材と同様のものでも塞ぐ処置である。こちらにも接着剤としてPVA樹脂を使用した。

ルースライニング用の亜麻布には、アクリル樹脂のプライマーを塗布することで、湿度変化による布の収縮を押さえる、と同時に織り目を固定し弛みにくくした。

オリジナル画布に密着する側はサンドペーパーをかけて繊維を毛羽立たせ、当たりを柔らかくすると同時に接触抵抗を増やした。この亜麻布はステンレス製のステーブルを使用して張り込んだ (fig.10)。

画布の張り込みにはステンレス製のタックスを使用し、画布張り代の元の釘穴に重なるようにした。また、緩衝材として、画布とタックスの間にシリコンラバーシート(0.5mm厚)を挟み込んだ (fig.11)。

画面の汚損の除去には精製水を使用し、細い豚毛の筆で絵具層のマニエールに沿って洗浄を行なった。

絵具層が粉状化している部分には、洗浄中に適宜D-8を使用して接着強化を行なった。

顕かな絵具層の損傷部にのみ、水彩絵具による補彩を行なった。また、支持体や地塗り層からの損傷部には白亜と膠水による充填材を充填し整形した後に補彩を行なった。

補彩部分はアクリル樹脂エマルジョンを極少量塗布し、艶合わせを行なった。他の部分についてはオリジナルティを尊重する上から、一切のワニスには塗布していない。

報告書を作成した。

おわりに

ここで本作品の額および額装について簡単に記したい。作品の保存を考える場合、額は非常に重要な因子である。よって、今回の修復においても現状の額および額装が改善される事を前提とした。

現状の額については、並木木工所飯塚深氏によると「国産のものでは無く、欧州で制作されたものと考えられる。

その後作品とともに日本へ将来され、損傷と経年劣化が修理されている。この修理は日本において成されたもので、その当時の技術は未熟であり修理では無く、質の悪い作り直しに近い処置となってしまうている。」

本来の額は、田中学芸員の調査で不完全ではあるが凶版が見ついている。細かな刻印が押された贅沢なものであり、現状のものは僅かにその印象を留めているのみである。

協議の結果、額はこの図録に基き新調することとした。この額装についての報告は次号館報に掲載される予定である。

近年作品の保存修復は、作品周辺のもの全てを取り込んだ形で成されて行く傾向がある。これは修復家にとっては楽な事では無い、と同時に修復家個人が成し得る範疇から外れて行く事でもあろう。

本報告にも記したように、作品を収蔵管理している美術館に専門の保存担当学芸員が配置され、さらに専門の学芸員による調査、そして作品の運用計画を管理して行く学芸管理職、実際の作業を行なう修復家や額製造者等、それら全てが連携しなくては成され難い。

ブリチストン美術館は日本の現状において、この連携が行なえる非常に数少ない美術館であり、本修復は日本の美術館における、今後の作品の保存修復についての一例となったものと考えられる。

(絵画修復家 石井亨)

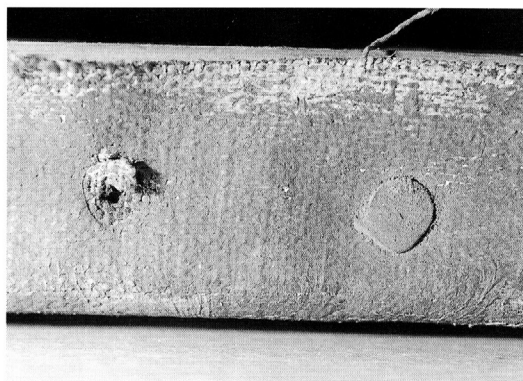


fig.6 《バッカス祭》画布張り代打ち直しの釘跡(左)、絵具層上の釘(右)

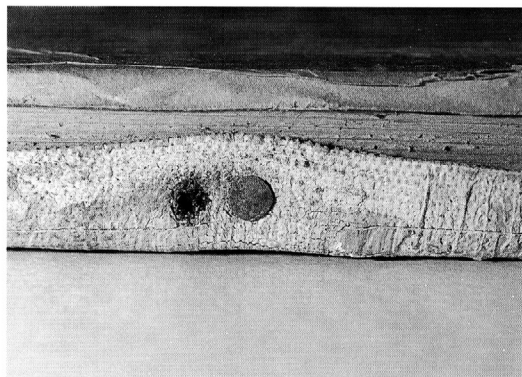


fig.5 《バッカス祭》画布張り代、けがき線

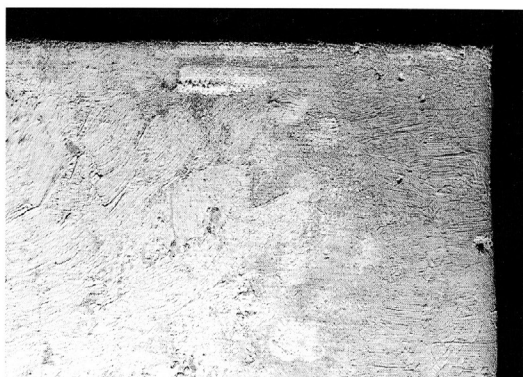


fig.7 《バッカス祭》画面左上角、物理的な損傷(木枠にも傷がついていた)

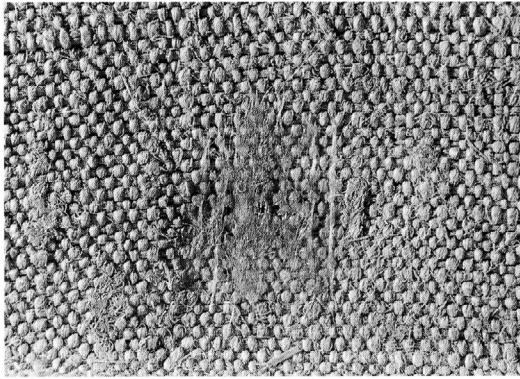


fig.8 《バッカス祭》画面左上角裏面、損傷部の接着

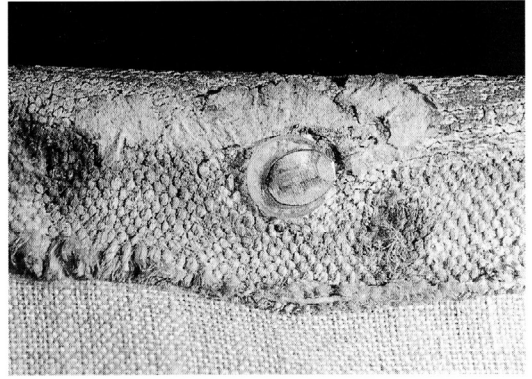


fig.11 《バッカス祭》画布張り込みの状況、ステンレスの鉋とシリコンラバークッション

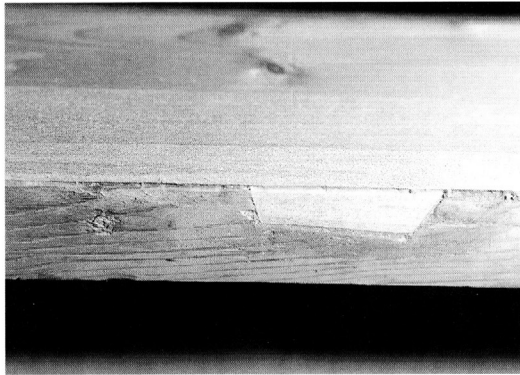


fig.9 《バッカス祭》画面左上角、損傷部の木枠に埋木を施す



fig.12 《バッカス祭》修復後左方斜光線

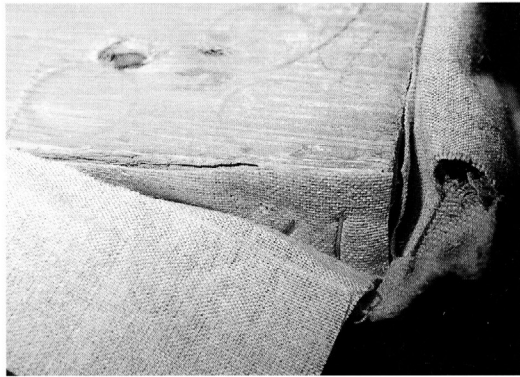


fig.10 《バッカス祭》ルースライニングの状況



fig.13 《バッカス祭》修復後全図

池田孤村(1801-1866)《夏秋楓図》 江戸時代
紙本金地著色 / 屏風装(六曲一双) / 66.2×143.6cm(各)
石橋美術館別館

現在の状況

(イ) 品質形状及び寸法

形状	屏風装(六曲一双)
〈修理前〉	大緑：古色紙短冊の切継ぎ張り 緑：本桑 金具：あり 裏紙：花頭文唐紙 箱：あり
〈修理後〉	応急修理の為、解体・解装をせず、 仕様に変更・変化なし
〈修理前寸法〉	一扇：丈 66.2cm, 幅 34.3cm 全体：丈 77.0cm, 幅 143.6cm
〈修理後寸法〉	応急修理の為、解体・解装をせず、 寸法に変更・変化なし

(ロ) 破損状況

屏風は永年湿度の高い場所に、箱に収納されたままで放置されていたようでありました。その結果、画面全体に、夥しい白黴の発生と虫損による虫穴が数力所見受けられ、その他、本紙・前尾瀬・奥尾瀬・後尾瀬に湿気による糊離れの発生が見受けられました。このままでの展示開陳は不適切であると思われました。

修理方針

燻蒸により虫や黴の殺虫・殺菌を行い(この工程は専門の業者に依頼)修理前後の撮影を行いました。屏風及び収納箱の虫・黴等の死骸の除去を刷毛・筆等で行いました。本紙と前尾瀬・奥尾瀬・後尾瀬の糊離れ発生箇所に応急処置

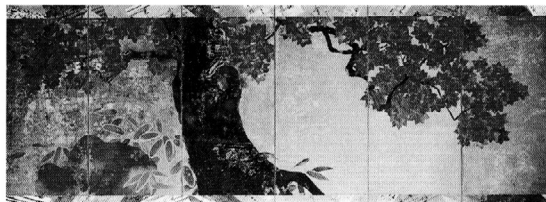
的に糊差しを行いました。金箔部分の白黴による汚れ等は脱脂綿・綿棒等により、僅かな水分を含ませてクリーニングを行いました。岩絵具の部分は筆に5%アルコール水溶液を含ませて筆先で塗布し、ティッシュペーパーで吸い取りました。

屏風の寸法・重さ、蝶番の劣化程度や今後の使用状況及び保存環境等を鑑み、上記の応急処置的修理で向こう数十年は保存に支障がないと思われましたので、上記の処置を取りました。

※但し、燻蒸により完璧に殺虫・殺菌が行われ、定期的に再発生がないかの点検を行ってという条件付きではありました。

修理仕様

- (1) 修理前撮影及び調査：修理前の写真撮影を行い、状態・紙質等の調査を行いました。
- (2) 黴・虫・埃等の除去：燻蒸の後、保存箱と屏風の白黴・虫等の死骸の除去を刷毛・筆等で行いました。
- (3) 本紙・屏風装の糊差し：本紙・前尾瀬・奥尾瀬・後尾瀬の糊離れの発生箇所には糊差しを行いました。
- (4) 本紙の整備：本紙の金箔の部分のくすみ等(白黴の残り及び分泌物等)の除去を脱脂綿・綿棒に少量の水分を含ませ行いました。
- (5) 本紙の整備：本紙の彩色(岩絵具)の部分のくすみ等(白黴の残り及び分泌物等)の除去を、筆に5%のエチルアルコール水溶液を含ませて筆先で塗布し、ティッシュペーパーで吸い取りました。
- (6) 乾燥・点検：開いた状態で十分に乾燥させ、数回開閉を行い糊離れ箇所の再発生がないか点検を行い、同じく再び黴の発生がないかも確かめました。
- (7) 修理後撮影：修理後写真撮影を行いました。
- (8) 完成：元の保存箱に納め完成としました。



修理前



修理後



※ 5 番の工程は新しく行いました。水だけでは岩絵具が
弾き除去出来なかったので、絵具に影響のない程度の
アルコールを加えて親水性を持たせ除去を行いました。
(富永米山堂 富永憲太郎)

富田溪仙(1879-1936)《稍白鷺》
絹本着色 / 掛幅装 / 139.5×50.2cm
石橋美術館別館

現在の状況

(イ) 品質形状及び寸法

形状 掛幅装

〈修理前〉 一文字・風帯：白地小牡丹唐花文金襴
中縁：茶地中牡丹唐草文金襴
天地：浅萌葱地唐花文緞子
軸首：牙頭切軸(径9分)
墨書：なし

保存箱：あり(桐差込二重箱)
〈修理後〉 応急修理の為、解体せず、表装に変更・
変化なし

保存箱：太巻芯添え桐葉籠箱新調
(太巻径2寸7分)、

元箱はそのまま保存
〈修理前寸法〉 本紙：丈 139.7cm, 幅 50.3cm
表具：丈 230.0cm, 幅 65.0cm

〈修理後寸法〉 応急修理の為、解体せず、
寸法に変更・変化なし

(ロ) 破損状況

経年劣化により白鷺の胡粉盛り上げ彩色の部分に亀裂が生じ、それに伴い剥落が進行していました。このままでの展示開陳は不適切であると思われました。

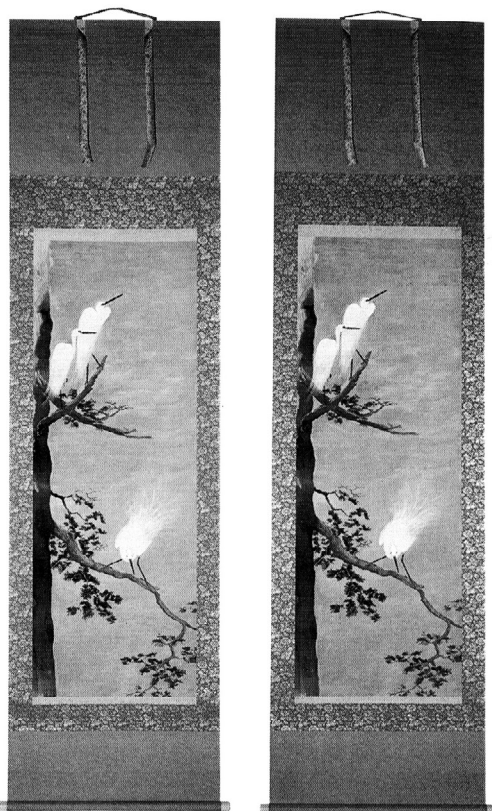
修理方針

修理前後の写真撮影を行いました。解装(上下軸と風帯のみ外す)を行いました。刷毛・筆等で永年の埃の除去を行いました。スプレーで水を噴霧し、バキューウムボックス

にて裏より吸引を行い同じく埃等の除去を行いました。胡粉盛り上げ彩色の部分と全体の剥落止めを膠の水溶液1.5~2%を含ませた筆等で行い十分に乾燥させました。総裏(最後の裏打ち)の紙を湿らして除去を行いました。布海苔0.5%水溶液を表具全体に含浸させて、表具全体の接着力の補強を行いました。中裏打ちを行いました。最後に総裏打ちを行いました。その際、剥落箇所の裏より膠の水溶液2~3%を含浸させました。胡粉盛り上げの厚い部分には、新糊も使い糊差しを行い剥落止めを行いました。十分に仮張り乾燥させました。上下軸及び風帯等を付け、元の軸装に戻しました。再び胡粉の剥落を予防するために、巻を大きくし太巻芯添桐葉籠箱(太巻芯径2寸7分)を新調し、包装を添え完成としました。

修理仕様

- (1) 修理前撮影及び調査：修理前の写真撮影と状態等の調査を行いました。
- (2) 表具解装・解体：風帯・上下軸のみ外し、解装・解体を行いました。
- (3) 埃等の除去：永年に亘る埃等の除去を刷毛・筆等で行いました。
- (4) 埃等の除去：スプレーで水を噴霧し、バキューウムボックスにて埃等を抽出しました。



修理前

修理後

- (5)剥落止：膠の水溶液1.5～2%前後を含ませた筆等にて彩色部分の剥落止めを数回行い充分に乾燥させました。特に胡粉の剥落箇所を入念に行いました。
- (6)総裏打紙の除去：本紙の旧総裏打紙の除去を行いました。
- (7)布海苔の含浸：布海苔の0.5%水溶液を全体に含浸させて、打刷毛を軽く数回入れて表具全体の接着力の補強を行いました。
- (8)中裏打ち：表具全体に美栖紙と古糊にて中裏打ちを行い乾燥させました。
- (9)総裏打ち：宇陀紙と古糊にて総裏打ちを行い仮張り乾燥させ、その際に、膠2～3%水溶液を剥落箇所の裏からも含浸させました。
- (10)裏摺り及び表張り：表具に柔軟性と裏面に滑りの良さを与えるために、数珠にて裏摺りを行い、表向けに空張りを行い充分に乾燥させました。
- (11)剥落止め：表張りの期間中に胡粉盛り上げの部分のみ、膠だけでは不十分と思われましたので、新糊にて糊差

しを行い、剥落止めを行いました。

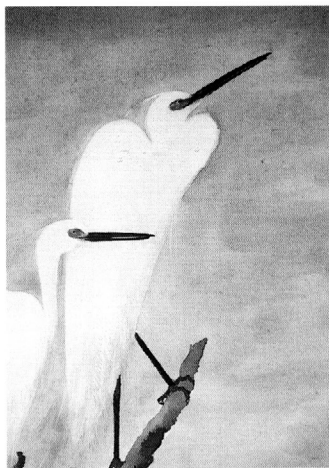
- (12)仕上げ：仮張りより捲り、風帯・軸・鑽・紐等を付けて掛幅装に仕上げました。
- (13)修理後撮影：修理後写真撮影を行いました。
- (14)完成：包裂に包み、新調した太巻芯添桐葉籠箱に納め完成としました。

※11番の工程を新たに加え行いました。

(富永米山堂 富永憲太郎)



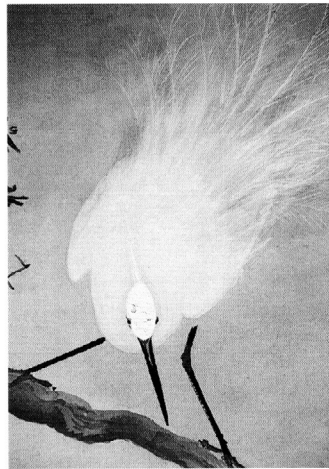
修理前



修理後



修理前



修理後

作品貸出記録 ブリヂストン美術館

「ルノワール展」

川村記念美術館 / 1999年4月3日-5月16日

宮城県美術館 / 5月25日-7月4日

北海道立近代美術館 / 7月15日-8月29日

ピエール=オーギュスト・ルノワール《花のついた帽子の女》(外洋35) *川村記念美術館, 宮城県美術館 (6月13日まで展示)

ピエール=オーギュスト・ルノワール《カーニユのテラス》(外洋33) *宮城県美術館 (6月15日から展示), 北海道立近代美術館

ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわるジョルジェット・シャルバンティエ嬢》(外洋169) *北海道立近代美術館

「ロダン展」

高知県立美術館 / 1999年6月26日-7月25日

島根県立美術館 / 7月31日-8月29日

オーギュスト・ロダン《クローデル嬢》(外彫42)

「生誕100年記念 関根正二展」

神奈川県立近代美術館 / 1999年7月10日-8月22日

福島県立美術館 / 9月4日-10月17日

愛知県美術館 / 10月29日-12月12日 (11月14日まで展示)

関根正二《子供》(日洋178)

「宮本三郎展」

東京都庭園美術館 / 1999年8月7日-9月19日

石川県立美術館 / 9月25日-10月24日

宮本三郎《石橋正二郎氏像》(日洋288)

「エコール・ド・パリとその時代」

笠間日動美術館 / 1999年8月14日-9月23日

名古屋市美術館 / 10月2日-11月28日 (11月14日まで展示)

佐伯祐三《広告貼り》(日洋176)

オシップ・ザツキン《母子》(外彫54)

アレキサンダー・アーケペンコ《ゴンドラの船頭》(外彫86)

「再発見日本の姿：キー・ワードはデロリ」

郡山市立美術館 / 1999年9月11日-10月24日

岸田劉生《街道(銀座風景)》(日洋228)

岸田劉生《画家の妻》(日洋229)

「セザンヌ展」

横浜美術館 / 1999年9月11日-12月19日

愛知県美術館 / 2000年1月5日-3月12日

ポール・セザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》(外洋32) * 横浜美術館 (11月15日まで展示)

ポール・セザンヌ《凭れる裸体》(外洋27) * 横浜美術館

ポール・セザンヌ《休息する水浴の男たち》(外洋158) * 横浜美術館

ポール・セザンヌ《鉢と牛乳入れ》(外洋28) * 横浜美術館, 愛知県美術館 (2月2日まで展示)

ポール・セザンヌ《三人の水浴の女》(外洋29) * 愛知県美術館

ポール・セザンヌ《水浴群像》(外洋30) * 愛知県美術館

ポール・セザンヌ《水辺の人物たち》(外洋113) * 愛知県美術館

ポール・セザンヌ《帽子をかぶった自画像》(外洋31) * 愛知県美術館 (2月4日から展示)

Honoré Daumier

Galeries nationales du Grand Palais, Paris, October 5, 1999–January 3, 2000

The Phillips Collection, Washington, February 19–May 14, 2000

オノレ・ドーミエ《山中のドン・キホーテ》(外洋171)

Le Fauvisme ou L'Epreuve du Feu

Musée d'Art Moderne de la Ville de Paris, October 28, 1999–February 27, 2000

アンリ・マティス《画室の裸婦》(外洋56)

Degas to Picasso: The Painter, the Sculptor, and the Camera

Dallas Museum of Art, February 31–May 15, 2000

Guggenheim Bilbao, June 4–September 3, 2000

ポール・ゴーガン《馬の頭部のある静物》(外洋168)

「顔 絵画を突き動かすもの」

京都国立近代美術館 / 2000年2月22日-3月20日

アンリ・マティス《青い胴着の女》(外洋62)

「シスレー展」

伊勢丹美術館 / 2000年3月2日-4月17日

高松市美術館 / 4月22日-5月21日

ひろしま美術館 / 5月27日-7月2日

アルフレッド・シスレー《レディース・コーヴ, ウェールズ》(外洋133)

作品貸出記録 石橋美術館

「東アジア / 絵画の近代－油画の誕生とその展開」
静岡県立美術館 / 1999年4月10日－5月23日

岡田三郎助《水浴の前》(日洋63)
青木繁《大穴牟知命》(日洋197)

「京都洋画のあけぼの」
京都文化博物館 / 1999年9月25日－10月24日

森三美《鶏のいる風景》(寄託)
森三美《農夫》(寄託)
森三美《肥前田舎風景》(寄託) * 展覧会では作品名：《筑後風景》
森三美《京都風景(神社)》(寄託) * 展覧会では作者：小山三造・博成社
森三美《宇治茶摘》(寄託) * 展覧会では作者：小山三造・博成社
森三美《京都風景(寺院)》(寄託) * 展覧会では作者：小山三造・博成社
森三美《宇治川橋》(寄託) * 展覧会では作者：小山三造・博成社
森三美《北野神社》(寄託) * 展覧会では作者：小山三造・博成社
森三美《本願寺》(寄託) * 展覧会では作者：小山三造・博成社

「顔 絵画を突き動かすもの」
国立西洋美術館 / 2000年1月12日－2月13日
京都国立近代美術館 / 2000年2月22日－3月20日

青木繁《自画像》(日洋87)

< 展覧会カタログ >

「神話と聖書の図像学」(特集展示)

Subjects and images: iconography of classical myths and Christian legendae (Art in focus series)

本文：

神話と聖書と図像学—その成り立ちと展開/
吉城寺尚子 (p.6-24)

図版(カラー60図,モノクロ16図,参考45図)

作品と[主題・モチーフ小事典]対照表

主題・モチーフ小事典(吉城寺尚子編)

参考文献

主題・モチーフ索引

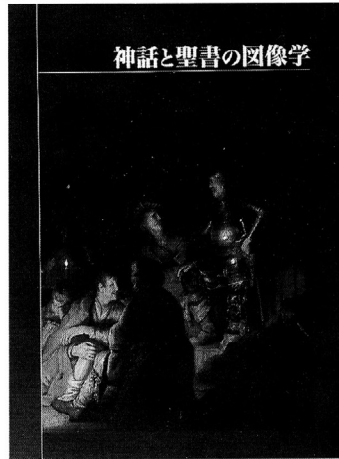
作者名索引

編集：吉城寺尚子(石橋財団ブリタストン美術館)

制作：エディタス

発行：石橋財団ブリタストン美術館(1999年)

26×19cm 99p



「長崎・諏訪神社伝来能面と能装束展」(特別展示)

出品目録

発行：石橋財団石橋美術館別館

30×21cm 一枚もの

特別展示「長崎・諏訪神社伝来 能面と能装束展」
出品目録

品名	数量	展示場所	備考
1. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
2. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
3. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
4. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
5. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
6. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
7. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
8. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
9. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
10. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
11. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
12. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
13. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
14. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
15. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
16. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
17. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
18. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
19. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
20. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
21. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
22. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
23. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
24. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
25. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
26. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
27. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
28. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
29. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
30. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
31. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
32. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
33. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
34. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
35. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
36. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
37. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
38. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
39. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
40. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
41. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
42. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
43. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
44. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
45. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
46. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
47. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
48. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
49. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
50. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
51. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
52. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
53. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
54. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
55. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
56. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
57. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
58. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
59. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
60. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
61. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
62. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
63. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
64. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
65. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
66. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
67. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
68. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
69. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
70. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
71. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
72. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
73. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
74. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
75. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
76. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
77. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
78. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
79. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
80. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
81. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
82. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
83. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
84. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
85. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
86. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
87. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
88. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
89. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
90. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
91. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
92. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
93. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
94. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
95. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
96. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
97. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
98. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
99. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用
100. 能面	19.0.14.1.1.1.1.1	石橋美術館	展示用

「坂本繁二郎—没後30年記念」(特集展示)

本文：

坂本繁二郎—その人と芸術をめぐって / 植野健造 (p.5-9)

図版(カラー78図,モノクロ8図,参考1図,作家の肖像1図)

出品目録・解説(植野健造編)

坂本繁二郎年譜(植野健造編)

文献(杉本秀子編)

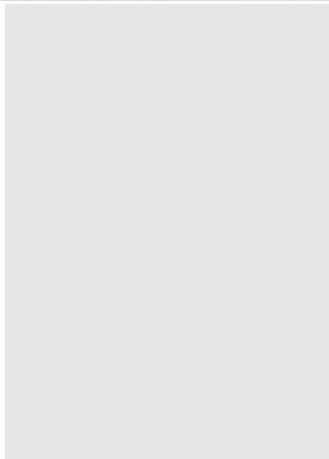
編集：植野健造,杉本秀子(石橋財団石橋美術館)

制作：瞬報社写真印刷

デザイン：安田邦秀

発行：石橋財団石橋美術館(1999年7月)

26×19cm 101p



「西洋の風景画—ブリヂストン美術館所蔵品による」
(特集展示)

出品目録

図版(カラー9図)

発行：石橋財団石橋美術館

30×14cm 三つ折り



「安井曾太郎の『文藝春秋』表紙絵」(特集展示)

Yasui Sotaro : covers for *The Bungeishunju* magazine (Art in focus series)

本文：

安井曾太郎の表紙絵考—本業と副業の間/富山秀男(p.7-11)
『文藝春秋』をめぐる美術家たちと安井曾太郎—画家研究の入口として/貝塚健(p.69-74)

対象を見つめる眼—安井曾太郎の表紙絵と絵画/
森山秀子(p.75-79)

作品図版(カラー86図, 参考21図, 作家の肖像2図)

作品解説(安井曾太郎)『文藝春秋』『別冊文藝春秋』より転載]

関連略年表—安井曾太郎の1947年9月から1956年4月(貝塚健編)

資料—『文藝春秋』表紙の担当画家一覧

出品作品リスト

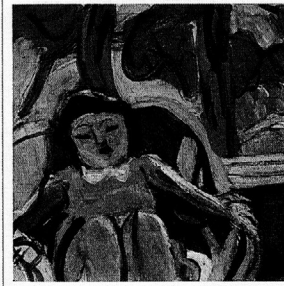
編集：貝塚健(石橋財団ブリヂストン美術館)

制作：エディタス

発行：石橋財団ブリヂストン美術館, 石橋財団石橋美術館(1999年)

26×19cm 95p

安井曾太郎の
『文藝春秋』表紙絵



『レスタンプ・オリジナル』—世紀末フランスの版画革命』
(特集展示)

L'estampe originale : a revolution in graphic art in
fin-de-siècle France (Art in focus series)

本文：

『レスタンプ・オリジナル』という冒険/福満葉子(p.5-12)

協会版『レスタンプ・オリジナル』序文/ロジェ・マルクス;

宮崎克己訳(p.13-14)

『レスタンプ・オリジナル』序文/ロジェ・マルクス;

福満葉子訳(p.14-16)

図版(カラー88図, 参考16図)

カタログ(作家・作品解説/福満葉子)

参考文献

編集：福満葉子(石橋財団ブリヂストン美術館)

表紙デザイン：コスギ・ヤエ

制作：エディタス

発行：石橋財団ブリヂストン美術館(2000年)

26×19cm 153p



<常設展示カタログ>

「1999年度石橋美術館別館常設展示作品目録」

出品目録

図版(モノクロ14図)

発行: 石橋財団石橋美術館別館

30×14cm 8p



<名作選・美術館ガイド>

「ブリヂストン美術館ガイド」

Guide book to the Bridgestone Museum of Art

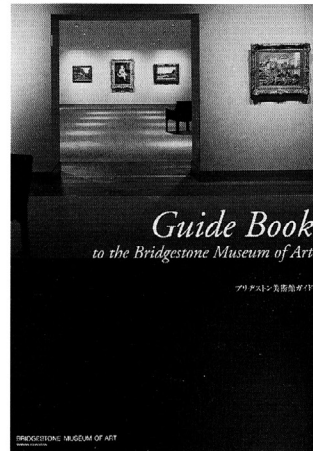
解説

図版(カラー30図)

編集・発行: 石橋財団ブリヂストン美術館(2000年)

制作: アクシス

28×19cm 14p



<その他の刊行物>

「館報」47号(1998年度)

Annual report of Bridgestone Museum of Art &
Ishibashi Museum of Art

内容:

設立趣旨, 機構・運営

主な記録

ブリヂストン美術館(コーナー展示, 特集展示, 土曜講座, そ
の他の記録)

石橋美術館・石橋美術館別館(特別展, 美術講座, その他の記録)

1998年度入場者数

新収蔵作品(16点)

石橋家よりの受贈作品(468点)

修復記録

グレゴリオ・ラッザリーニ《黄金の子牛の礼拝》/

石井亨(p.93-95)

山下新太郎《ノラ・ファルク嬢》/ 渡辺一郎(p.96-97)

山下新太郎《ブルターニュの女》/ 伊藤由美(p.98-99)

遠山五郎《婦人読書図》/ 村松裕美(p.100-101)

地震対策について / 田中千秋, 阿部準, 榎本孝雄,

信永誠二(p.102-113)

研究報告

フリッツ・ルフトとRKD—オランダにおける美術研究ドキュ
メンテーションの一側面 / 中村節子(p.114-123)

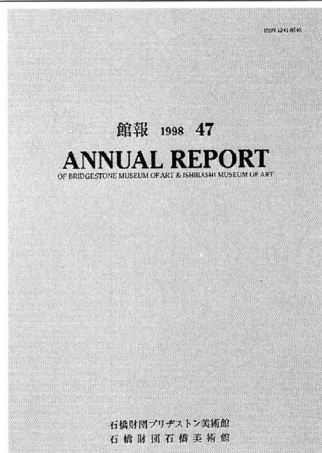
美術館案内

石橋財団職員

編集・発行: 石橋財団ブリヂストン美術館, 石橋財団石橋美術館
(1999年10月)

制作: エディタス

26×19cm 125p



ブリヂストン美術館のリニューアル(改修)報告

1999年7月1日から同年12月2日まで、ブリヂストン美術館は休館して、全面的な施設の改修工事を行った。期間上は5ヶ月間の工事ということになるが、これを行う目的、計画図面の作成、既蔵美術作品ほかの移動などに関しては、前年度来一年余にわたってとり組んできたことなので、ここにまとめてその経緯や目的などを記録しておく。

改修計画の発端

1998年の春、ブリヂストン・ビル東側3階の部屋(美術館エントランスの真上)、約860㎡が偶然のことから空いた。青天の霹靂である。それだけでなく、もスペース難に悩んでいる株式会社ブリヂストンのもとより、当石橋財団ブリヂストン美術館も欲しくてならない面積である。そこで関係者が集って協議した結果、同年5月中には内々ではあるが美術館が占有して展示場の拡張を計するという線、すなわち2階西側にある事務所を3階東側に移して、2階全部を会場とするという案が強まり、にわかに拡張計画案が動きはじめた。

そのため同年7月から9月ぐらいまでの間、内部的なリニューアル会議を頻繁に重ねて素人図面を作ったり、財政とのかね合いなどを審議したが、問題点は収蔵庫や図書室が扱われるか否か、ホールを存続させるか否か、にかかっていた。その仔細は略すとして、これらにある程度の方向性が打ち出されたのが10月のことであり、改修のための具体案作りに高市 都市・建築・デザイン代表、高市忠夫氏を依頼すること、図書は麻布永坂町にある財団事務所を一部改造して京橋と永坂町の二ヶ所に分散収納すること、収蔵庫や修復室は京橋で拡張を考えるのではなく、いずれ時期をみて(三年以内に)別途永坂財団敷地内に新築することの三項目了解の議決にいたった。

大いなる途中変更

ところが設計専門家の高市氏が、やがて進言してくれたリニューアルプランの大綱は、およそ予想を越えたものとなった。というのは現在の図面を細かく検討しての意見として、空調設備その他の観点からみると拡張部分は3階の東側より西側の方が断然有利とのことで、占有する場所を変えてもらってはどうかとの提案だったからである。3階の西側にはすでに美術館の会議室や修復室、図書室があるので、これらを含めて東側に新しく集結させるより、西側のしかるべきスペースを拡張させてもらう方が、確かに面積上でも経費上でも合理的であるに違いない提案であった。そこでこの案にもとづき、東側を全面放棄して西側を一部広げてもらうことに決める。図面引きなど随分あれこれ作業した上で大いなる途中変更である。あとは西側の拡張部分の住人(事務所)に、東側へ移ってもらう交渉を懇請しなければならなかった。

そのほか議論が百出したり、一転二転したところでは、2

階と3階の間に美術館専用の内階段をつけることの可否、あるいは縮小しながら存続と決めたホール(講堂)の床を、平床とするかスロープ床とするか、などであったろうか。これらも年が明けた1999年の初めごろには一応全部解決して、高市氏による実施設計への細かい要望や打ち合わせ、既蔵美術作品の一時的館外保管に対する条件設定や見積り合わせ(日通銀座センターに決定)などの業務をすすめた。なお施工は清水建設に決定した。

改修の眼目

記述のとおり偶然から発生した今回のリニューアル計画ではあったが、あと2年半で開館50年を迎えるブリヂストン美術館としては、やる限り大きな目標を設定してかかるのは当然であって、内部的な資料ながら次のような「21世紀へのブリヂストン美術館の基本ヴィジョン」なるものを策定してこれに当たった。

1. 多様な企画とサービス

当館が開館した40年あまり前は美術館とは教養のある限られた人たちが芸術鑑賞のために訪れる場所だったが、20年ほど前から世界の多くの美術館は、多様な来館者が多様な欲求(休息、気晴らし、学習、制作、会話、出会い、買い物などを含む)を満たすための場所へと少しずつ変貌してきた。

当館もまた、卑俗になることを避けつつ、より多くの人たちに親しまれるソフト、ハードの工夫をし、それを美術館のイメージとしても定着させたい。

2. 企画展示室の新設

前項、来館者へのサービスの最重要の柱のひとつとして、企画展示がある。常設展示室とは別に企画展示室を新設することによって、小規模であろうと何か新鮮なことをたえずやっている、という印象を来館者に持ってもらいたい。

3. アイデンティティーの確立

東京近辺にこれだけ多くの美術館ができたので、当館の独自性を強く主張したい。当館のコレクションは印象派からマチス、ピカソまでの作品が国内屈指のものである。それらはおおむね1830年頃から1960年頃の市民社会の産物であって、作品の傾向からしてもそれを享受した者たちの鑑賞のあり方からしても個人主義が濃厚に感じられる。したがってこれらの作品は国立美術館ではなく、比較的小さい私立美術館にこそふさわしいということのアピールしたい。

また前項の企画展示室においては、主としてこのコレクションを別の角度から、とりわけ最新の調査を踏まえた新鮮な視点でとらえなおすことに徹底したい。

4. 永坂分室の積極的活用と学芸活動の充実

京橋における高価な家賃に鑑み、作品および図書資料の保管・収蔵について、永坂分室の積極的活

用を進める。二ヶ所に分かれることによって学芸活動を鈍化させるのではなく、逆に一層充実できる方向をめざす。

将来的には学芸職員の一部を永坂に常駐させ、そちらを学芸活動のベースキャンプとする可能性を検討する。

5. 情報化

作品データ(画像を含む)や図書データのコンピューター入力を進め、また将来的にはコンピューター上で指示・連絡・決裁・伝票処理・報告・記録が可能なシステムの導入を検討する。このことは、前項、永坂分室のベースキャンプ化にとっても不可欠である。またサービスの一環として来館者などにも情報がある程度公開する。

6. 作品保全の向上

狭隘かつ条件の悪い現在の収蔵環境を大幅に改善したい。そのため京橋の収蔵庫の改善をはかると同時に、東京に保管されている作品がすべて収容できる広さをもつ収蔵庫を永坂に新設する。また展示品の防犯・防災対策も万全にする。

また以上をさらに具体的に書き出したものとして、「基本ビジョンに基づくリニューアルのポイント」という資料も用意された。

京橋と永坂の役割整理

- 将来を見据えたプログラムの作成

作品に対する安全性向上

- 作品収蔵の考え方の整理(京橋は一時保管/永坂を収蔵の本拠地とする)
- 京橋の安全性向上(耐震補強対応を前提とした計画/防火区画の整理)
- 京橋のセキュリティ向上(TVモニター警備導入検討)

展示部門の充実

- 展示スペースを増床する
- 企画展示の充実
- 近代的な鑑賞環境への整備(インテリアの更新/照明の更新)

来館者にとっての利便性 イメージ向上

- アプローチ部分の改修・整備(スロープ、EV設置/インテリアの更新)
- サービス部門の充実(1階ホール部分の有効利用の検討/ミュージアムショップの充実)
- 情報サービス(ホームページ/作品検索、図書検索)

事務スペースの作業環境向上

- 事務スペースの効率化
- 作業内容に適した環境づくり
- 効率の良い収納の整備
- 1人1台のコンピューターを前提とした整備
- 図書の永坂移転に伴う調査研究スペースの整備

コストパフォーマンス重視

- 京橋の増床は必要最低限とする(家賃の低減)
- 永坂のスペースの有効利用
- 工事費用のコストパフォーマンス(空調システムを極力変更しない計画)

さらにこれらに加えて、高市アーキテクト・アンド・アソシエイツから、次のような「デザイン・コンセプト」が寄せられたことを記録しておく。

作品がより良く見える環境作り

限られた条件の中で最大限の改善を行う為の論理的なアプローチ

- 例えば ○ 展示室空間—作品に集中できる空間構成
- 照明—照明が目に入らない計画/色の再現性重視

プライベートミュージアムとしてのしつらえ

公立ではない、私立美術館だからできること

- 例えば ○ 大きな展示室ではなく程よい大きさで変化のある部屋(展示室)の連続
- 作品が制作された時代性の表現

美術館が変わったというインパクト

来館者にとって新たな魅力ある時代の変化に対応した美術館へ

- 例えば ○ 時代の要請に対応した改装—身障者対応、バリアフリー化/省エネルギー、リサイクルの視点

短期的なインテリアではなく長期に残る時代の表現

陳腐化しないデザイン

- 例えば ○ 時間に耐える素材の選択
- メンテナンスのやりやすさ
- 汚くなったからリニューアルではなく手直ししながら長く使用してゆく
- その為のリニューアルブックの作成

コストコントロール

コストパフォーマンスから

- 例えば ○ 下地材の再利用
- 空調システムの変更を極力避ける
- 優れた既製品の採用(むやみに特注しない)
- システム化の視点—照明のシステム/什器のシステム/作品説明サインシステム

これを文章で書けば、今回の改修はブリヂストン美術館が施設面で時代に合うようにするための措置、例えば身体障害者や高齢者対策としてのスロープやエレベーター、あるいは手洗いの設置からはじめて、展示環境を向上改善する意味での展示室の拡張、展示室の区画変更、照明設備の更新、室内カラーリングの変更、講堂映像設備の充実、ミュージアムシ

トップの拡充,などを含むものとなった。これらはもつとも要約していえば,来館者へのホスピタリティを高め,美術作品を鑑賞するための雰囲気グレードアップさせること,すなわち巨大な国立美術館の真似をするのではなく,比較的小さい私立美術館として思いっきりサロン風の親しみやすい展示環境をめざしたこと。そして小規模とはいえ企画展示室を新設(図面参照)して,常設展示との二本立て運営を計り,さらに教育普及目的の強化を可能とするハードおよびソフトの対応をこの際十分検討したこと,などであつたらうか。もちろん細かい点では,会場の導線計画,防犯警備のための計器の設置,防火区画や避難経路の確保,耐震補強,サイン計画などを,統一的にほどこしたことはいうまでもない。

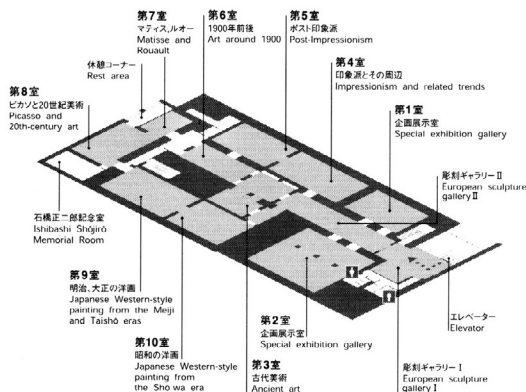
その結果は,1999年11月11日に竣工式が行われて工事会場が引き渡され,同年12月3日から新装なった常設展示と,

企画展示としての「安井曾太郎の『文藝春秋』表紙絵」をもって,予定どおりのリニューアル・オープンを行うことができた。なおこの一般公開に先立つ12月2日は特別招待日としたが,エントランス周辺のスペースが広くないことを考慮して三部制とし,午前11時は報道関係者にまずホールで改修のあらましを説明,会場を巡覧してもらい,午後1時半貴賓および外交関係者,3時半美術関係者の順で,それぞれ簡単な披露パーティを繰り返した。

最後に当ブリヂストン美術館の施設概要と展示室の略図などを付記しておく。なお今回のリニューアルに際しては,高市 都市・建築・デザイン社,清水建設など多数の方々への労を煩わせた。個々のお名前は略させていただきますが,ここに心からの謝意を捧げたく思っている。

(高山秀男 記)

Second Floor 2階



■ブリヂストン美術館施設概要

- 名称 石橋財団 ブリヂストン美術館
- 所在地 東京都中央区京橋1丁目1番1号 ブリヂストンビル内
- 建物構造 ブリヂストンビル建物構造 鉄筋コンクリート9階建
敷地面積 2,345㎡
建坪 2,179㎡
総延坪 24,638㎡
- ビル内位置 ブリヂストン美術館占有位置 1~3階
(地下1階の小スペース使用あり)
1階の一部 エントランス
ミュージアムショップ
ホール(美術館付属講堂)
2階の全部 展示室
3階の一部 事務所(事務室・図書室・会議室・修復室)
地階の一隅 倉庫
(同一建物内の他の施設 ブリヂストンの本社機構・住友銀行八重洲通支店)
- 建築・改修
1951年12月 ブリヂストンビル竣工
1952年1月 ブリヂストン美術館開設
(1・2階のみ使用 美術館占有総面積 1,000㎡)
1959年6月 ブリヂストンビル増築竣工
美術館改修・占有面積拡大
(1・2階のみ使用 美術館占有総面積 2,293㎡)
1976年8月 美術館改修・占有面積拡大
(3階に使用拡大 美術館占有総面積 2,620㎡)
1991年2月 美術館改修・占有面積拡大
(空調設備等改修 美術館占有総面積 2,708㎡)
1999年11月 美術館改修・占有面積拡大
(展示室等改修 美術館占有総面積 2,924㎡)

First Floor 1階



6. 展示室面積

彫刻ギャラリーI	86㎡ (天井高2800mm)
彫刻ギャラリーII	115㎡ (天井高2800mm)
第1室	85㎡ (天井高2800mm)
第2室	200㎡ (天井高2800mm)
第3室	89㎡ (天井高3100mm)
第4室	109㎡ (天井高2500mm)
第5室	87㎡ (天井高2500mm)
第6室	67㎡ (天井高2500mm)
第7室	36㎡ (天井高2500mm)
第8室	88㎡ (天井高2500mm)
第9室	111㎡ (天井高2500mm)
第10室	90㎡ (天井高2500mm)
展示エリア通路等	77㎡
合計	1,240㎡

7. 展示室以外 展示室以外美術館占有面積

ホール	133㎡
事務室	215㎡ (事務室 188㎡, 館長室 27㎡)
会議室	59㎡
修復室	55㎡
図書室	70㎡
収蔵庫	52㎡
記念室	43㎡ (石橋正二郎記念室)
売店	30㎡
倉庫	178㎡ (地下倉庫 50㎡, 1階倉庫 13㎡, 2階倉庫 115㎡)
通路	118㎡ (1階通路 30㎡, 2階通路 57㎡, 3階通路 31㎡)
トイレ	84㎡ (1階トイレ 37㎡, 2階トイレ 47㎡)
計	1,010㎡
その他	674㎡ (空調設備・衛生設備・ドライエリア・ハイブスペース等)
合計	1,684㎡
(展示室と展示室以外とを合わせた占有総面積は 2,924㎡)	

8. エレベーター

型式	三菱電機 兼用エレベーター(エレバック) P13-CO-45
階数	1階→2階
定員	13人(積載重量 900kg)
かご内法	開口 1600×奥行 1350mm
出入り口	幅 900×高さ 2100mm
台数	1機

リ・オープン時の常設展示

[ショー・ウインドー]

オノレ・ドーミエ《ラタポワール》/ 1891年(1929年鑄造) / ブロンズ / H.43.5cm
エドガー・ドガ《マチルド・サル嬢の肖像》/ 1892年 / ブロンズ / H.23.0cm
エドガー・ドガ《右手で右足を持つ踊り子》/ 1896-1911年 / ブロンズ / H.50.3cm

[エントランス・ホール]

クリスチャン・ダニエル・ラウホ《勝利の女神》/ 大理石 / H.231.0cm
バーバラ・ヘップワース《翼のある人物 I》/ 1957年 / 真鍮、鉄線 / H.145.5cm

[階段室]

アリストイド・マイヨール《欲望》/ 1905-08年 / ブロンズ / 119.5×114.4cm

[彫刻ギャラリー I]

コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》/ 1907-10年 / 石膏 / H.28.0cm
アレキサンダー・アーキベンコ《ゴンドラの船頭》/ 1914年 / ブロンズ / H.83.0cm
オシップ・ザツキン《母子》/ 1919年 / 着色されたセメント / H.48.6cm
オシップ・ザツキン《三美神》/ 1950年 / ブロンズ / H.76.7cm
オシップ・ザツキン《ボモナ(トルソ)》/ 1951年 / 黒檀 / H.131.0cm
ヘンリー・ムア《横たわる人体》/ 1976年 / ブロンズ / H.39.8cm
マリノ・マリニ《騎手》/ 1952年 / ブロンズ / H.58.0cm
マリノ・マリニ《騎手のための構想》/ 1955年 / ブロンズ / H.55.8cm

[彫刻ギャラリー II]

オーギュスト・ロダン《立てるフォーネス》/ 1884年頃 / 大理石 / H.71.0cm
オーギュスト・ロダン《考える人》/ 1902年頃 / ブロンズ / H.37.7cm
オーギュスト・ロダン《青銅時代》/ 1904年 / ブロンズ / H.63.5cm
エミール=アントワース・ブールデル《風の中のペートーヴェン》/ 1904-08年 / ブロンズ / H.124.8cm
エミール=アントワース・ブールデル《ペネロープ》/ 1909年 / ブロンズ / H.118.8cm
エミール=アントワース・ブールデル《弓をひくヘラクレス》/ 1909年 / ブロンズ / H.78.5cm

[第3室]

《女の胸像》/ 紀元前24世紀 / シュメール / 閃緑石 / H.55.0cm
《セクメト神像》/ 紀元前14世紀 / エジプト / 黒花崗岩 / H.177.0cm
レリーフ断片《アヌビス神礼拝図》/ 紀元前13世紀 / エジプト / 砂岩 / 66.0×58.0cm
レリーフ断片《神牛》/ 紀元前1300-1200年 / エジプト / 石 / 29.0×30.2cm
レリーフ断片《柘榴と葡萄》/ アマルナ時代(紀元前1360年頃) / エジプト / 石灰石、彩色 / 22.5×36.0cm
レリーフ断片《ホルス神浮彫》/ 紀元前1000-350年 / エジプト / 大理石 / 26.0×28.0cm
《聖猫》/ 紀元前950-660年 / エジプト / ブロンズ / H.48.2cm
建築装飾フリーズの部分《泉水に向う二頭の馬》/ 紀元前550-540年 / エトルリア / 彩色テラコッタ / 48.5×50.7cm
《獅子頭部》/ 紀元前5世紀 / ギリシャ / 大理石 / H.42.0cm
《哲人の顔》/ 紀元前4世紀 / ギリシャ / 大理石 / H.29.4cm
《ヴィーナス》/ ヘレニズム期(紀元前3-1世紀) / ギリシャ / 大理石 / H.139.0cm
《ヴィーナスの頭部》/ ローマ / 大理石 / H.29.0cm
《アテナ頭部》/ グレコ=ローマン様式 / 大理石 / H.37.0cm
《人物像》/ 1-2世紀 / バルミユラ / 石灰石 / H.55.3cm
壁画断片《ディオニュソス図》/ 1世紀 / ヘルクラネウム / フレスコ / 20.5×54.5cm
モザイク断片《牧羊頭部》/ 1世紀 / ローマ / 47.0×43.5cm
コリントス球形アリュパロス《鷺と鶏図》/ 紀元前610-590年 / H.10.8cm
アッティカ黒絵式頸部アンフォラ《サテュロス図》/ 紀元前6世紀末 / H.17.2cm

アッティカ黒絵式頸部アンフォラ《ヘラクレスとケルペロス図》/ 紀元前520-510年 / H.35.2cm
アッティカ黒絵式オイノコエ《ディオニュソスとマイナス図》/ 紀元前500年頃 / H.23.0cm
アッティカ黒絵式レキュトス《ディオニュソス, サテュロスとマイナス図》/ 紀元前490-480年 / H.15.0cm
アッティカ黒絵式レキュトス《ディオニュソスとアリアドネ図》/ 紀元前490-480年 / H.19.2cm
アッティカ黒絵式レキュトス《ディオニュソスとマイナス図》/ 紀元前490-480年 / H.19.2cm
アッティカ黒絵式スキュフォス《サテュロスとマイナス図》/ 紀元前470-460年 / H.7.2cm
アッティカ白地レキュトス《墓参図》/ 紀元前440-430年 / H.29.7cm
アッティカ白地レキュトス断片《墓参図》/ 紀元前440-430年 / H.7.3cm
アッティカ赤絵式ペリケ《男女図》/ 紀元前5世紀第1四半期 / H.33.2cm
アッティカ赤絵式キュリクス《サテュロス図》/ 紀元前5世紀中頃 / H.7.3cm
アッティカ赤絵式レバス・ガミコス《ニケと女性図》/ 紀元前4世紀第1四半期 / H.16.5cm
カンパニア赤絵式皿《魚文図》/ 紀元前4世紀第2四半期 / H.6.0cm
カンパニア赤絵式ヒュドリア《エロス図》/ 紀元前4世紀第3四半期 / H.23.5cm
カンパニア赤絵式ヒュドリア《ディオスクーロイ図》/ 紀元前350年頃 / H.32.5cm
アプリア赤絵式柱型把手クラテル《男女図》/ 紀元前330年頃 / H.44.5cm

[第4室]

カミュー・コロー《ヴィル・ダヴレー》/ 1835-40年 / 油彩・カンヴァス / 51.1×46.6cm
カミュー・コロー《オンフルールのトゥータン農場》/ 1845年頃 / 油彩・カンヴァス / 44.4×63.8cm
カミュー・コロー《森の中の若い女》/ 1865年 / 油彩・板 / 54.7×38.9cm
シャルル=フランソワ・ドービニー《レ・サーブル=ドロンス》/ 油彩・板 / 39.1×67.1cm
ギュスターヴ・クールベ《雪の中を駆ける鹿》/ 1856-57年頃 / 油彩・カンヴァス / 93.5×148.8cm
アドルフ・モンティセリ《庭園の貴婦人》/ 1870-80年 / 油彩・板 / 42.2×55.9cm
ウジェーヌ・ブーダン《トルーヴィル近郊の浜》/ 1865年頃 / 油彩・板 / 35.7×57.7cm
カミュー・ピサロ《ブージヴァルのセース河》/ 1870年 / 油彩・カンヴァス / 51.4×82.2cm
カミュー・ピサロ《菜園》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス / 55.2×45.9cm
エドゥワール・マネ《オペラ座の仮装舞踏会》/ 1873年 / 油彩・カンヴァス / 46.7×38.2cm
エドゥワール・マネ《自画像》/ 1878-79年 / 油彩・カンヴァス / 95.4×63.4cm
エドガー・ドガ《レオポール・ルヴェールの肖像》/ 1874年頃 / 油彩・カンヴァス / 65.0×54.0cm
エドガー・ドガ《右足で立ち, 右手を地面にのばしたアラベスク》/ 1882-95年 / ブロンズ / H.27.5cm
アルフレッド・シスレー《森へ行く女たち》/ 1866年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×92.2cm
アルフレッド・シスレー《サン=マメス六月の朝》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 54.6×73.4cm
クロード・モネ《アルジャントゥイユの洪水》/ 1872-73年 / 油彩・カンヴァス / 54.4×73.3cm
ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわるジョルジュ・シャルパンティエ嬢》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 97.8×70.8cm

[第5室]

ポール・セザンヌ《帽子をかぶった自画像》/ 1890-94年頃 / 油彩・カンヴァス / 61.2×50.1cm
ポール・セザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》/ 1904-06年頃 / 油彩・カンヴァス / 66.2×82.1cm
クロード・モネ《雨のバリエール》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×73.7cm
クロード・モネ《睡蓮》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 81.5×100.5cm
クロード・モネ《睡蓮の池》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 100.6×73.5cm
クロード・モネ《黄昏, ヴェネツィア》/ 1908年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.0×92.5cm
ピエール=オーギュスト・ルノワール《カーニユのテラス》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 46.3×55.0cm
ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわる水浴の女》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 55.0×44.2cm
ピエール=オーギュスト・ルノワール《花のついた帽子の女》/ 1917年 / 油彩・カンヴァス / 40.6×50.2cm
ポール・ゴーガン《馬の頭部のある静物》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 49.0×38.5cm
ポール・ゴーガン《ボン=タヴェン付近の風景》/ 1888年 / 油彩・カンヴァス / 72.9×92.2cm
ポール・ゴーガン《乾草》/ 1889年 / 油彩・カンヴァス / 55.4×46.2cm
フィンセント・ファン・ゴッホ《モンマルトルの風車》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 48.2×39.5cm

[第6室]

オディロン・ルドン《神秘の語らい》/ 油彩・カンヴァス / 52.1×31.5cm
オディロン・ルドン《供物》/ 油彩・厚紙 / 33.2×13.7cm
オーギュスト・ロダン《クローデル嬢》/ 1889年 / ブロンズ / H.24.5cm
アンリ・ルソー《イヴリー河岸》/ 1907年頃 / 油彩・カンヴァス / 46.1×55.0cm
アンリ・ルソー《牧場》/ 1910年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×55.3cm
ポール・シニャック《コンカルノー港》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 73.4×53.9cm
ピエール・ボナール《灯下》/ 1899年 / 油彩・紙 / 42.5×50.4cm
ピエール・ボナール《桃》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 36.0×38.1cm
ピエール・ボナール《ヴェルノン付近の風景》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 63.4×62.4cm
モーリス・ドニ《パッカス祭》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 99.2×139.5cm
モーリス・ド・ヴラマンク《運河船》/ 1905-06年 / 油彩・カンヴァス / 60.2×73.0cm

[第7室]

アンリ・マティス《コリウール》/ 1905年 / 油彩・厚紙 / 24.5×32.4cm
アンリ・マティス《縞ジャケット》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 123.6×68.4cm
アンリ・マティス《横たわる裸婦》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 32.9×40.8cm
アンリ・マティス《両腕をあげたオダリスク》/ 1921年 / 油彩・カンヴァス / 45.9×38.2cm
アンリ・マティス《ルー川のほとり》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 38.3×47.0cm
アンリ・マティス《青い胴着の女》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×33.0cm
アンリ・マティス《石膏のある静物》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス / 52.0×64.0cm / 個人蔵
ジョルジュ・ルオー《郊外のキリスト》/ 1920-24年 / 油彩・紙 / 92.0×73.6cm
ジョルジュ・ルオー《ピエロ》/ 1925年 / 油彩・紙 / 75.2×51.2cm

[第8室]

ラウル・デュフィ《静物》/ 1915-20年頃 / 油彩・カンヴァス / 38.2×45.9cm
ラウル・デュフィ《オーケストラ》/ 1942年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×81.1cm
パブロ・ピカソ《ブルゴーニュのマール瓶, グラス, 新聞紙》/ 1913年 / 油彩, 砂, 新聞紙・カンヴァス / 46.3×38.4cm
パブロ・ピカソ《生木と枯木のある風景》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 49.4×65.4cm
パブロ・ピカソ《女の顔》/ 1923年 / 油彩, 砂・カンヴァス / 46.1×38.1cm
パブロ・ピカソ《腕を組んですわるサルタンバンク》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 130.8×98.0cm
パブロ・ピカソ《道化師》/ 1905年 / ブロンズ / H.40.6cm
マリー・ローランサン《二人の少女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 64.9×54.2cm
アメデオ・モディリアーニ《若い農夫》/ 1918年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.4×50.3cm
ジャン・フォートリエ《人質の頭部》/ 1945年 / 油彩・カンヴァスに貼られた紙 / 34.2×26.4cm
ジャン・フォートリエ《旋回する線》/ 1963年 / 油彩・カンヴァスに貼られた紙 / 59.9×73.1cm
ジャン・デュビュッフエ《スカーフを巻くエディット・ボワソナス》/ 1947年 / 油彩・紙 / 48.6×32.3cm
アルベルト・ジャコメッティ《ディエゴの胸像》/ 1954-55年 / ブロンズ / H.55.0cm

[第9室]

浅井忠《グレーの洗濯場》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / 33.3×45.5cm
浅井忠《樹下の女》/ 1901年頃 / 油彩・カンヴァス / 45.8×37.8cm
浅井忠《縫物》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 60.7×45.5cm
黒田清輝《ブレハの少女》/ 1891年 / 油彩・カンヴァス / 80.6×54.0cm
藤島武二《スイス風景》/ 1908年 / 油彩・板 / 23.6×32.8cm
藤島武二《ルツェルン》/ 1908年 / 油彩・板 / 23.5×32.8cm
藤島武二《チョチャラ》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×38.0cm
藤島武二《黒扇》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 63.7×42.4cm
藤島武二《糸杉(ヴィラ・ファルコニエリ)》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 39.5×36.6cm
藤島武二《ローマの寺院》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 33.1×26.6cm
藤島武二《ローマの遺跡》/ 1908-09年 / 油彩・板 / 35.1×26.2cm

岡田三郎助《婦人像》 / 1907年 / 油彩・カンヴァス / 73.3×61.5cm
山下新太郎《供物》 / 1915年 / 油彩・カンヴァス / 55.2×46.1cm
青木繁《天平時代》 / 1904年 / 油彩・カンヴァス / 45.3×75.5cm
中村彝《自画像》 / 1909年 / 油彩・カンヴァス / 80.6×61.0cm
岸田劉生《街道（銀座風景）》 / 1911年頃 / 油彩・カンヴァス / 33.5×45.9cm
岸田劉生《南瓜を持てる女》 / 1914年 / 油彩・カンヴァス / 80.0×60.2cm
梅原龍三郎《ナポリよりソレントを望む》 / 1921年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×60.7cm
関根正二《子供》 / 1919年 / 油彩・カンヴァス / 60.9×45.7cm

[第10室]

藤島武二《淡路島遠望》 / 1929年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×72.9cm
藤島武二《東海旭光》 / 1932年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×90.9cm
藤田嗣治《猫のいる静物》 / 1939-40年 / 油彩・カンヴァス / 80.6×99.9cm
藤田嗣治《ドルドーニュの家》 / 1940年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×53.3cm
小出檜重《帽子をかぶった自画像》 / 1924年 / 油彩・カンヴァス / 126.0×91.3cm
小出檜重《横たわる裸身》 / 1930年 / 油彩・カンヴァス / 50.0×72.9cm
安井曾太郎《薔薇》 / 1932年 / 油彩・カンヴァス / 63.0×51.9cm
安井曾太郎《F夫人像》 / 1939年 / 油彩・カンヴァス / 88.0×66.0cm / 個人蔵
国吉康雄《夢》 / 1922年 / 油彩・カンヴァス / 51.5×76.7cm
国吉康雄《横たわる女》 / 1929年 / 油彩・カンヴァス / 41.3×76.4cm
佐伯祐三《テラスの広告》 / 1927年 / 油彩・カンヴァス / 54.2×65.4cm
佐伯祐三《ガラージュ》 / 1927-28年 / 油彩・カンヴァス / 60.6×73.6cm
岡鹿之助《雪の発電所》 / 1956年 / 油彩・カンヴァス / 72.8×90.9cm



彫刻ギャラリーより古代室（第3室）を望む



印象派の部屋（第5室より第4室を望む）

作品固定作業について

黒川弘毅 有限会社ブロンズスタジオ
(旧 有限会社山岸鋳金工房)

はじめに

平成11年7月～11月にかけての美術館改修工事にとともに、私たちは彫刻作品の撤去と再設置－固定作業(一部台座作成を含む)を担当した。一連の作業のうち、大理石彫刻《勝利の女神》再設置作業と、古代室壁面展示作品の固定金具作成について報告する。

1.《勝利の女神》再設置

美術館改装前まで玄関アプローチ脇に設置されていた作品を撤去し、改装後の1階エレベーターホールに再設置した。その際、台座を再制作するとともに、耐震を考慮して作品の固定方法を改善した。

[作業内容]

1) 作品撤去

台座外装の大理石板を切断除去し、コンクリート製躯体から作品を取り外した。作品と台座の固定状態は、ステンレス製ボルト1本(直径14mm)がそれぞれの中央部に設けられたルーズホールのダボに挿入されているだけであった。

クレーンで作品を安全に吊るための治具を作成し、台座への着脱ではこれを使用した(fig.1)。

2) 固定金具加工・洗浄

作品下面にステンレス製ナットアンカー(M10)2個を埋め込み、エポキシ樹脂系充填剤で固定した。

界面活性剤トリトンXを成分とする陰イオン系洗剤と精製水を用いて、作品の洗浄を行った。

3) 台座再製作・設置

作品の荷重を受ける鉄製骨格(fig.2)を作成して、床に埋め込まれた4個所のナットアンカー(M14)にボルトで固定した。床はライムストーンで仕上げられており、石材の厚みは20mm、スラブと石材の間のステコンとモルタルは35～50mmの厚みであった。床のナットアンカーは、耐震性を得るためこれらを貫通してスラブに固定され、全荷重が直接石材に懸からないように配慮された。この方法は、古代室の重量のある台座の固定にも用いられている。

鉄製骨格に作品をボルトで固定した後、大理石の台座外装を復元した。台座のサイズ・材質・板材合わせ加工方法等の仕様は、ほぼ既存の状態を再現した。

台座石材加工と撤去・再設置作業では、有限会社石歩(代表取締役大野春男)の協力を得た。

2. 古代室壁面展示作品の金具作成

美術館改装前の古代室においてガラスケース内で展示されていたレリーフ、モザイク及びフレスコ画は、改装後の古代室壁面に展示された。これに伴う金具作成・固定作業を行った。金具作成では壁への着脱の際の安全性と簡便性が考慮された。

[対象作品]

- | | | | |
|---------------|---------|-------|----|
| (1)《石榴と葡萄》 | エジプト | 石灰岩 | 彩色 |
| (2)《ホールス神》 | エジプト | 石 | |
| (3)《神牛》 | エジプト | 石 | |
| (4)《アムビス神礼拝図》 | エジプト | 砂岩 | |
| (5)《建築装飾断片》 | エトルスク | テラコッタ | 彩色 |
| (6)《牧神頭部》 | ローマ | モザイク | |
| (7)《ディオニュソス図》 | ヘルクラネウム | フレスコ | |

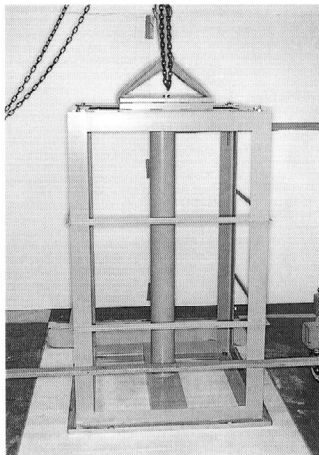


fig.1 クリスチャン・ダニエル・ラウホ《勝利の女神》設置作業

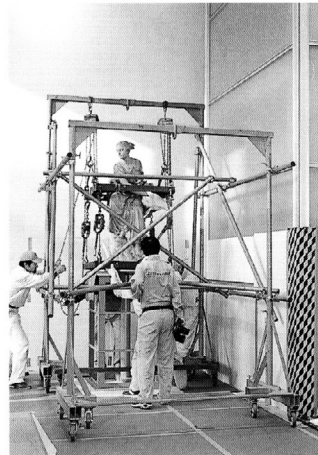


fig.2 《勝利の女神》台座鉄製骨格

[作業内容]

(1)～(4)までのレリーフ、及び(6)のモザイクは、現物から型取りして作品を上下で押さえるブロンズ製のホルダーを鋳造した。型取り箇所はスズ箔で保護し、印象材にはシリコンゴムを使用した(fig.3)。

(5)は既存の木製支持体を改造して金具を加工した。

(7)は後補された外側の額を取り除き、もとの木製フレームに合わせて金具を作成した。

重量の少ない(1)(2)(3)(5)(7)は、上下のホルダーを連結する銅合金(リン青銅)製のフレームを設けた。あらかじめ作品に上部にダボ穴を加工したフレームを固定し、壁側には上部にダボ(突起)を加工した金具を固定しておく。ダボに貫通させてフレームを壁側の金具に被せた後、ネジで固定する(fig.4)。

また重量の多い(4)(6)は、固定金具を上下に分けて、それぞれを直接壁に固定する方法を採った。下部の金具はホルダーと一体であるが、上部の金具はホルダーがネジ留めとなっている(fig.5)。

(1)～(4)までのレリーフ、および(6)のモザイクの金具は白味を帯びた作品の色調に違和感を生じさせないよう、視覚に入る箇所を灰色味を帯びた銀色に調整した。(5)と(7)の金具は同様の理由で、金色に調整した。金具表面の着色には化学的着色法を用い、前者は硝酸銀、後者には硫化ナトリウム、硝酸鉄、没食子酸を使用した。

金具が作品と接触する部分には金具側にフェルトを貼り付けた。

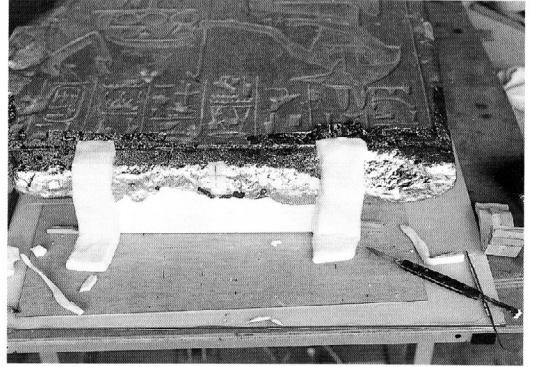


fig.3 《アヌビス神礼拝図》ホルダーシリコンモデル作成

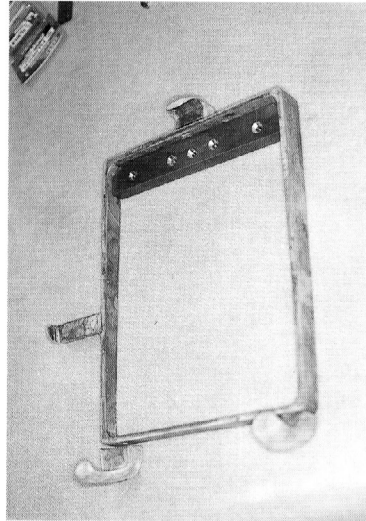


fig.4 《ホールス神》金具

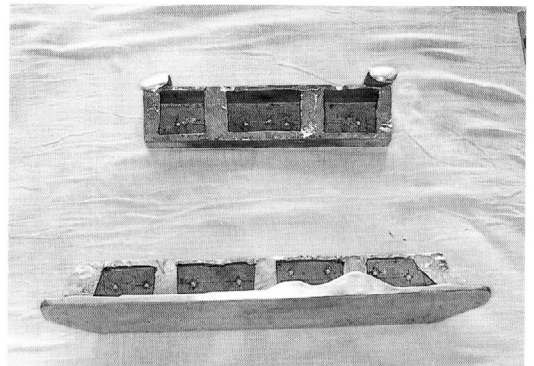


fig.5 《アヌビス神礼拝図》金具

絵画作品への地震対策

田中千秋

1.はじめに

昨年度の館報で報告したようにプリチストーン美術館では阪神大震災のあった1995年度より地震対策を施行してきている。本年度は展示室の大きかりなりリニューアルがあり、その際懸案であった絵画作品について対策を講じたので報告する。

2.想定される被害

阪神大震災で絵画作品の被害はおおよそ以下の3つの原因によるものであった(註1)。

- I) 収蔵庫における絵画ラックからの保管作品の落下
絵画ラックの網に掛けたS環が地震動により延び、落下した。
- II) ピクチャーレールからの吊り金具(フック)の脱落による展示作品の落下
フックが地震動により横になり、レールから脱落した。
- III) ワイヤーの破断による展示作品の落下
地震動により振り子状に揺れたワイヤーが何らかの理由で弛み、落下することで衝撃荷重が加わり、ハンガー(額を吊っている金具)内部のベアリングがワイヤーを押し切ったと推察される。
- IV) スチール製マップケースの転倒
スチール製マップケースは地震動で引き出しが一度に飛び出し、全体の重心が移動することで転倒した。中に収納していた作品(主に版画などの紙作品)にそれほどの被害は出なかったが、飛び出し転倒した引き出しが他のものに衝突すると大きな被害をもたらす。

3.対策

これらの被害を想定して以下のような対策を講じた。

I) 絵画ラックの更新

開館後40年以上使用してきた老朽化した絵画ラックを新しくした。

当初絵画ラックの使用自体をやめ、1点毎に箱を制作し細かく仕切を入れた木製棚を導入することを検討したが、作業性等の制約から絵画ラックを再び採用することにした。ただし、絵画ラックの網に作品を晒し布や木綿の平テープで固定し、落下や作品同士がぶつかり合うことを防止した。

II) 脱落防止ゴムの装着

ピクチャーレールからの吊り金具(フック)の脱落についてはメーカーの提案を受けて、金具の根本にゴムのリングを装着し、地震の揺れにより金具が横になることを防止した。

III) ワイヤーの太さ変更と緩衝材の採用

はじめ壁に金具を固定してワイヤーを介さず直接絵画作品を吊す方法を検討したが、展示替え等の作業性(壁の穴埋めや高さ調整)を考慮すると現在の一般的な常識では時間が掛かりすぎることからワイヤーを再び採用することとなった。ただし、ワイヤーの切断を避けるため、今まで使用していた直径1.5mmのワイヤーから、重さ15kg未満の作品は2.0mm、15kg以上の作品は2.5mmのワイヤーに変更した。

さらに、衝撃荷重が加わった時点で緩衝作用が働くよう、ワイヤーを吊すフック内部に鉛の緩衝材を入れ、衝撃を吸収させる方法を採用した。

IV) 木製棚、引き出しの採用

スチール製の棚、マップケースは、抵抗が少ないため、棚の上に載せたものが落下したり、引き出しが一度に飛び出したりして危険である。よって棚やマップケー

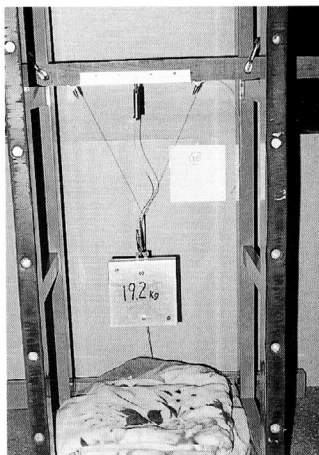


fig.1 表4-番号10の実験風景(落下前)

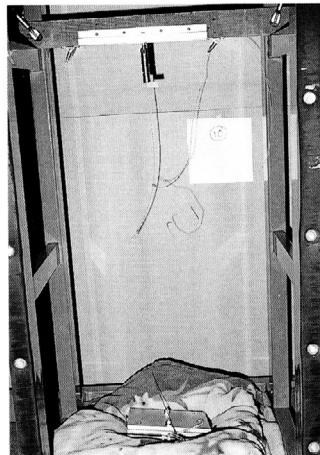


fig.2 表4-番号10の実験風景(落下後)



fig.3 表4-番号10で使用したハンガー、フック、ケース、パネ、および切断されたワイヤー

スは全て木製のものに交換した。

4. ワイヤ太さ選択理由

リニューアル後絵画を吊す高さは中心を床から150cmとした。よってほとんどの作品でハンガー位置は天井から90cmから120cmの距離のところになる。そこでワイヤーの長さを100cmとし、衝撃荷重をワイヤー太さを直径1.5mm, 2.0mm, 2.5mmと変えて比較した(表1, 2, 3) (註2)。

メーカーからの資料によればハンガーを用いたときのワイヤーの静止加重での破断値はワイヤー直径1.5mm, 2.0mm, 2.5mmでそれぞれ90kgf, 145kgf, 230kgfであるから、理論上は衝撃荷重がこれらの値を超えたときワイヤーが破断する。

直径1.5mmのワイヤーでは表1から5kgの作品が70mmの高さから落下すると破断することになる(註3)。また10kgを越えるとわずか30mmで破断するので、安全性を考慮して1.5mmのワイヤーは使用しないこととし、2.0mmに変更した。

また、重い作品に関しては直径2.0mmのワイヤーでも重量が15kgを越えると30mmの落下距離で破断するので、太さを1ランク上げて直径2.5mmのワイヤーを採用し(表2, 3)、さらに重い作品には必要に応じて片方2本ずつ、計4本で作品を吊すこととした。

5. 緩衝材の採用

ハンガーを用いたときのワイヤー破断の原因は下方向への加重—落下時の衝撃荷重—でハンガー内の3つのベアリングがワイヤーを絞り、ついにはワイヤーの素線を切ってしまうからである。そこで緩衝材を入れて衝撃荷重を緩和する方法を検討した。

ワイヤーを吊すフック(天井あるいは壁のレールに挿入する金具)に筒状のケースを装着し、その中に緩衝材とし

てポリウレタン樹脂のチューブ、重層的なワッシャー、バネ、鉛のチューブなどを用い、フックからハンガーまでのワイヤーの長さを500mmとし、ハンガーに重量19.2kgの試料を吊し、落下距離を変えて試験した(表4)。結果は鉛のチューブが最も緩衝性能が良く、ワイヤー直径2.0mm、緩衝材なしの時落下距離80mmでワイヤー破断・落下したものが、鉛を介在させることで確実に落下を防ぐことが出来るようになった。また、同じようにワイヤー直径2.5mmでは、鉛の緩衝材を採用したことで落下距離が100mmまで延びても切断されないようになった。

6. おわりに

鉛の緩衝材装着によってワイヤー切断に至る落下距離はいくらか(20mm程度)稼ぐことが出来たが、鉛は一度潰れると緩衝作用は復元されず、二度三度と衝撃荷重が掛ければワイヤーは切断される。抜本的な対策には至っておらず、まだまだ不十分であることは否めない。しかし、この様な対策の積みかさねが肝要であり、より安全な展示に近づくための一歩であると考え。なお、現在次の課題としてより確実な切断防止対策をメーカーとともに開発中であるのでいづれ報告できれば幸いである。

最後に私どもの提案に対し真摯に対応してくださった吉岡良晃氏をはじめ(株)中村多喜彌商店の皆さんにお礼申し上げます。

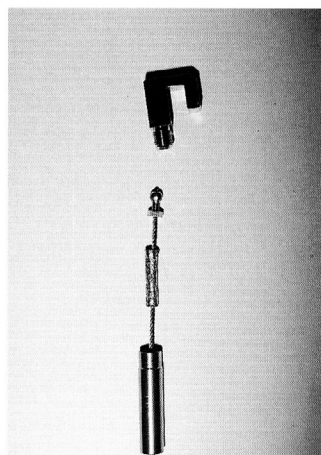


fig.4 表4—番号12で使用したハンガー、フック、ケース、鉛チューブ

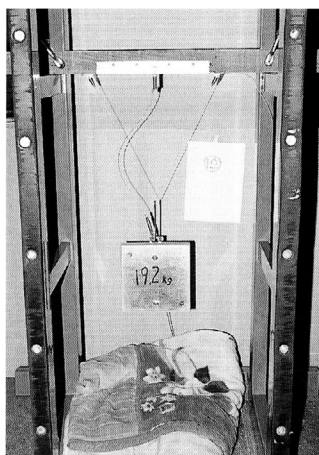


fig.5 表4—番号12の実験風景(落下前)

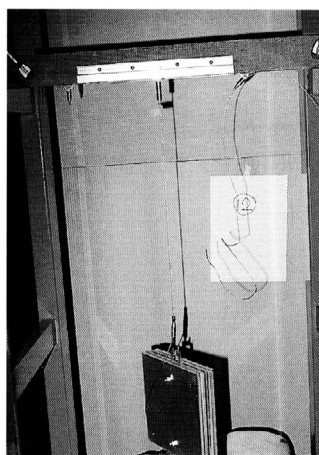


fig.6 表4—番号12の実験風景(落下後)

表1 ワイヤー径 1.5mm(断面積 1.111mm²)

p(kgf):	h(mm) : 落下距離											
質量	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120
5	39	52	63	72	80	87	93	99	105	111	116	121
10	58	77	92	105	116	126	135	144	152	159	167	174
15	75	98	116	131	145	157	168	179	189	198	207	216
20	90	116	137	155	170	185	198	210	221	232	242	252

表2 ワイヤー径 2.0mm(断面積 1.861 mm²)

p(kgf):	h(mm) : 落下距離											
質量	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120
5	48	66	80	91	102	111	119	127	135	142	148	155
10	72	97	116	132	147	160	172	183	193	203	213	222
15	91	122	145	165	183	199	213	227	240	252	263	274
20	109	144	171	194	214	232	249	265	280	294	307	320

表3 ワイヤー径 2.5mm(断面積 2.804 mm²)

p(kgf):	h(mm) : 落下距離											
質量	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120
5	58	80	97	111	124	135	145	155	164	173	181	189
10	86	116	140	160	178	194	208	222	235	247	259	270
15	108	146	175	199	221	240	258	275	291	305	320	333
20	128	171	205	233	258	280	301	320	338	355	372	387

表4 緩衝材のテスト 19.2kgの重りをワイヤー長さ500mmのところでハンガーに吊す

番号	緩衝材	ワイヤー (mm)	落下 高さ	結果	状況
1	なし	2×500	100	落下	ハンガー内でワイヤー即切断
2	なし	2×500	60	落下せず	8mmすべりハンガー内でワイヤー素線切れ
3	なし	2×500	80	落下	ハンガー内でワイヤー伸び切断
4	鉛 8×26 穴4.5	2×500	80	落下	上部フックで6mmの伸び、ハンガー内でワイヤー即切断
5	鉛 8×28 穴5.0	2×500	80	落下	上部フックで6.5mmの伸び、ハンガー内でワイヤー即切断
6	ウレタン 8×30 穴4.0	2×500	80	落下	ハンガー内でワイヤー即切断
7	なし	2×500	80	落下	ハンガー内でワイヤー即切断
8	ワッシャ	2×500	80	落下	ハンガー内でワイヤー即切断
9	ゴム 10個	2×500	80	落下	ハンガー内でワイヤー即切断
10	ばね	2×500	80	落下	ハンガー内でワイヤー即切断
11	ばね	2×500	80	落下	ハンガー内でワイヤー即切断
12	鉛 6×28 穴4.0	2×500	80	落下せず	上部フックで18mmの伸び
13	鉛 7×26 穴4.5	2×500	80	落下	上部フックで8mmの伸び、ハンガー内でワイヤー即切断
14	鉛 10×32 4.9g	2×500	80	落下せず	上部フックで11mmの伸び、ハンガー内でワイヤー素線切れ
15	鉛 10×32 4.9g	2×500	80	落下せず	上部フックで13mmの伸び
16	鉛 6×29.6 穴3.8 4.9g	2×500	80	落下せず	上部フックで16mmの伸び、ハンガー内でワイヤー素線切れ
17	鉛 6×29.2 穴3.8 5.3g	2×500	100	落下	上部フックで16mmの伸び、ハンガー内でワイヤー切断
18	ハンガーに細工	2×500	80	落下せず	ハンガーが55mm滑り7×7の内4本ワイヤー切断
19	ハンガーに細工	2×500	80	落下	ハンガー内でワイヤー即切断 二重巻き
20	ハンガーに細工	2×500	80	落下せず	ハンガーが155mm滑り7×7の内6本ワイヤー切断 三重巻き
21	鉛	2.5×500	100	落下せず	上部フックで15mmの伸び、ハンガー9mm滑る ワイヤーにへこみ
22	なし	2.5×500	100	落下	ハンガー内でワイヤー即切断(古いハンガー使用)
23	なし	2.5×500	100	落下せず	ハンガー5mm滑る ワイヤー素線切れ
24	ハンガーに細工	2×500	80	落下	ハンガー内でワイヤー即切断

註:

1) 全国美術館会議「阪神大震災美術館・博物館総合調査 報告Ⅲ」, p.13-30,1996年

2) ワイヤーに掛かる衝撃的な応力は下記の式から求められる((株)村多喜彌商店から提供された式)。

$$\sigma = p(1 + \sqrt{1 + 20000ha/pl}) \text{kgf}$$

p: 質量 kgf

L: ワイヤー長さ mm

h: 落下距離 mm

a: ワイヤー断面積 mm²

縦弾性係数: 98000

$$1 \text{ Mpa} \approx 0.102 \text{ kg}$$

$$\cdot \text{静荷重での断面応力 } \sigma a (\text{Mpa/mm}) = 9.8p/a$$

$$\cdot \text{静荷重でのワイヤー伸び } \delta a (\text{mm}) = \sigma a \times L / \text{縦弾性係数}$$

$$\cdot \text{落下衝撃応力 } \sigma c (\text{Mpa/mm}) = \sigma a \{1 + \sqrt{1 + (2h/\delta a)}\}$$

$$\cdot \text{ワイヤー1本の断面にかかる落下衝撃応力 } \sigma (\text{kgf}) = \sigma c \times a / 9.8$$

3) 実際にはワイヤーを吊しているレールや、レールを固定している骨材、額の吊り金具(ヒートン)などが落下の衝撃加重を吸収するので、理論値より距離は長くなることが展示室で確認された。このことから複合的に衝撃を軽減する考察の可能性が示唆される。

古賀春江関連記事目次(1957年—1990年)
後藤純子

凡例

- 1) 本目次は、昭和32年から石橋美術館において作成し所蔵している新聞切り抜き帳の中から古賀春江に関する記事を採用し、昭和32年1月から平成2年12月までの期間に限って一覧表としたものである。なお、石橋美術館所蔵の新聞切り抜き帳における新聞記事の収集状況と整理法、ならびに坂本繁二郎関連記事目次については『館報』第42号～第44号(註1)で、また青木繁関連記事目次については『館報』第45号～第46号(註2)で報告してきた。
- 2) 収録紙は当初『朝日新聞』『毎日新聞』『西日本新聞』『フクニチ新聞』の4紙で、昭和40年1月から『読売新聞』が、昭和59年4月から『日本経済新聞』が加わり、平成4年4月以降『フクニチ新聞』が休刊となり、現在5紙を購読している。購読紙以外で外部から入手し、切り抜き帳に張り込んだ関連記事も目次に掲載した。
- 3) 本目次の記載については以下のとおりとした。
 - ① 記事の順序は発行年月日順とし、同じ日付の場合は新聞紙名の50音順とした。
 - ② 「夕刊」の項目は採取した記事に夕刊である記述があったものである。切り抜き帳は当初、新聞紙名と日付のみ採取した記事に記載していたので、朝・夕刊の別、地方版などに関するデータをとることができなかった。
 - ③ 「切抜帳」の項目は切り抜き帳の年次と分冊数次を表したものである。切り抜き記事は当初、内容分類に従い数冊に分けて製本されているため、日付順に配列すると分冊数次が前後する場合もある。
 - ④ 「執筆者」の項目は記事中の表記に従ったが、(談)などの記載を補ったものもある。
 - ⑤ 「見出し」の記載については原則として記事の表記に従い、大見出し、小見出しの順に記載したが、「見出し」を読むだけでおおよその内容を把握できることを配慮し、順序を変えて記載したものもある。また、見出しが多数ある場合など、いくつかの見出しを省略したものもある。コラム記事に関してはコラム名をく)で表した。連載記事は連載番号を()に入れた。

⑥ コラム名や見出しだけでは内容がまったく不明と思われる記事には、本文の一部を引用したものもある。また、見出しのうしろに(社告)〈展覧会告示〉など記事にはない記載を補ったものもある。

⑦ 記事の見出しの中には明らかに誤植と思われるものがあつたが、記事の表記どおりに記載した。また、切り抜き記事に記載された新聞紙名や日付の中にも誤りと思われるものもあつたが、これも切り抜き帳の記載どおりとした。また、連載記事の中には連載番号よりみて採取漏れとみられる記事もあるが、これを原紙や他の資料等によって補うことはしなかった。

(ごとうじゅんこ 石橋美術館)

註:

- 1) 後藤純子、植野健造「石橋美術館所蔵新聞切り抜き帳について 附：坂本繁二郎関連記事目次(1957年-1969年)」『プリチストン美術館 石橋美術館 館報』第42号、平成6年10月
後藤純子、植野健造「坂本繁二郎関連記事目次(1970年-1980年)」『プリチストン美術館 石橋美術館 館報』第43号、平成7年12月
後藤純子、植野健造「坂本繁二郎関連記事目次(1981年-1990年)」『プリチストン美術館 石橋美術館 館報』第44号、平成8年11月
- 2) 後藤純子「青木繁関連記事目次(1957年-1980年)」『プリチストン美術館 石橋美術館 館報』第45号、平成9年11月
後藤純子「青木繁関連記事目次(1981年-1990年)」『プリチストン美術館 石橋美術館 館報』第46号、平成10年10月

古賀春江関係記事目次(1957年—1990年)

	新聞紙名	発行年月日	夕刊	切抜帳	執筆者	見出し
1	西日本	1957年06月27日		1957-1	平	らくがき文化地理 九州山口 (27) 筑後
2	西日本	1958年02月19日		1958-1		愛弟子故古賀画伯の墓参り 洋画の石井柏亭画伯久留米へ
3	西日本	1958年09月16日		1958-3		新刊紹介 筑後人の文芸雑誌『爐』第4号
4	西日本	1959月02月21日		1959-1		筑後平野 その(40) 郷土の先輩 (上) 偉大な三人の画家 坂本繁二郎,青木繁,古賀春江
5	朝日	1959年08月23日		1959-2	兵	重点的な選択40点 「日本近代洋画の流れ」展
6	毎日	1959年11月16日		1959-1		明善校 (22) 卒業生たち 画家
7	朝日	1960年04月19日		1960-3	滝口修造	超現実絵画の展開
8	朝日	1960年09月18日		1960-3	中村太次郎	〈私のコレクション〉 五十余年の歴史のある私の「清力美術館」には三十四点の絵が飾ってある。…
9	フクニチ	1960年11月07日		1960-2		明治・大正・昭和 秀作美術展 新春早々,福岡市で開幕 〈社告〉
10	フクニチ	1961年01月25日		1961-2		紙上でみる秀作美術展 (11) キリスト誕生 古賀春江
11	西日本	1961年02月08日		1961-1		久留米 有馬記念館(篠山城跡)は二階の郷土資料室で久留米出身の三人の洋画家坂本繁二郎,故古賀春江,青木繁の初期作品(いずれも未公開)を展示… 〈展覧会告示〉
12	毎日	1961年05月09日		1961-3	山上高寛	〈火曜文芸〉 筑後の風土と芸術
13	フクニチ	1963年02月09日		1963-1		郷土作家の作品展示 久留米 街の愛好者が個人美術館
14	西日本	1963年03月01日		1963-5		『万鉄五郎・小出権重・古賀春江』 日本近代絵画全集9 〈書評〉
15	朝日	1963年03月03日		1963-1		「名画家出よ」と美術館 久留米 町の社長さん奮発 無料開放,個展の場にも
16	毎日	1963年03月12日		1963-1		二十一日から閉館 久留米の緒方コレクション
17	朝日	1963年03月22日		1963-1		現れよ!名画家
18	西日本	1963年03月22日		1963-4	二宮冬鳥	郷土画家の傑作を多数 緒方コレクション
19	フクニチ	1963年03月22日		1963-1		郷土の青木繁らの作品展示 久留米 緒方さんの個人美術館開く
20	毎日	1963年06月11日		1963-2	中川紀元	ただようペーソス 古賀春江展
21	毎日	1964年02月20日		1964-1		古賀春江の名画紛失 終戦時,久留米市役所から
22	西日本	1964年06月18日		1964-2	古賀政男	絵になった「酒は涙か溜息か」
23	毎日	1965年07月25日		1965-4		油絵 草創期から現代まで 「日本の名画」(洋画100選) 第一巻 三一書房 〈書評〉
24	読売	1965年09月21日		1965-3	中村義一	日本でのおいたち 前衛絵画の先駆者たち展
25	読売	1965年11月16日		1965-3	増田洋	注目の作品ずらり 「大原コレクション,近代日本の洋画名作展」
26	西日本	1966年01月18日		1966-2	坂宗一	わが師友 (1) 有名な『埋葬』で二科賞 不思議な魅力の古賀春江
27	西日本	1966年01月25日		1966-2	坂宗一	わが師友 (2) 才能プラス人柄・金 古賀氏 四年めにもう受賞
28	西日本	1966年02月01日		1966-2	坂宗一	わが師友 (3) 仕事ゆえ“恋”許す 古賀好江夫人 負けん気ながらガマン
29	西日本	1966年02月08日		1966-2	坂宗一	わが師友 (4) 一人静かに 春江 夫人に頼まれ動静さぐる
30	西日本	1966年02月15日		1966-2	坂宗一	わが師友 (5) “悲しい女の姿” 飛び出ても気になる夫
31	西日本	1966年02月22日		1966-2	坂宗一	わが師友 (6) お家騒動に乗らず 二科大スターの賞録
32	西日本	1966年03月01日		1966-2	坂宗一	わが師友 (7) あきれた小娘S 古賀氏宅をまかり通る
33	西日本	1966年03月08日		1966-2	坂宗一	わが師友 (8) 孤独性は持ち前 “かがし”のごと立つとる
34	西日本	1966年03月15日		1966-2	坂宗一	わが師友 (9) 小品に現われた本質 夫婦ゲンカ仲裁の思い出
35	西日本	1966年03月22日		1966-2	坂宗一	わが師友 (10) 落ち入るように永眠 遺作となった“サーカス景”

36	毎日	1966年03月25日		1966-1		戻らぬ名画二点 清力美術館
37	西日本	1966年04月21日		1966-2	野田宇太郎	西日本文学散歩 (71) 筑後路 (四) 画家の墓
38	西日本	1966年06月13日		1966-3	山上高寛	チャリティ美術展を見て
39	朝日	1967年04月17日		1967-3		原色明治百年美術館 〈書評〉
40	毎日	1967年04月26日		1967-3	坂宗一	春江さんのこと 古賀春江初期秀作展に寄せて
41	毎日	1967年04月28日		1967-3		若き日しのぶ貴重な回顧展 きょうから古賀春江初期秀作展
42	西日本	1967年05月01日		1967-3		〈ふるさと風信〉 美術 古賀春江初期秀作展
43	毎日	1967年05月01日		1967-1		古賀春江初期秀作展 〈展覧会告示〉
44	西日本	1967年05月02日		1967-1		孤独…確実な描写 久留米 古賀春江の初期作品展
45	毎日	1967年05月04日		1967-3		古賀春江初期秀作展
46	毎日	1967年05月05日		1967-3	(座談会) 豊田勝秋 坂宗一 園田真幸 古賀耕児	古賀春江の人間と作品 初期秀作展に寄せる座談会
47	西日本	1967年05月14日		1967-1		明治百年洋画展 〈社告〉
48	フクニチ	1967年07月14日		1967-1		名画や彫刻を公開 無料で7年間 惜しむ各地のファン 姿を消した緒方美術館 久留米
49	西日本	1967年10月16日		1967-2	谷口記者	坂本繁二郎の道 (43) 古賀春江 宿命的な幻想の絵 死の前に別れを告げる
50	西日本	1967年10月23日		1967-2	谷口記者	坂本繁二郎の道 (44) 風土 たくましい筑後 きびしいゆえの人ざらいに
51	西日本	1968年06月03日		1968-3	岸田勉	脈打つ伝統への自負 明善校出身の美術家たち
52	読売	1968年07月02日		1968-1		青木繁など115点 八幡で九州異色画家展
53	西日本	1968年07月10日		1968-3		九州の異色画家展 〈展覧会告示〉
54	読売	1968年07月10日		1968-3		青木繁らの113点出品 「九州の異色画家展」
55	朝日	1968年07月12日		1968-3		多彩にしてなお新鮮 アウトサイダーの八人 「九州の異色画家展」
56	毎日	1968年07月15日		1968-3		取巻は瑛九、荒井龍男の作品 九州の異色画家展
57	西日本	1968年07月22日		1968-3	谷口	印象的な横手、野田 九州の異色画家展
58	西日本	1968年10月29日		1968-1		九州・沖縄芸術祭 きょう開幕 九州の画家たち展 開いた日本の洋画史 “隠れたる” 名作68点
59	西日本	1968年11月01日		1968-1		栄光の群像 (4) 近代日本の洋画史をひらいた九州の画家たち展から
60	朝日	1968年11月02日		1968-3	弘	近代洋画と九州人 栄光の座から不振へ
61	西日本	1969年10月18日		1969-1		人気呼ぶ明善出身画家展
62	読売	1969年10月18日		1969-1		鬼才・青木繁など展示 明善高出身者の作品展開く
63	朝日	1970年05月13日		1970-2		輝かしい洋画畑の人脈 九州出身近代作家秀作展
64	西日本	1971年02月05日		1971-1		もつてのほか 偽作扱い 数々の傑作残す 門下生千人 筑後画壇の指導者 再評価される不遇の画家松田諭晶
65	西日本	1971年02月09日		1971-3		根づく (2) 筑後の美術 〈種子〉
66	西日本	1971年02月12日		1971-3		根づく (4) 筑後の美術 〈集団パワー〉
67	読売	1972年01月18日		1972-3		近代日本の素描展 奈良県文化会館
68	フクニチ	1972年08月24日		1972-3		三時代の名作を一堂に 八幡美術館で美術展
69	読売	1972年09月11日		1972-3	西	見事な美術史の流れ 明治・大正・昭和名作美術展
70	毎日	1972年09月16日		1972-2		明治 大正 昭和 名作美術展
71	西日本	1973年01月23日		1973-1		〈文化短信〉 東亜画廊が開業
72	西日本	1973年04月05日		1973-1		久留米に本格的な画廊
73	毎日	1973年04月06日		1973-1		筑後美術の伝統守ろう

74	西日本	1973年06月19日		1973-2	朝日晷	百年の美の系譜 近代洋画を築いた五十人展から (7) 変転激しい“前衛” 古賀春江『窓外の化粧』(1932年)
75	西日本	1973年06月20日		1973-2		美術の流れまざまざ 『近代洋画を築いた50人展』開く
76	フクニチ	1973年06月23日		1973-2		近代洋画の50人展 巨匠が描く明治100年 県立文化会館 具象から抽象まで
77	西日本	1973年06月24日		1973-2		古賀春江の名画 40年ぶり初公開 力感あふれる抽象画の先駆 近代洋画を築いた五十人展
78	西日本	1973年06月26日		1973-4		好評開催中、来月1日まで 全国美術館秘蔵作品を中心に 近代洋画を築いた50人展 〈社告〉
79	朝日	1973年06月27日		1973-4	源	完全日本化にはまだ時日 近代洋画を築いた50人展
80	西日本	1973年06月28日		1973-4	青木寿	赤裸々な個性 『五十人展』を見て
81	西日本	1974年03月23日		1974-1		名品、珍品ずらり 久留米市の永田さん ビル新築を機にギャラリー開く
82	西日本	1974年04月05日		1974-2		〈ふるさと風信〉 人 久留米を訪れる東郷青児氏(洋画家、二科会会長)
83	フクニチ	1974年12月01日		1974-3		世界の名画公開 マネとマネ婦人像など600点 北九州市立美術館 14日から収蔵品の展示会
84	毎日	1974年12月14日		1974-3		「マネとマネ夫人像」 下ガの話題作公開 北九州市立美術館開館記念所蔵品展
85	西日本	1974年12月17日		1974-4		古賀春江 牛を焚く 詩画集 〈広告〉
86	読売	1974年12月17日		1974-3	A	系統だった特色を 見ごたえあるピカソ100点 北九州市立美術館所蔵品展
87	朝日	1974年12月18日		1974-3	源	全国有数の豊かさ 北九州市立美術館展
88	西日本	1975年01月05日		1975-4		新刊 古賀春江詩画集 野田宇太郎編 牛を焚く 東出版 〈広告〉
89	西日本	1975年02月03日		1975-4		古賀春江詩画集『牛を焚く』 画家の心を知る 〈書評〉
90	読売	1975年04月18日		1975-3		古賀春江生誕80年 今秋福岡で回顧展
91	朝日	1975年06月27日		1975-5	倉本和美記者	同窓会 (1) 明善高校 石橋美術館
92	毎日	1975年08月30日		1975-2		〈近況〉「古賀春江回顧展」に全力 福岡県文化会館学芸員 古川智次氏
93	西日本	1975年10月01日		1975-2		〈人・仕事〉“古賀春江展”を準備 徹底的に足跡を追う 福岡県文化会館学芸員 古川智次氏
94	毎日	1975年10月09日		1975-1		福岡で大規模展 来月9日から 久留米が生んだ鬼才 古賀春江
95	フクニチ	1975年10月10日		1975-1		未公開の170点を展示 地元が生んだ天才画家・古賀春江 福岡県文化会館で来月9日から回顧展
96	読売	1975年10月10日		1975-1		鬼才、古賀春江ふるさと展 未公開含め170点展示 来月9日から県文化会館で
97	フクニチ	1975年10月11日		1975-1	笠井進記者	筑後の生んだ鬼才 よみがえる古賀春江 (1) 前衛絵画の先駆者 貫く詩情、幻想性の世界
98	フクニチ	1975年10月17日		1975-1		絵と詩の関係は？ 画業解明の貴重な資料 古賀春江の追悼「詩画集」 筑後の坂さん保管
99	朝日	1975年10月18日		1975-1		洋画壇の鬼才 古賀春江回顧展開催へ 来月9日から県文化会館 埋もれた作品発掘 3年かかり 未公開も100点
100	西日本	1975年10月25日		1975-3		先駆的画業を一堂に 来月9日から県文化会館で 古賀春江回顧展
101	フクニチ	1975年10月25日		1975-1	笠井進記者	筑後の生んだ鬼才 よみがえる古賀春江 (3) 原点は夢二の絵 夢幻的な代表作「煙火」
102	フクニチ	1975年11月01日		1975-1	笠井進記者	筑後の生んだ鬼才 よみがえる古賀春江 (4) 本質的には詩人 前衛詩、文壇に衝撃

103	朝日	1975年10月31日		1975-1		年表的な整理に物足りなさ 読み取れぬ攻撃的精神 シュルレアリスム展から
104	朝日	1975年11月05日		1975-1		〈展覧会〉▽古賀春江回顧展
105	西日本	1975年11月05日		1975-4		古賀春江詩画集 東出版 〈広告〉
106	朝日	1975年11月06日		1975-1		古賀春江回顧展 〈展覧会告示〉
107	フクニチ	1975年11月08日		1975-1	笠井進記者	筑後の生んだ鬼才 よみがえる古賀春江 (5) 詩の蓄積の上に表現 シュルレアリスムの草分けに
108	毎日	1975年11月08日		1975-1		詩情と幻想—古賀春江回顧展 〈展覧会告示〉
109	読売	1975年11月08日		1975-2	榎橋満帆	師・古賀春江の思い出 忘れられないデッサンの力
110	毎日	1975年11月09日		1975-1		きょうから「大回顧展」 変ぼうの画家“古賀春江”
111	朝日	1975年11月12日		1975-3	源	純な詩的文学性 古賀春江回顧展
112	フクニチ	1975年11月14日		1975-1		幻想と詩情に酔う 盛況の「古賀春江回顧展」
113	毎日	1975年11月14日		1975-1		福岡 古賀春江回顧展 〈展覧会告示〉
114	フクニチ	1975年11月15日		1975-1	笠井進記者	筑後の生んだ鬼才 よみがえる古賀春江 (6) 死ぬまで絵と詩追求 常に芸術の頂点めざす
115	読売	1975年11月17日		1975-3	健	卓越した絵画感覚 純粹さほとばしる前衛 古賀春江回顧展
116	フクニチ	1975年11月20日		1975-3	治	〈鑑賞席〉上下対称の構図—古賀春江展から
117	西日本	1975年11月21日		1975-3	野田宇太郎	ポエジーと広がり 故郷に古賀春江展をみる
118	毎日	1975年11月25日		1975-3	田中幸人記者	異色の足跡たどる 前衛絵画の先駆者 古賀春江の回顧展
119	フクニチ	1975年11月26日		1975-1		人気の「古賀春江回顧展」すでに1万人突破 カタログも売り切れ
120	朝日	1975年12月03日		1975-1		文化展望 NHKテレビ(後10.15) 幻想の画家 古賀春江の世界 〈番組案内〉
121	西日本	1975年12月03日		1975-1		文化展望 『幻の画家』—古賀春江の世界— NHK総合テレビ=後10.15 〈番組案内〉
122	西日本	1975年12月16日		1975-3	次	〈風車〉古賀春江と青木繁
123	朝日	1975年12月30日		1975-4		芸術新潮 1月号 新潮社 〈広告〉
124	西日本	1976年02月20日		1976-4	封車	〈風車〉古賀春江の図録
125	西日本	1976年02月28日		1976-4	二宮冬鳥	写実の極致は抽象に通ず 坂本繁二郎語録にみる
126	西日本	1976年05月19日		1976-4	三木多聞	自己創造の契機とし得たか 『戦前の前衛展』を見て
127	朝日	1976年05月21日		1976-4		欧米美術との蜜月時代 歴史語る「戦前の前衛展」
128	毎日	1976年06月10日		1976-4		戦前の前衛展“激動の時代”示す94作家 おそろしく多様に開花
129	西日本	1976年06月23日		1976-1		古賀春江資料展 〈展覧会告示〉
130	朝日	1976年06月26日		1976-1		古賀春江資料展 〈展覧会告示〉
131	読売	1976年07月06日		1976-1		初期水彩中心に57点 古賀春江の資料展
132	朝日	1976年07月17日		1976-1		九州画廊開廊3周年記念展 〈展覧会告示〉
133	朝日	1976年07月17日		1976-4	源	詩的な幻想性と抜群の色彩感覚 古賀春江資料展
134	フクニチ	1976年07月17日		1976-4	治	〈鑑賞席〉天才の内面の構想 古賀春江資料展から
135	フクニチ	1976年07月21日		1976-1		古賀春江資料展 〈展覧会告示〉
136	フクニチ	1976年11月06日		1976-1		市民に豪華美術館プレゼント 私財3000万円投じ 古賀春江ら70点展示
137	読売	1977年10月15日		1977-3		随所にえり抜きの作品 日本洋画巨匠展
138	西日本	1977年12月12日		1977-2		“病理”から芸術解明 古賀春江 中野嘉一著 金剛出版 〈書評〉
139	朝日	1978年11月17日		1978-1		郷土出身の画家テーマに 福岡で美術座談会
140	朝日	1978年11月22日		1978-2		美術と郷土のかかわりは? 福岡ユネスコ協会主催で座談会 青木・坂本…五画家を中心に

141	西日本	1978年11月22日		1978-2		美術と風土を考える座談会 福岡出身画家をめぐって
142	読売	1978年11月22日		1978-2		作家とふるさと 美術と風土探る 福岡でシンポジウム
143	毎日	1979年04月27日		1979-3		古賀春江の「曲ろくにつく」も 石橋美術館あすから公開
144	西日本	1979年05月11日		1979-3	岸田勉	美術館の収集と企画 清力コレクションの寄託によせて
145	朝日	1979年07月01日		1979-3		7日から夏期美術講座開催 石橋美術館 〈講座告示〉
146	読売	1979年07月02日		1979-3		7日から夏季講座 石橋美術館 〈講座告示〉
147	読売	1979年07月06日		1979-3		石橋美術館夏季美術講座 〈講座告示〉
148	西日本	1979年10月24日		1979-1		福岡市美術館収蔵品から 『生誕』(洋画) 古賀春江
149	西日本	1979年10月26日		1979-3		筑後は絵のふるさと 輩出した有名画人 在野精神にあふれて
150	読売	1979年11月04日		1979-1		いま、巨匠との出会い 息づくミロの代表作 ふるさと画家もずらり
151	西日本	1980年01月23日		1980-5		郷土色もくつきりと 改装3年目の石橋美術館 充実した作品、入場者も増える
152	西日本	1980年02月24日		1980-2		青木、坂本ら未公開作中心 来月、郷土出身画家の洋画展
153	フクニチ	1980年02月24日		1980-2		郷土の画家“総出演” 「郷土の物故作家にみる風土と人脈」展 2日から福岡県文化会館
154	朝日	1980年02月29日		1980-2		近代洋画と福岡県 豊かな土壌探ろう 郷土の画家が一堂に 初公開の作品いっぱい 2日から福岡市・県文化会館
155	フクニチ	1980年03月06日		1980-2		ふるさと美術人脈 近代洋画と福岡県 (4) “画風”に生れた土の香り
156	朝日	1980年03月08日		1980-2	源	地域に密着した好企画 福岡県文化会館特別展「近代洋画と福岡県」
157	読売	1980年03月08日		1980-2	健	珍しい絵が勢ぞろい 「近代洋画と福岡県」展
158	フクニチ	1980年03月10日		1980-2		ふるさと美術人脈 近代洋画と福岡県 (6) 基礎固まった明治40年代 若い才能もぞくぞく登場
159	読売	1980年03月12日		1980-3		櫛の国の画家たち 吉田浩著 西日本新聞社刊 〈書評〉
160	西日本	1980年03月13日		1980-2		福岡県出身巨匠六人展
161	フクニチ	1980年03月13日		1980-2		ふるさと美術人脈 近代洋画と福岡県 (8) 渡仏し自己発見 坂本繁二郎
162	毎日	1980年03月13日		1980-1	田中幸人記者	風土と人脈の再評価 二つの企画展の意味 「近代洋画と福岡県」 「大分の南画展」 共通する反骨の土壌
163	西日本	1980年03月14日		1980-1	古川智次	三地域の人脈たどる 『近代洋画と福岡県』展
164	フクニチ	1980年03月14日		1980-2		福岡県出身巨匠六人展
165	西日本	1980年03月17日		1980-3	岸田勉	迫力ある克明な資料 櫛の国の画家たち 松田諦品物語 吉田浩著 〈書評〉
166	フクニチ	1980年03月17日		1980-2		ふるさと美術人脈 近代洋画と福岡県 (9) “独立の児島” スタート 昭和初期
167	読売	1980年04月15日		1980-1	健	美に生きる (13) 坂宗一 土に生きる夢とポエジーの世界
168	西日本	1980年05月07日		1980-5		10日から新収蔵品展 石橋美術館 坂本、古賀、ルオー作品
169	朝日	1980年05月08日		1980-5		新収蔵品20点を展示 10日から石橋美術館で 石橋コレクション 古賀春江、坂本繁二郎
170	フクニチ	1980年05月13日		1980-5		石橋コレクション新収蔵品展
171	西日本	1980年10月23日		1980-5		絵画貸し出し急増 石橋美術館 美術館新築ラッシュで
172	フクニチ	1980年11月03日		1980-3		絵を描くところ 匠秀夫著 岩波書店書店 新書刊 〈書評〉
173	西日本	1981年04月03日	夕	1981-1		前衛画壇の先駆者 古賀春江その詩情と幻想 5日から郷土で遺作展 実ったファンの執念 萩原さん 東奔西走、25点集める 大牟田

174	西日本	1981年04月06日		1981-1		古賀春江展 〈展覧会告示〉
175	毎日	1981年04月07日		1981-1		詩情と幻想 古賀春江展 大牟田・未発表水彩画も
176	読売	1981年04月07日		1981-1		異色画家 故古賀春江 郷土で初の作品展 「今,再評価の時」 “熱烈ファン”企画に奔走 大牟田
177	読売	1981年04月07日	夕	1981-1		古賀春江展 〈展覧会告示〉
178	西日本	1981年04月08日		1981-1		幻の名画も展示 大牟田市の「いづみ画廊」 話題呼ぶ古賀春江展
179	フクニチ	1981年04月08日		1981-1		注目の古賀春江遺作展 大牟田の画廊で展示
180	読売	1981年04月11日	夕	1981-1		古賀春江遺作展 モダニズムの先駆者
181	西日本	1981年04月19日		1981-3	谷口編集委員	25周年迎えた石橋美術館 きらめく青木,坂本,古賀 全国屈指のコレクション 九州が生んだ珠玉作ずらり
182	フクニチ	1981年06月22日		1981-3		〈施設あんない〉 石橋美術館 久留米市 目玉は青木繁や坂本繁二郎
183	西日本	1982年03月20日	夕	1982-2		筑後画壇の系譜たどる 「近代洋画と久留米」展
184	毎日	1982年03月20日		1982-2		青木繁 坂本繁二郎 輝く筑後洋画壇源流を探ると… 「近代洋画と久留米」展始まる
185	読売	1982年03月20日		1982-2		「近代洋画と久留米」展始まる 初日から美術ファンどっと 石橋美術館
186	読売	1982年03月20日	夕	1982-2		大正期のロマン漂う 近代洋画と久留米展
187	西日本	1982年03月21日		1982-2		古賀春江の力作など 「近代洋画と久留米展」始まる 28日まで石橋美術館
188	フクニチ	1982年03月21日		1982-2		「近代洋画と久留米展」始まる 石橋美術館 “来日会”の消息たどり83点
189	フクニチ	1982年07月17日		1982-4		フジカワ画廊創業45周年記念展
190	読売	1982年08月27日		1982-4		夏休みギャラリー (10) 石橋美術館 メルヘン 不気味さもただよう
191	西日本	1982年10月06日		1982-5	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉 美術館収蔵品より (1) 古賀春江《地蔵尊》 前衛絵画の一端になう 夫人,知友に見守られて逝く
192	西日本	1982年10月13日		1982-5	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉 美術館収蔵品より (2) 古賀春江《竹やぶ》 親の反対押し切り上京 久留米時代に最初の師と出会う
193	西日本	1982年10月20日		1982-5	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉 美術館収蔵品より (3) 古賀春江《曲糸につく》 緊張度の高い色彩と構図 大正10年-12年, 仏教に題材求める
194	西日本	1982年10月27日		1982-5	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉 美術館収蔵品より (4) 古賀春江《少女》 「芸術の本質は超現実」
195	西日本	1982年11月03日		1982-6	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉 美術館収蔵品より (5) 古賀春江《厳しき伝統》 作品理解の手だて 「超現実主義私感」
196	西日本	1982年11月10日		1982-6	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉 美術館収蔵品より (6) 古賀春江《単純な哀話》 詩と作品の関連性
197	西日本	1982年11月17日		1982-6	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉 古賀春江《素朴な月夜》 冷やかな清澄さ
198	西日本	1982年12月01日		1982-6	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉 (8) 古賀春江《誕生》 絵画と詩は全く別
199	西日本	1982年12月08日		1982-6	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉 古賀春江《海女》 「立体派」の代表作
200	西日本	1982年12月15日		1982-6	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉 (10) 古賀春江《二階より》 殻破る大胆な構図
201	西日本	1982年12月22日		1982-6	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉 (11) 古賀春江《サーカスの景》 静寂で空虚な絶筆

202	西日本	1983年05月08日		1983-3	中村善勇(談) 吉村信二記者(筆)	ちくご対談 大川の文化向上に尽力 里子が戻った喜び 青木、坂本らの名作も
203	西日本	1983年06月24日		1983-3		郷土美術品収集ヘダッシュ 5年計画,5億円 まず古賀 春江作「漁夫」購入 県教委
204	読売	1983年11月30日	夕	1983-7		国宝・重文含め120点 下関美術館開館記念特別展 「海・ そのイメージと造形」
205	読売	1984年01月08日		1984-1	芥川喜好記者	窓外の化粧 古賀春江 三十八歳駆け抜けた“詩人”
206	朝日	1984年06月21日		1984-6		再開1年で来館8,000人 頑張る民間の清力美術館 青木・ 坂本・東郷らの絵鑑賞
207	フクニチ	1984年08月27日		1984-8		日本洋画の三代(明治,大正,昭和)展 来月22日から石橋 美術館
208	読売	1984年09月05日		1984-9		青木繁 坂本繁二郎 古賀春江 郷土出身画家の作品一 堂に 45人の106点を展示 22日から「日本洋画の三代」 石橋美術館
209	読売	1984年09月15日		1984-9		久留米出身の天才画家 古賀作品がどんちょうに 「遊園地」 基に米春には完成 建設中の福祉施設飾る
210	朝日	1984年09月21日		1984-9		青木繁など45人の作品106点 あすから日本洋画三代展 久留米・石橋美術館
211	西日本	1984年09月28日		1984-9		石橋コレクション一堂に 日本洋画の三代—明治・大正・ 昭和—展 来月28日まで石橋美術館
212	西日本	1984年11月25日		1984-11		本と人 劇的な人生に共感 「写真と空想 古賀春江」の 編者 古川智次
213	西日本	1985年03月09日		1985-3		〈ギャラリー〉 繁二郎の「放牧二馬」も 福岡が生んだ洋 画家たち
214	日本経済	1985年04月01日		1985-4		〈文化往来〉 伊,独で日本近代洋画展
215	日本経済	1985年09月23日		1985-9		〈文化往来〉 “アトリエ村”展
216	フクニチ	1985年11月04日		1985-11		美術館がオープン 前「文化会館」装いも新た 郷土ゆかり の23氏作品 現代美術の記念展
217	西日本	1985年11月08日	夕	1985-11	東珠樹	若き日の古賀春江 新発見の作品をめぐって
218	朝日	1986年01月18日	夕	1986-1		洲之内コレクション展 〈展覧会告示〉
219	西日本	1986年01月25日		1986-1		「古賀春江」のすべてを 4月に展覧会 作品約百二十点 久留米市・石橋美術館
220	西日本	1986年01月29日		1986-1		「海の幸」「放牧三馬」「針仕事」 洋画の絵はかきベスト3 石橋美術館 昨年の販売実績
221	西日本	1986年02月10日	夕	1986-2		70周年記念の二科展 11日-16日 福岡市美術館で 4 部門 約450点 郷土作家の回顧展も
222	西日本	1986年02月13日	夕	1986-2	吉井淳二(談) 谷口編集委員(筆)	自由で清新な二科展 吉井淳二理事長に聞く 常に美術 界の先端に 歴史は70年,精神は青春
223	読売	1986年02月14日	夕	1986-2	健	70周年迎えた二科展 活躍した10人の遺作も
224	西日本	1986年03月06日		1986-3		石橋美術館開館三十周年記念 「古賀春江—前衛画家の歩み」 展 西日本新聞社 〈社告〉
225	西日本	1986年04月09日	夕	1986-4		詩情と悩み—青年画家の一生 古賀春江—前衛の歩み 12日から久留米・石橋美術館
226	朝日	1986年04月11日		1986-4		古賀春江の全容を紹介 あすから作品や資料150点を 石橋美術館
227	フクニチ	1986年04月11日		1986-4		あすから「古賀春江」展 石橋美術館,開館30周年で
228	西日本	1986年04月12日		1986-4		きょうから古賀春江展 石橋美術館で開会式
229	西日本	1986年04月12日	夕	1986-4		古賀春江—前衛画家の歩み 〈展覧会告示〉
230	西日本	1986年04月12日	夕	1986-4		流れるリリシズム 「古賀春江展」始まる
231	読売	1986年04月12日		1986-4		前衛の画家古賀春江展 きょうから石橋美術館 幻想の 水彩など150点

232	西日本	1986年04月13日		1986-4		新鮮さのため息 古賀春江一前衛画家の歩み展始まる 久留米
233	読売	1986年04月15日	夕	1986-4	健	才能の影に漂う苦悩の跡 「古賀春江一前衛画家の歩み」展
234	西日本	1986年04月16日	夕	1986-4		「古賀春江一前衛画家の歩み」展開催記念美術講演会〈講演会告示〉
235	西日本	1986年04月17日	夕	1986-4		古賀春江一前衛画家の歩み 〈展覧会告示〉
236	毎日	1986年04月17日	夕	1986-4	三田晴夫記者	“前衛の諸相”を凝縮 古賀春江展
237	西日本	1986年04月19日	夕	1986-4	杉本秀子	古賀春江の魅力 「前衛画家の歩み」展に際し
238	フクニチ	1986年04月19日		1986-4	井	「古賀春江一前衛画家の歩み」展
239	朝日	1986年04月23日	夕	1986-4	源	半世紀を過ぎた今も生きる批判と先見性 石橋美術館「古賀春江展」
240	西日本	1986年04月24日	夕	1986-4		古賀春江一前衛画家の歩み 〈展覧会告示〉
241	西日本	1986年05月05日		1986-5		ファンの足止める一枚の絵はがき 古賀春江の自画像 前衛画家の歩み展 代表作に劣らぬ人気
242	西日本	1986年05月07日	夕	1986-5		変容重ねた前衛画家 古賀春江一歩み展
243	西日本	1986年05月09日		1986-5		〈春秋〉新緑に包まれた久留米市の石橋美術館。五月の風がさわやか。いま「古賀春江一前衛画家の歩み展」を開催中(18日まで)。…
244	西日本	1986年05月09日	夕	1986-5	縮	〈風車〉 古賀春江の一枚の絵
245	西日本	1986年05月10日		1986-5		古賀春江一前衛画家の歩み展 18日まで久留米市・石橋美術館 油彩や水彩など150点 画業のすべて網羅
246	東京	1986年05月26日		1986-5	阿部信雄	古賀春江展から (1) 単純な哀話
247	東京	1986年05月27日		1986-5	杉本秀子	古賀春江展から (2) 埋葬
248	東京	1986年05月29日		1986-5	杉本秀子	古賀春江展から (3) 月花
249	東京	1986年05月30日		1986-5	杉本秀子	古賀春江展から (4) 鳥籠
250	東京	1986年05月31日		1986-5	阿部信雄	古賀春江展から (5) 公園のエピソード
251	東京	1986年06月01日		1986-5	阿部信雄	古賀春江展から (6) 窓外の化粧
252	日本経済	1986年06月10日		1986-6	滝橋三編集委員	変化激しいモダニズム 古賀春江展
253	西日本	1986年06月23日		1986-6		社説 清力美術館の閉館を惜しむ
254	日本経済	1986年10月04日		1986-11		〈文化往来〉「前衛芸術の日本展」パリで
255	フクニチ	1986年10月04日		1986-10	酒井忠康	近代洋画再考 (22) 第3部 内なる西欧 (6) 絵画と詩で時代を予見 古賀春江「窓外の化粧」
256	西日本	1987年02月03日	夕	1987-2	杉本秀子	パリでみた日本の前衛芸術 ポンピドーセンターの「日本展」
257	読売	1987年04月15日	夕	1987-4	健	物故12作家の本音が見える 春の小品展
258	西日本	1988年01月23日	夕	1988-1	菊畑茂久馬	絶筆いのちの炎 郷土の画家たちの生涯 (14) 古賀春江「サーカスの景」 異端の美を生んだ薄幸の人生
259	朝日	1988年03月05日	夕	1988-3		風土と美術の関係は
260	西日本	1988年03月17日	夕	1988-3		筑前、筑後 画風を対比 「イメージの風土学」展 県立美術館
261	毎日	1988年03月17日	夕	1988-3	徹	イメージの風土学展 筑前・筑後の近代画家を比較 19日から福岡県立美術館
262	西日本	1988年04月05日	夕	1988-4	後藤耕二	風土と美術 すべて見せる「砂」の筑前 奥深い象徴性「泥」の筑後 「イメージの風土学」展に寄せて
263	読売	1988年04月08日	夕	1988-4	持	豊かな人脈、多彩な画風 「川」の筑後と「海」の筑前 「イメージの風土学」展
264	西日本	1988年05月10日		1988-5		久留米の生んだ画家 故古賀春江の供養塔 墓地裏から本堂前へ 地元有志が協力し移転
265	朝日	1988年07月22日	夕	1988-7	源	1920年代・日本展 工業・都市・国際化… 忠実な鏡のように時代を映し出す
266	日本経済	1989年01月12日		1989-1		名画に見る昭和 そのあけぼの (4) 古賀春江《海》

267	朝日	1989年02月09日	夕	1989-2	米	光芒を放った先鋭 再評価すべき力量 大正末期の「アクション展」
268	日本経済	1989年02月10日		1989-2		〈文化往来〉 意義深い回顧「アクション展」
269	読売	1989年04月24日	夕	1989-4	田辺光子	「近代絵画の流れ展」に思う 選りすぐられた収集 特に日本の部に説得力
270	西日本	1989年05月02日	夕	1989-5		近代絵画の流れ展 多彩なコレクション
271	西日本	1989年05月22日		1989-5	石牟礼道子	鬼気せまる阿修羅の文 絶筆 いのちの炎 菊畑茂久馬著 〈書評〉
272	毎日	1989年06月22日	夕	1989-6		新刊 『絶筆—いのちの炎』菊畑茂久馬著 〈書評〉
273	西日本	1989年10月15日		1989-10		明善美術100年展 西日本新聞社 〈社告〉
274	朝日	1989年10月19日		1989-10		明善高の110周年で絵画展
275	フクニチ	1990年09月05日		1990-9		ふるさとの博物館 石橋美術館 青木繁や坂本繁二郎九州近代画家中心に
276	毎日	1990年09月23日		1990-9		わか街建物散歩 石橋美術館 九州先駆けの重厚さ
277	読売	1990年11月08日		1990-11		九産大コレクション展 収蔵の145点 きょう開幕
278	毎日	1990年12月06日	夕	1990-12		九産大が収蔵作品を初公開

植野健造 (石橋美術館・石橋美術館別館)

展覧会:

- 「没後30年記念 坂本繁二郎」石橋美術館, 1999年7月-9月(企画・構成およびカタログ執筆・編集)

執筆:

- 「坂本繁二郎—その人と芸術をめぐる—」『出品目録・解説』「坂本繁二郎年譜」『没後30年記念 坂本繁二郎』(展覧会カタログ) 石橋美術館, 1999年7月
- 学位請求論文『日本近代洋画の成立 白馬会』により, 九州大学より学位(博士(文学))を取得, 2000年2月24日

口頭発表・講演:

- 「日本の美術展覧会について」(久留米文化振興会'99早朝緑陰講座), 石橋文化センター図書館南側広場, 1999年6月11日
- 「坂本繁二郎の生涯と作品」(特集展示「没後30年記念 坂本繁二郎」開催記念美術講座), 石橋美術館, 1999年7月17日
- 「青木繁の生涯と芸術」(出川市美術館第3回美術史講座「夜的美術館—日本近代美術の幕開け—」), 出川市美術館, 1999年8月3日
- 「坂本繁二郎の生涯と芸術」(アクロス文化であい塾), アクロス福岡, 1999年8月28日
- 「九州の近代美術に関する調査研究 序説」(第33回日本近代美術研究会), 石橋美術館, 1999年8月29日
- 「資料紹介福岡医科大学教授中山森彦宛の美術家の書簡」(第35回日本近代美術研究会), 石橋美術館, 2000年2月26日

出講・対外活動:

- 「研究資料 白馬会関連新聞記事資料」『美術研究』第364号(1996年3月)の一部を, 東京国立文化財研究所のインターネットホームページ内に「白馬会関係新聞記事」として公開(http://www.tobunken.go.jp/kuroda/archive/at_newsp/index.html), 1999年8月
- 東京国立文化財研究所の招聘により, 「日本近代美術の発達に関する明治後期から昭和初期の基礎資料集成(近代美術資料のデータ化と共同利用)」のための研究協議会に出席, 1999年11月25日
- 福岡大学非常勤講師, 「芸術」担当, 1999年4月-2000年3月
- 帝京大学福岡短期大学非常勤講師, 「美術史」担当, 1999年4月-9月
- 九州産業大学非常勤講師, 「日本美術史」担当, 1999年9月-2000年3月
- 柳川市史専門研究員, 1999年4月-2000年3月

貝塚健 (プリチストン美術館)

展覧会:

- 「安井曾太郎の『文藝春秋』表紙絵」プリチストン美術館, 1999年12月-2000年2月(企画・構成およびカタログ執筆・編集)

執筆:

- 「座談会 文化財のあり方・守り方—阪神・淡路大震災を契機に考える」『阪神・淡路大震災以後のある事例—全国美術館会議の場合』「文化財は守れるのか?」『阪神・淡路大震災の検証』文化財保存修復学会, 1999年6月
- 「社会的な存在としての博物館」『博物館概論』(鈴木真理編) 樹村房, 1999年9月(共著)
- 「ボランティア考」『私も美術館でボランティア』淡交社, 1999年11月(共著)
- 「『文藝春秋』をめぐる美術家たちと安井曾太郎」『安井曾太郎の『文藝春秋』表紙絵』(展覧会カタログ) プリチストン美術館・石橋美術館, 1999年
- 「第2回緊急シンポジウム記録」『博物館問題研究』25号(緊急シンポジウム特集号), 1999年12月

口頭発表・講演:

- 「コレクション・マネージメント—プリチストン美術館の事例」(ミュージアムマネージメント学会例会), 国立科学博物館, 1999年6月5日
- 「美術館における危機管理」(文化庁第9回近現代美術専門研修会), 東京国立近代美術館, 2000年1月24日
- 「東京と神戸の間で考えたこと—阪神大震災と美術館」(国際シンポジウム「地震から文化財を守る—阪神・淡路大震災5周年と台湾大地震」), 神戸大学, 2000年1月28日
- 「安井曾太郎と『文藝春秋』」(土曜講座「安井曾太郎の世界」), プリチストン美術館, 2000年2月19日
- 「プリチストン美術館の教育普及活動」(美術館教育普及懇談会「教育普及・プログラムとスタッフ」), 東京国立近代美術館, 2000年3月9日

出講・対外活動:

- 東京大学非常勤講師, 「博物館学特別研究Ⅱ」担当, 1999年10月-2000年3月
- 女子美術短期大学非常勤講師, 「芸術論特講」担当, 1999年4月-7月
- 全国美術館会議, 博物館法検討委員会委員, 1997年6月—継続
- 日本博物館協会, 望ましい博物館のあり方調査研究委員会「機能」ワーキンググループ委員, 1999年9月-2000年3月

吉城寺尚子(ブリヂストン美術館)

展覧会:

- 「神話と聖書の図像学」ブリヂストン美術館, 1999年1月-4月(企画・構成およびカタログ執筆・編集)
- 「ド・ミエの版画」ブリヂストン美術館, 1999年4月-6月(企画・構成)

執筆:

- 「神話と聖書と図像学-その成り立ちと展開-」『神話と聖書の図像学』(展覧会カタログ)ブリヂストン美術館, 1999年

翻訳:

- コリン・アイスラー『ヘルリン美術館の絵画』中央公論新社, 2000年3月(共訳)

出講・対外活動:

- 実践女子大学非常勤講師, 「西洋美術史概論B」『西洋美術史』担当, 1999年4月-2000年3月
- 女子美術大学非常勤講師, 「造形美術研究A」担当, 1999年4月-2000年3月

後藤純子(石橋美術館・石橋美術館別館)

執筆:

- 「第14回見学会・第60回関西西部地区部会月例研究会 滋賀県立琵琶湖博物館情報システムの見学報告」『アート・ドキュメンテーション通信』42号, 1999年7月
- 「第2回研究フォーラム『美術情報の明日を考える』報告-10周年を迎えたアート・ドキュメンテーション研究会-」『カレントアウェアネス』No.246, 2000年2月

田内正宏(石橋美術館・石橋美術館別館)

執筆:

- 「絵を愛でる」『明日に生きる知恵』石風社, 2000年3月(共著)

口頭発表・講演:

- 「坂本繁二郎のフランス留学」(石橋美術館学芸員による美術講座), 石橋美術館, 1999年7月31日
- 「西洋絵画鑑賞入門」(久留米大学公開講座), 久留米大学, 1999年10月12日
- 「青木繁と神話」(「第9回青木繁記念大賞公募展」講演), 石橋美術館, 2000年3月5日

出講・対外活動:

- 久留米大学非常勤講師, 「美術I」担当, 1999年4月-9月 / 「美術II」担当, 1999年9月-2000年3月 / 「博物館情報論」

担当, 1999年4月-9月

- 九州産業大学非常勤講師, 「造形研究」「世界の美術館」担当, 1999年4月-2000年3月
- 西日本短期大学非常勤講師, 「美術史」担当, 1999年9月-2000年3月
- 八女市文化財専門委員

富山秀男(ブリヂストン美術館)

執筆:

- 「昭和20年代院展の苦難と再生」『平山郁夫氏との対談 戦後日本画の回顧』『日本美術院百年史8』大塚巧藝社, 1999年4月
- 「奥谷博の人と芸術」『奥谷博画集』日動出版, 1999年4月
- 「風雲児 横山操の特攻精神」『現代の眼(東京国立近代美術館ニュース)』516, 1999年6・7月号
- 「なせいまりニューアルカーブリヂストン美術館の場合-」『博物館研究』Vol.34No.9, 日本博物館協会
- 「文人 中川一政の遺業」『中川一政展』(展覧会カタログ) 高岡市美術館, 1999年10月
- 「安井曾太郎の表紙絵考-本業と副業の間-」『安井曾太郎の「文藝春秋」表紙絵』(展覧会カタログ) ブリヂストン美術館・石橋美術館, 1999年

口頭発表・講演:

- 「前田寛治のレアリスム」, 愛知県美術館, 1999年7月10日
- 「造形美の探求-残された写真から-」(土曜講座「安井曾太郎の世界」), ブリヂストン美術館, 2000年2月5日

中村節子(ブリヂストン美術館)

執筆:

- 「新しい時代の博物館」『人文学と情報処理』No.24, 1999年9月
- 「フリッツ・ルフとRKD-オランダにおける美術研究ドキュメンテーションの側面」『館報』47号(1998年度), 1999年10月
- 「美術雑誌とars: 日本の美術雑誌について」『arsの現場とツールの諸相II: 1997-98年度アート・ドキュメンテーション研究会ars-WG活動報告』(ars-WG叢書2), アート・ドキュメンテーション研究会, 2000年3月

福満薬子(ブリヂストン美術館)

展覧会:

- 「『レスタンプ・オリジナル』-世紀末フランスの版画革命」ブリヂストン美術館, 2000年3月-6月(企画・構成およびカタログ執筆・編集)

執筆:

- 『幻想の宗教画家－アンソール版画展に寄せて』『中日新聞』1999年5月16日
- 『「レスタンプ・オリジナル」という冒険』『「レスタンプ・オリジナル」－世紀末フランスの版画革命』(展覧会カタログ)ブリヂストン美術館・石橋美術館, 2000年

口頭発表・講演:

- 「ポスト印象派と世紀末」, まなびシティ中央カレッジ, 1999年10月

平間理香(石橋美術館・石橋美術館別館)

執筆:

- 『絵画と絵師』『地図のなかの柳川－柳川市史 地図編－』(柳川市史編集委員会編) 柳川市, 1999年10月

口頭発表・講演:

- 「日本絵画と四季」(石橋美術館学芸員による美術講座), 石橋美術館, 1999年8月7日

出講・対外活動:

- 柳川市史専門研究員, 1999年4月－2000年3月

宮崎克己(ブリヂストン美術館)

執筆:

- 「平川滋子の作品」『Shigeko HIRAKAWA "five red spheres"』展パンフレット, 1999年4月28日
- 「第二回美術史学会東支部シンポジウム－国立博物館, 美術館などの独立行政法人化問題－徹底討議」(シンポジウム記録)『エル・アール』13/14号, 1999年5月1日/7月1日
- 「近代のスポーツとレジャー十選」『日本経済新聞』1999年8月18－20, 23, 24, 26, 27, 30, 31日, 9月1日付朝刊
- 「オルセー美術館展・名作の風景, ルノワール『猫と少年』」『日本経済新聞』1999年11月8日付朝刊
- 「VOCA展1999シンポジウム－2001年絵画の旅」(シンポジウム記録)『エル・アール』17号, 2000年1月1日

口頭発表・講演:

- 「セザンヌと日本」(セザンヌ展記念講演), 横浜美術館, 1999年9月23日
- 「セザンヌ, その人と芸術」(セザンヌ展記念講演), 愛知県美術館, 2000年1月15日
- 「ブリヂストン美術館とセザンヌ」, 群馬県立近代美術館, 2000年2月5日
- 「ヴィジョンの力」(VOCA展2000シンポジウム), 上野の森美術館, 2000年3月15日 (パネリスト: 高階秀爾, 酒井忠康, 建畠哲, 本江邦夫, 山脇一夫, 宮崎克己)

出講・対外活動:

- 東京大学非常勤講師, 「美術館～その歴史・思想・実践」担当, 1999年9月－2000年3月

森山秀子(石橋美術館・石橋美術館別館)

執筆:

- 「安井曾太郎の表紙絵と絵画」『安井曾太郎の「文藝春秋」表紙絵』(展覧会カタログ)ブリヂストン美術館・石橋美術館, 1999年

口頭発表・講演:

- 「画家たちの視点」(石橋美術館学芸員による美術講座), 石橋美術館, 1999年8月21日

出講・対外活動:

- 久留米大学非常勤講師, 「博物館概論」「博物館経営論」担当, 1999年4月－9月
- 九州産業大学非常勤講師, 「博物館概論」担当, 1999年4月－9月 / 「博物館学各論」担当, 1999年4月－2000年3月
- 九州造形短期大学非常勤講師, 「日本美術史」担当, 1999年9月－2000年3月
- 佐賀大学非常勤講師, 「博物館学Ⅲ」担当, 1999年4月－9月

美術館案内 Guide to the Museums

ブリヂストン美術館

所在地 東京都中央区京橋1-10-1 (〒104-0031)
TEL (03) 3563-0241
開館時間 午前10時—午後6時
休館 毎月曜日 年末年始
入場料 個人：
一般 700円 大・高生 500円 中・小生 300円
団体 (15名以上)：
一般 600円 大・高生 400円 中・小生 200円
なお、特別展の場合は変更することがある。

Bridgestone Museum of Art

Address 10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo
104-0031, Japan
Phone: +81(3) 3563-0241
Hours 10:00 to 18:00
Closed on Mondays, New year holidays
Admission Individual:
Adults ¥700; Students ¥500;
Children under 15 ¥300
Group (15 or more):
Adults ¥600; Students ¥400;
Children under 15 ¥200
Different fees will be charged during major
special exhibitions.

石橋美術館

所在地 福岡県久留米市野中町1015 (〒839-0862)
TEL (0942) 39-1131
開館時間 4月—9月 午前9時30分—午後5時30分
10月—3月 午前9時30分—午後5時
休館 毎月曜日 年末年始
入場料 個人：
一般 300円 大・高生 200円 中・小生 150円
団体 (20名以上)：
一般 250円 大・高生 150円 中・小生 80円
なお、特別展の場合は変更することがある。

Ishibashi Museum of Art

Address 1015, Nonaka-machi, Kurume-shi,
Fukuoka-ken 839-0862, Japan
Phone: +81(942) 39-1131
Hours April-September 9:30 to 17:30
October-March 9:30 to 17:00
Closed on Mondays, New year holidays
Admission Individual:
Adults ¥300; Students ¥200;
Children under 15 ¥150
Group (20 or more):
Adults ¥250; Students ¥150;
Children under 15 ¥80
Different fees will be charged during major
special exhibitions.

石橋美術館別館

所在地 福岡県久留米市野中町1015 (〒839-0862)
TEL (0942) 39-0124
開館時間 4月—9月 午前9時30分—午後5時30分
10月—3月 午前9時30分—午後5時
休館 毎月曜日 年末年始
入場料 個人：
一般 300円 大・高生 200円 中・小生 150円
団体 (20名以上)：
一般 250円 大・高生 150円 中・小生 80円
なお、特別展の場合は変更することがある。

Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery

Address 1015, Nonaka-machi, Kurume-shi,
Fukuoka-ken 839-0862, Japan
Phone: +81(942) 39-0124
Hours April-September 9:30 to 17:30
October-March 9:30 to 17:00
Closed on Mondays, New year holidays
Admission Individual:
Adults ¥300; Students ¥200;
Children under 15 ¥150
Group (20 or more):
Adults ¥250; Students ¥150;
Children under 15 ¥80
Different fees will be charged during major
special exhibitions.

石橋財団職員

常務理事 城多 秀年

事務局

局長 朝比奈仙二
総務部長 遠藤 長夫
渡辺 瞳
押本 仁子
小原田鶴子
寺島 弘二
石黒 経子
土屋 益子

ブリヂストン美術館

館長	富山 秀男	学芸課	学芸課長	宮崎 克己
事務部 事務部長	尾島 聰			中田 裕子
	中村 邦子			吉城寺尚子 (2月末日退職)
	金森 大輔			塚田美香子
	渡辺 清美			田中 千秋
	青柳 真子			貝塚 健
	金子 伸子			中村 節子
	原 永子			福満 葉子
	石川 久子			

石橋美術館

館長	喜多村禎男	学芸課	学芸課長	田内 正宏
事務部 事務部長	平井麟之輔			森山 秀子
事務部次長	郷原 耕亮			植野 健造
	野田 朋子			後藤 純子
	富松 弘美			平間 理香
	原 朋子			

石橋美術館別館

館長	(兼)喜多村禎男	学芸課	学芸課長	(兼)田内 正宏
事務部 事務部長	(兼)平井麟之輔			(兼)森山 秀子
事務部次長	(兼)郷原 耕亮			(兼)植野 健造
	(兼)野田 朋子			(兼)後藤 純子
	(兼)富松 弘美			(兼)平間 理香
	(兼)原 朋子			

2000年3月31日現在

